

C A L A M V S G L A D I O F O R T I O R

平成18年度

2006年

文学部
履修案内
(三田キャンパス)

目次

文学部役職者

平成18年度学事関連スケジュール

2・3・4年生 共通【04学則・93学則】

第1 はじめに【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】	3
1 学則について	3
2 履修案内について	3
3 単位について	3
4 卒業に必要な単位数	3
5 分野と分野番号について	4
6 履修申告について	4
7 成績評語と成績質問制度について	5
第2 学籍【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】	6
1 休学	6
2 留学	6
3 退学	8
4 再入学	9
第3 試験・レポート・質問制度・卒業論文 提出要領【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】	10
1 定期試験	10
2 レポート	11
3 追加試験	11
4 再試験	12
5 卒業試験	12
6 試験における不正行為の取り扱いについて	12
7 成績通知	13
8 「成績評語に関する質問制度」について	13
9 卒業論文提出要領	14
第4 諸届・学生証・証明書・掲示板・ その他【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】	15
1 学事センターの窓口	15
2 現住所変更届(本人・保証人)、保証人 変更届、改姓(名)届	15
3 学生証(身分証明書)	16
4 各種証明書(学割証など)	16
5 教室使用申請について	18
6 学生総合センター	19
7 掲示板	23
8 その他	23

2・3年生 共通【04学則】

第5 2・3年生設置科目について 【2・3年生(04学則)】	27
1 総合教育科目および語学科目一覧	27
2 必修語学科目	28
3 総合教育科目	28
4 総合教育科目の系列外科目	28

5 専門教育科目	30
6 自由科目	32

第6 2・3年生での履修にあたっての 注意事項【2・3年生(04学則)】	33
1 一般的注意事項	33
2 2年生への注意事項	33
3 2年生での必修語学の履修方法	34
4 学士入学および2年編入の学生への注意事項	36
5 学芸員資格の取得について	36
6 よくある質問	37

第7 専攻別内規および注意事項 【2・3年生(04学則)】	39
専攻内規	40
B欄による申告方法【2・3年生(04学則)】	76

4年生【93学則】

第8 4年生設置科目について 【4年生(93学則)】	79
1 総合教育科目および語学科目一覧	79
2 総合教育科目の系列外科目	80
3 専門教育科目(選択科目としても 履修できる科目)	81
4 自由科目	84

第9 4年生での履修にあたっての 注意事項【4年生(93学則)】	85
1 一般的注意事項	85
2 学芸員資格の取得について	86
3 よくある質問	87

第10 専攻別内規および注意事項 【4年生(93学則)】	89
専攻内規	90
B欄による申告方法【4年生(93学則)】	129

2・3・4年生 共通【04学則・93学則】

第11 学事Webシステム履修申告(マニ アル)【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】	133
1 学事Webシステムについて	133
2 学事Webシステム操作上の注意	133
3 学事Webシステムによる履修申告方法	134
4 学事Webシステムの操作説明	134
5 履修申告用紙による方法	137

文学部役職者

学部長：関場 武（国文学）

日吉主任：坂上 貴之（心理学）

【日吉】 学習指導主任：大場 茂（自然科学）

学習指導副主任：坂本 光（英米文学）、市川 崇（仏文学）

【三田】 学習指導主任：宮林 寛（仏文学）

学習指導副主任：松浦 良充（教育学）

専攻担任

専 攻	専攻担任					
哲学	中川純男	堀江 聡				
倫理学	谷 寿美	柘植尚則				
美学美術史学	林 温	大石昌史	遠山公一	西川尚生		
日本史学	柳田利夫	井奥成彦	中島圭一	浅見雅一		
東洋史学	坂本 勉	山本英史	吉原和男	桐本東太	長谷部史彦	
西洋史学	清水祐司	大森雄太郎	神田順司	吉武憲司	神崎忠昭	山道佳子
民族学考古学	阿部祥人	佐藤孝雄	山口 徹	安藤広道		
国文学	松村友視	藤原茂樹	佐藤道生	石川 透		
中国文学	山下輝彦	八木章好	渋谷誉一郎	杉野元子	吉永壮介	
英米文学	巽 孝之	松田隆美	スカヒル ジョン	河内恵子	大串尚代	高橋 勇
独文学	和泉雅人	中山 豊	大宮勸一郎	糸川麻里生		
仏文学	小倉孝誠	市川 崇	喜田浩平	岑村 傑	築山和也	
図書館・情報学	倉田敬子	岸田和明	安形麻理			
社会学	青池慎一 檉尾直樹	榊 博文 長尾真理	鈴木正崇	浜 日出夫	藤田弘夫	岡原正幸
心理学	山本淳一	梅田 聡	大森貴秀			
教育学	安藤寿康	松浦良充	真壁宏幹	山梨あや		
人間科学	南 隆男 北中淳子	三井宏隆	渡辺秀樹	宮坂敬造	鹿又伸夫	織田輝哉

日吉他学部学習指導主任および副主任

学部・研究所	担当者	
経済学部	主任：福山 欣司	副主任：柏崎 千佳子、鈴村 直樹、宮崎 直哉
法学部	主任：安田 淳	副主任：武藤 浩史、下村 裕、太田 昭子、三瓶 慎一、笠井 裕之
商学部	主任：渡部 睦夫	副主任：入野田 義人、佐藤 望、深澤 はるか
医学部	主任：長井 孝紀	
理工学部	外国語・総合教育	主任：熊倉 敬聡 副主任：井上 京子、高桑 和巳
	基礎系	主任：野寺 隆 副主任：榊原 康文、鈴木 哲也
体育研究所	主任：石手 靖	副主任：村山 光義、松田 雅之

【日吉】履修申告前の学習指導相談期間 4月8日(土)～17日(月) 日曜・祭日を除く

履修についての質問、相談に所属学部学習指導担当教員が応じています。また、日吉学事センター所属学部窓口でも相談を受け付けます。

学部	学習指導相談会場	相談時間
文学部	日吉学事センター zone 2	12:15～13:00 土曜日を除く
医学部	日吉学事センター zone 2	12:15～13:00 水・金のみ
理工学部	日吉学事センター zone 1	12:15～13:00 土曜日を除く
経済学部	第4校舎地階自習室（南側）	12:15～13:00
法学部・商学部	第4校舎地階自習室（北側）	各授業毎の休み時間および 12:15～13:00

平成 18 年度 (2006 年度) 学事関連スケジュール

春 学 期	3月 31日 (金) 10:00~13:30 (121番教室)	2年生履修案内配布
	14:00~17:00 (121番教室)	3・4年生履修案内配布
	4月 3日 (月) 12:30~	成績証明書発行開始
	3日 (月)~7日 (金)	ガイダンス
	7日 (金)	学事Webシステムパスワード変更締切
	8日 (土)	春学期授業開始
	10日 (月)・11日 (火) 8:45~16:45	履修申告用紙配布日
	14日 (金) 8:45~16:45	用紙による履修申告日 (2~4学年)
	14日 (金) 8:30~終夜	Webによる履修申告期間
	15日 (土) 終夜~15:00まで	Webによる履修申告期間
	17日 (月) 8:30~15:00まで	Webによる履修申告期間
	20日 (木) 9:00~ (予定)	学事Webシステム履修科目確認画面稼働開始
	23日 (日)	開校記念日【休校】
	28日 (金)	授業料等納入期限 (全納または春学期分納)
	5月 初め	履修申告科目確認表送付 (本人宛)
	上・中旬	健康診断
	8日 (月) ~	4年生用卒業見込証明書発行
	8日 (月) ~10日 (水) <予定>	履修エラー修正期間 (期間は履修申告科目確認表に記載) 期間外の修正は受け付けません
	下旬	早慶野球戦
	7月 上旬 ~	春学期末試験時間割発表
	上旬 ~下旬	春学期末追加試験申込受付 (詳細は後日掲示)
	10日 (月)・11日 (火)	春学期補講日
	15日 (土)	春学期授業終了
	18日 (火)~26日 (水)	春学期末試験 (詳細は後日掲示)
27日 (木)~9月21日 (木)	夏季休業 (8月9日 (水)~8月15日 (火) 三田キャンパス一斉休業)	
8月 3日 (木)・4日 (金)	春学期末追加試験 (詳細は後日掲示)	
秋 学 期	9月 22日 (金)	秋学期ガイダンス 文学部のガイダンスはありません
	25日 (月)	秋学期授業開始
	10月 31日 (火)	授業料等納入期限 (秋学期分納)
	下旬	早慶野球戦
	11月 21日 (火) 1・2時限	秋学期補講日
	21日 (火) 3時限 ~27日 (月)	三田祭 (準備, 本祭, 後片付けを含む)【休講】
	30日 (木)	休学願提出期限
	12月 23日 (土) ~1月5日 (金)	冬季休業 (12月28日 (木)~1月5日 (金) 三田キャンパス一斉休業)
	1月 6日 (土)	授業開始
	上旬	秋学期末試験時間割発表
	上旬 ~2月上旬	秋学期末追加試験申込受付 (詳細は後日掲示)
	10日 (水)	福澤先生誕生記念日【休校】
	16日 (火)・18日 (木)	秋学期補講日
	22日 (月)	秋学期授業終了
	23日 (火)~2月5日 (月)	秋学期末試験 (詳細は後日掲示)
	2月 3日 (土)	福澤先生命日
	上旬 ~3月下旬	春季休業
	下旬	秋学期末追加試験 (詳細は後日掲示)
	3月 9日 (金)	卒業者発表
	中旬	学業成績表送付 (保証人宛)
	23日 (金)	卒業式

注意事項

- ・ 土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお休業期日については、決定次第掲示によってお知らせしますので、掲示板をご覧ください。
- ・ 諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもありますので、必ず注意してください。
- ・ 共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等に注意してください。
- ・ 学事関連スケジュール (日吉) および日吉地区設置科目の履修に関する詳細は履修案内 (日吉キャンパス) で確認してください。

日付	時間	日程	場所
3月31日(金)	10:00~13:30 14:00~17:00 15:00~	2年生資料配布 3・4年生資料配布 フランス語 ガイダンス	121番教室 121番教室 501番教室
4月3日(月)	8:45~11:30のみ 10:45~12:15	独・仏・中・西・伊語クラスエントリーシート提出日 情報処理教育室設置講座ガイダンス	学事センター前受付BOX 516番教室
4月4日(火)	9:00~ 15:00~	独・仏・中・西・伊語クラス発表 英語ガイダンス 1 英語 B(選択クラス)エントリーシート回収	西校舎地下2階掲示板 501番教室 ガイダンス会場にて
4月5日(水)	13:00~14:30 13:00~14:00 13:00~14:30 14:45~15:45 14:45~15:45 16:30~18:00	国際センター在外研修プログラムガイダンス 教職課程ガイダンス(既登録者対象) 教職課程ガイダンス(新規登録者対象) 教職課程ガイダンス(2007年度実習予定者対象) 教育実習事前指導(学部4年生の今年度実習予定者対象) 教職課程ガイダンス(学校教育学コース)	519番教室 526番教室 533番教室 528番教室 517番教室 513番教室
4月6日(木)	10:00~ 12:20~12:50 12:30~16:30 13:00~	英語 B(選択クラス)クラス発表 2 言語文化研究所ガイダンス 外国語教育研究センターガイダンス 文学部基礎情報処理・応用情報処理ガイダンス 文学部基礎情報処理・応用情報処理エントリーシート回収	西校舎地下2階掲示板 523A番教室 531番教室 517番教室 ガイダンス会場にて
4月7日(金)	9:00~ 9:00~10:30 10:45~12:15 11:00~ 15:30~ 16:30~18:00 18:10~19:10	2編・学士入学者ガイダンス 体育研究所ガイダンス 体育研究所ガイダンス 文学部基礎情報処理・応用情報処理クラス発表 2 学部専攻別ガイダンス 日本語・日本文化教育研究センター日本語教育学講座ガイダンス 教育実習ガイダンス(2007年度実習予定者対象)	研究室棟B会議室 522番教室 522番教室 西校舎地下2階掲示板 文学部掲示板参照 434番教室 513番教室
4月8日(土)		授業開始	
4月10日(月)11日(火)	8:45~16:45	履修申告用紙配付日 履修申告用紙を受け取れなかった学生は、全てWeb履修申告を行ってください	学事センター
4月12日(水)	12:15~13:00	英語質問受付時間 1	学習指導室(南校舎2階)
4月14日(金)	8:45~16:45	用紙による履修申告(2・3・4年生)	学事センター前受付BOX
4月14日(金)	8:30~終夜	Webによる履修申告期間	
4月15日(土)	終夜~15:00まで		
4月17日(月)	8:30~15:00まで	*午前4時から1時間、保守の為利用不可	
4月20日(木)	9:00~(予定)	学事Webシステム履修科目確認画面稼働開始 最終確認は、履修申告科目確認表で行うこと	
5月上旬		履修申告科目確認表送付・履修エラー修正期間 エラー修正期間外の修正は受付けません。履修エラーが残っている場合は、進級条件や卒業条件に関わらず全て削除します	

- 1 英語 上級(04学則) 英語上級(93学則)を履修したい学生は、「英語ガイダンス」もしくは「英語質問受付時間」で面接を受け、アーマー君またはスネル君の承認印のある「英語 上級(英語上級)履修希望用紙」を4月17日(月)15:00までに学事センター前受付ボックスへ提出してください。期日までに用紙が提出されない場合は、履修申告が無効になります。
- 2 抽選の科目(語学・情報処理):クラス発表後に、空きクラスの募集を学事センター窓口で随時行います。抽選発表後、クラスが決まっていない学生や抽選後の空きクラスに応募したい学生は、必ず学事センター窓口にて所定の手続きを取ってください。

履修申告をする場合は、時間割をよく確認しながら登録を行ってください。
学則タイプによって登録番号が異なります。
登録番号を間違った場合は、履修エラーとなり、その科目は履修申告が出来ないこと
になります。十分注意してください。

【2・3・4年生】

共通

(04・93学則)

1 学則について

学則とは、学校が制定する諸規程のうち学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項について規定したものをいいます。

今年度の文学部は、1993年度(平成5年度)に制定された【93学則】と、2004年度(平成16年度)に制定された【04学則】の2種類の学則が適用されます。【93学則】と【04学則】の適用対象者は、以下のとおりです。

【93学則】：2006年度4年生在籍者

【04学則】：2006年度1・2・3年生在籍者

2 履修案内について

この履修案内は文学部在籍者を対象とするものです。履修にあたっての注意、履修の方法、関連の学部学則(別冊)や内規について書かれています。今年度開講される各科目の内容については『講義要綱』(別冊)を参照してください。

この履修案内は、【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】、【2・3年生(04学則)】、【4年生(93学則)】と、適用される学則によって参照するページが分かれています。適用学則に十分注意してください。

文学部生は、この履修案内をよく読んで、ガイダンスでの説明も参考にしながら自己の責任において慎重に履修してください。毎年履修案内を読まないことによる履修上のトラブルが多く見られます。トラブルの中には、進級や卒業に関わるものが多々あります。理解できない点や不明の点は、必ず専攻担任、学習指導、学事センターに尋ねて、誤りのないよう十分注意してください。

また、履修案内の変更、学習指導上の注意事項をはじめとする重要な事項は、必ず文学部掲示板に掲示しますので、掲示には絶えず注意を向けてください。

ガイダンスでの注意に従わなかったこと、履修案内を読まなかったこと、掲示板を見なかったことによるトラブルは、学生諸君の自己責任となることを肝に銘じてください。

3 単位について

(1) 講義科目

週1回半年の授業で2単位、週1回通年の授業で4単位、週2回半年の集中講義で4単位となります。

(2) 語学科目・演習科目

週1回半年の授業で1単位、週1回通年の授業で2単位となります。

(3) 自然科学の実験科目

実験を伴う科目は、講義と実験を1年間履修すると6単位となります。

4 卒業に必要な単位数

卒業するためには次の表に示してあるように合計128単位以上を取得し、かつ卒業試験に合格しなければなりません。

卒業必要単位は128単位以上で次の科目から構成されます。

科目	単位数	内 訳
総合教育科目	38 単位以上	人文科学系列 社会科学系列 自然科学系列 系列外科目 各系列 8 単位以上
語学科目	14 単位 (14 単位語学専攻) 英語を選択しない場合 16 単位 または 18 単位 (18 単位語学専攻) 英語を選択しない場合 20 単位	下表参照 14 単位語学専攻: 国文・中文・独文・仏文 18 単位語学専攻: 上記 4 専攻以外
専門教育科目	76 単位以上 (14 単位語学専攻) または 72 単位以上 (18 単位語学専攻)	【04 学則】P. 39 参照 【93 学則】P. 89 参照
合計	128 単位以上	

必修語学の進級条件 ()内は単位数

		語 種	英語を履修する場合	英語以外の「他の言語」を 2 語種履修する場合	
1 年		英語 (2)	4 単位 (週 2 コマ)		
		他の言語 (各 2) 独語・仏語・中国語・朝鮮語・露語・西語・ 伊語 (留学生は日本語)	左記の語種のうち 1 語種 6 単位 (週 3 コマ)	左記の語種のうち 2 語種 各 6 単位 (各週 3 コマ) 計 12 単位	
		小計	10 単位	12 単位	
2 年	専攻により異なる	国文学	4 単位 (週 2 コマ)	4 単位 (週 2 コマ)	
		中国文学			中国語 (2)
		独文学			ドイツ語 (2)
		仏文学			フランス語 (2)
		哲学系・史学系各専攻、 英米文学専攻、図書館・情報学 専攻、人間関係学系各専攻	1 年次履修した語種と同一 の 2 語種 (2) (*)	各語種 4 単位 (各週 2 コマ) 計 8 単位	各語種 4 単位 (各週 2 コマ) 計 8 単位
	小計	4 単位もしくは 8 単位	4 単位もしくは 8 単位		
		1 年・2 年 合計	14 単位もしくは 18 単位	16 単位もしくは 20 単位	

(*) 東洋史学専攻の学生は、1 年次履修した 2 語種のうち、1 語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つに振り替える事ができます。詳細は東洋史学専攻ガイダンスまたは履修案内(東洋史学専攻)で確認してください。

5 分野と分野番号について

分野とは卒業・進級に必要な科目を学則や専攻内規に基づいて分類したもので、下例のように 6 桁の分野番号(分野コード)で表されます。

《例 1》10 - 10 - 11

《例 2》03 - 01 - 02

必修 英語 設置地区またはレベル等
語学

専門 哲学 必修
科目 専攻 科目

分野番号の体系は、学則(93 学則・04 学則)や学年、専攻によって異なります。

6 履修申告について

履修申告は、決まった期間のみ行えます。修正期間を過ぎたの追加もしくは修正申告は一切認められませんのでご注意ください。

7 成績評語と成績質問制度について

成績評語は、A、B、C、Dの4段階で示されます。A、B、Cは合格、Dは不合格です。所定の授業へ出席し、試験を受けた後に評語が決まります。

また、教授会が認めた特定の授業科目は、評語をP、Fの2種とし、Pを合格、Fを不合格とします。なお、本塾・他大学で履修した科目の単位を認定した場合はGとします。

- (1) 学業成績表は、3月中旬に保証人に宛て郵送します。
- (2) 学業成績表は、再発行できませんので取り扱いには十分ご注意ください。
- (3) 留年した場合、前年度に取得した成績評語はA、B、Cとも有効です。ただし、4年次において留年した場合、卒業試験の成績は無効とします。
- (4) 文学部では、成績評語がDないし（未受験）の場合に限り、成績質問制度を利用することができます。詳細は、P.10～の「試験・レポート・質問制度・卒業論文提出要領」の項を参照してください。
- (5) 学業成績表の見方

評 語	評語 A、B、Cは合格、Dは不合格、Gは認定、 印は未受験
判定欄	進 級次学年に進級する者
	保 留追加試験の結果により判定が決定する者
	原級(留学).....学則による「留学」が認められた者で原級に留まる者
	原級(休学).....学則による「休学」が認められた者で原級に留まる者
	原 級進級条件を充たせず原級に留まる者

1 休学

文学部において、休学は1年間を単位とします。ただし、休学中に取得した単位が認められることがあります。詳しくは所属キャンパスの学事センターまでお問い合わせください。

【休学願】

休学する場合は、保証人連署の上、所定の「休学願」に記入し、所属キャンパスの学事センターへ提出してください。病気の場合は、医師の診断書が必要です。また、1年生は学習指導と、2・3・4年生は専攻担任と面接の上、「休学願」に署名・捺印が必要です。詳細は所属キャンパスの学事センターで相談してください。

休学願提出期限：11月30日(木)

【就学届】

休学期間が終了し再び学業に戻る場合は、所定の「就学届」を所属キャンパスの学事センターへ提出してください。

- (1)「就学届」用紙は3月中頃保証人宛に郵送します。
- (2)病気による休学の場合は、別途回復した旨の医師の診断書(休学理由が病気以外の場合、休学解除の理由書)を添付してください。3月初めにあらかじめ診断書をご用意ください。

2 留学

【国外留学申請書】

留学先大学の入学許可を取得し、「留学」を希望する学生は、所定の「国外留学申請書」を提出してください。「留学」が許可されるためには、面接(1年生は学習指導、2・3・4年生は専攻担任)の上、学部教授会の承認が必要です。留学希望先大学に正式な手続きを経て、正規生と同じ授業を受ける場合に限り「留学」として許可されます(語学学習のみの留学はこれに該当せず、休学対象になります)。

「留学」中の学業成果は、学部学則第153条により、復学後、取得単位の認定や在学期間の算入手続きののち、教授会において認められることがあります(下記【留学に伴う単位認定】参照)。

詳細は、国際センター発行の「留学の手引き」を参照の上、国際センターおよび所属キャンパスの学事センター窓口へ問い合わせてください。

【就学届】

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、所定の「就学届」を提出してください。

【留学に伴う単位認定】

30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は「留学に伴う単位申請書」に成績証明書と講義要綱等を添付して学事センターへ提出してください。

認定手続は以下の通りです。

- (1) 認定される科目は原則として三田文学部設置**専門教育科目**に限ります。
- (2) 所属専攻以外の科目については、以下のとおり内容確認を行った上で、認定処理担当教員欄に承認を受けてください。

所属専攻設置科目⇒所属専攻専攻担任

他専攻設置科目⇒各専攻の専攻担任

専攻に属さない文学部設置科目⇒学習指導主任

他学部の科目⇒認定不可

所属専攻以外の認定処理が全て完了してから、所属専攻担任が最終確認を行います。

【留学・休学の取り扱いについて】

		留 学	休 学
種類		教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。留学は「交換留学」・「奨学金による留学」・「私費留学」の3つに区別しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・語学研修（その他左記の留学として認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書が必要） ・一身上の都合による休学
期 間	申請期間	<p>「留学」の開始日から半年以上1年まで。</p> <p>「留学」は年度途中に開始し、年度の途中に終了することが可能です。</p> <p>（例）2006.9.22～2007.9.21</p>	<p>休学は1年単位での申請です（4月1日～翌年3月31日）。</p> <p>* 休学の開始日がいつであってもその年度は在籍期間に算入されません。</p> <p>* 複数年度にわたって休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。</p> <p>* 休学願の提出締切はその年度の11月30日です（但し、4月1日から休学する場合は、履修申告までに休学願を提出してください）。</p>
	延長	<p>1回可能（最長で留学開始日から2年間まで）</p> <p>それ以降は「休学」となります。</p> <p>* 「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書（延長）」を提出してください。</p>	<p>留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。</p>
学費・渡航費	学費減免措置	<p>* 1年目：減免制度はありません。</p> <p>* 2年目：減免される場合があります。</p> <p>「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6ヵ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。</p>	<p>* 語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。</p> <p>* 但し、上記以外で特別の事情がある者および1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。</p>
	渡航費補助	「交換留学」及び「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	なし
単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（但し、同一科目名・同一担当者の三田文学部設置専門科目に限る）。必ず「留学」前に各科目担当者へ、「留学」終了後、継続して履修する意志があることを伝えてください。なお、時間割の変更等で継続して履修できない科目が生じた場合は、学事センター窓口に出してください。	
	単位認定	<p>30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。</p> <p>* 認定される科目は専門教育科目に限ります（総合教育科目・語学科目等は含まれません）。</p>	休学中に取得した単位が認定される場合があります。詳細は学事センター窓口にお問合せください。
就学後		「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師による回復の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。
在学年数		「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は留学前に専攻担任、学習指導と相談の上、「留学」終了後、必要な書類等をそろえて学事センター窓口に出してください。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。
進級・卒業		「留学」終了後の学年の扱いについて 2年生で「留学」した場合：「留学」終了後の学年は変わりません。3年生への進級条件科目の一つである「語学科目」が単位認定の対象にならないためです。 3,4年生で留学した場合：専攻によって進級条件が異なりますので、専攻内規を確認の上、専攻担任と留学前に必ず相談してください。	「休学」終了後は原級にとどまります。

3 退学

【退学届】

事情により退学する場合は、所定の「退学届」用紙に退学の理由を具体的に明記し、保証人連署、捺印（本人と保証人は異なる印を使用してください）の上、学生証を添付して所属キャンパスの学事センターへ提出してください。1年生は学習指導と、2・3・4年生は専攻担任と面接の上、用紙に署名・捺印が必要です。詳細は所属キャンパスの学事センターに相談してください。

【退学年月日】

- (1) 退学年月日は、学費が全納されている場合、本人の希望日（通常は当該年度の3月31日付）となります。
- (2) 退学年月日が3月31日より前の退学届が提出された場合、当該年度の取得単位が抹消されます。
- (3) 当該年度・学期の学費が未納の場合、学費が納付された年度末もしくは学期末の年月日での退学となります。

【学則第156条抜粋】

同一学年に2年在学し、なお進級し得ない者ならびに同一学部に8年（医学部では12年）在学し卒業し得ないものは退学させる。

（省略）

休学期間は在学年数に算入しない。

【学則第156条適用に関する文学部内規】

04学則

在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1、2学年については2年間ずつ在籍することができる。
- (2) 第3学年から第4学年への進級条件科目のある専攻は第3・4学年に各々2年間ずつ在籍することができる。
該当専攻：倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、英米文学、
図書館・情報学、心理学、教育学
- (3) 第3学年から第4学年への進級条件科目のない専攻は第3・4学年に計4年間在籍することができる。
該当専攻：哲学、国文学、中国文学、独文学、仏文学、社会学、人間科学
東洋史学専攻と民族学考古学専攻は、学則によって扱いが異なります。

93学則

在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1、2学年については2年間ずつ在籍することができる。
- (2) 第3学年から第4学年への進級条件科目のある専攻は第3・4学年に各々2年間ずつ在籍することができる。
該当専攻：倫理学、美学美術史学、日本史学、西洋史学、英米文学、図書館・情報学、心理学、教育学
- (3) 第3学年から第4学年への進級条件科目のない専攻は第3・4学年に計4年間在籍することができる。
該当専攻：哲学、東洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、独文学、仏文学、社会学、人間科学
東洋史学専攻と民族学考古学専攻は、学則によって扱いが異なります。

【学則第171条】

授業料その他必要諸経費を所定の期日までに納入しないときは退学させることがある。

【学則第188条抜粋】

この学則若しくは、これに基づいて定められた学内諸規則に違反し、または学業を怠り、気品を害ね、その他学生としての本分にもとる行為のあった者については、懲戒として情状により譴責・減点・停学または退学の処分をする。ただし、懲戒退学は、次の各号の一つに該当する者に対してのみ、これを命ずるものとする。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当な理由がなくて出席常でない者
- 4 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 再入学

【学則第155条】

退学したものが再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で原級に編入することがある。

再入学にあたっては、入学考査料および入学金がかかります。「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

【学則第155条に関する文学部での取り扱い】

退学年月日は従来通り学費が納入された時期までとする(全納の場合3月31日、春学期までの場合は9月21日)。

- (1) 正当な理由で一時的に修学が困難で、かつ現在の休学制度の適用を受けることができない学生に関して、再入学を認める。
- (2) 再入学の可能性が認められる退学であるかどうかを学習指導および専攻担任(1年生は日吉主任)が面談の上、教授会の承認を得ておくことを条件とする。
- (3) 再入学の願いが出された時点で、再度面談の上、教授会の承認を得て、再入学を認める。
- (4) 以下の場合は、再入学を認めない。
 - 学則156条、171条、および188条による退学
 - 留学を理由とする退学
 - 再入学を認める退学が承認された教授会から1年以内もしくは10年以上経過しての再入学願
- (5) 再入学後の取り扱い
 - 退学時の原級に復学する
 - 再入学した時点での学則を適用する
 - 退学する以前に取得した単位は学則に照らして原則として全て認める
 - 在籍年数はそのまま加算する
- (6) 施行期日 平成14年4月1日
 - 平成13年度までに既に退学している学生に関しては、この運用内規は適用されない。

文学部において、退学後再入学を希望する場合には、退学の時点で教授会で検討のうえ、承認が必要となります。具体的な手続きに関しては、学習指導および専攻担任に問い合わせてください。

試験・レポート・質問制度・卒業論文提出要領 【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】

1 定期試験

春学期末と秋学期末に定期試験があります。

春学期定期試験：7月18日(火)～26日(水) 試験時間割発表：7月上旬予定

秋学期定期試験：1月23日(火)～2月5日(月) " : 1月上旬予定

* 定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項などの詳細は掲示で必ず確認してください。

定期試験・追加試験の Web ページの URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken>

(1) 定期試験に関する注意

- 振鈴** 定期試験、追加試験の振鈴は、本冊子表表紙にある定期試験振鈴表を参照してください。授業時の振鈴とは異なります。また、定期試験の振鈴は日吉キャンパスと三田キャンパスで異なりますので注意してください。
- 試験時間** 日吉キャンパスの定期試験、追加試験の試験時間は原則として50分です。三田キャンパスは原則として90分です。異なる科目もありますので、試験時間割の掲示で確認してください。
- 不正行為** 不正行為のないよう真摯な態度で試験に臨んでください。不正行為は、厳重に処罰されます。
- 遅刻** 遅刻は試験開始後20分まで認めます。20分以上の遅刻者には受験を認めません。なお、終了時間の延長はありません。
- 退室** 試験開始後20分間および試験終了前10分間は退室を認めません。
- 禁止事項** 2時限以降は、前時限の監督者が退室しない限り、試験場へ入室できません。試験場(教室)を間違えないようにしてください。履修していない科目の試験場へは立ち入らないでください。答案は必ず提出しなければなりません。未提出の場合、不正行為と判断され、処分の対象とされます。下敷きの使用は禁止します。
- 学生証** 学生証を必ず携帯し、提示してください。試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。仮学生証の発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- その他** 試験時間割発表時に掲示する注意事項、持ち込み等は、その都度掲示しますので注意をしてください。

(2) 定期試験時間割重複の取り扱いについて

所属キャンパスの試験時間割が重複した場合、所属キャンパスの学事センターでの手続きが必要です。

- 時間割確認後すぐに学事センターへ申し出てください。
- 申し込み期限に遅れると受験できなくなりますので注意してください(申し込み期間は掲示します)。
- 受験料は不要です。

他キャンパスの試験と重複した場合には、いずれかの地区の科目を追加試験として申し出てください。

- 三田と日吉の試験が重複した場合は、その旨申し出てください。どちらを追加試験とするかは、本人の自由になります。また、矢上、藤沢の各設置科目を追加試験とする場合は、各地区に早急に確認してください。

2 レポート

レポートを学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

- (1) 指定された日時・場所へ提出してください。それ以外は、一切受け付けません。
- (2) 三田では、レポートが定期試験と同様に行われる場合があります。
- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- (4) 学事センターへ提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。
- (5) 学事センターレポートボックス受付時間

	受付曜日	時間
三田地区	火・水曜日、木・金曜日	8：45～16：45

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。
授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

	授業期間中 (補講日・定期試験期間中含む)	休業期間中 (早慶戦、三田祭、夏・冬・春季休業中)
日吉地区	月～金曜日 8：45～17：00	月～金曜日 8：45～16：30

授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

3 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目を病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で定期試験を受けることのできなかった者に対して行われる試験です。

対象科目は、定期試験期間内に行われる試験科目です。

語学科目、演習科目、体育実技、その他定期試験期間中に定期試験を行わず、レポート・平常点等により評価の定まる科目、ならびに研究会については追加試験対象外です。

追加試験を受験する場合は、学事センターで所定の手続きが必要です。手続き方法は試験時間割発表の際、文学部掲示板等で指示します。

*詳細は掲示、Web（URL：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>）で発表します。

(1) 追加試験注意事項

診断書・遅延証明・事故証明など正式書類のない場合は、学習指導との面接が必要となります。

定期試験期間中、当該科目の試験時間に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験の受験資格がありません。追加試験申し込みは、試験時間割発表後から受け付けます。科目設置キャンパスの学事センター文学部窓口で行い、「追加試験受験票（学生保存用）」を受け取ってください。

「追加試験受験票（学生保存用）」を持参していないと受験できないことがあります。

追加試験の時間割変更、持込みの指示等は追加試験時間割発表時に掲示します。掲示は情報が入り次第、その都度追加しますので気をつけてください。

(2) 受験資格と必要書類と受験料

1. 時間割の重複によるもの 三田と日吉の定期試験の時間重複	受験料不要
2. バス以外の公共交通機関の遅延によるもの 交通機関が発行する試験当日日付の「遅延証明書」	受験料不要
3. 病気・怪我の場合 試験当日の日付を含む医師による「診断書」	受験料1科目2000円
4. 事故を理由とする場合 試験当日日付の「事故証明」	受験料1科目2000円
受験料の支払いは、科目設置キャンパスの学事センターの証紙販売機で証紙を購入し、追加試験申込用紙の「証紙添付欄」に添付してください。	

1. ~ 4. 以外の理由によって追加試験の受験を希望する場合、学習指導との面接による受験許可が必要です。

a. 「保証人連署の理由書」(本人と保証人の署名および捺印が必要となります)を用意してください
(A4サイズ)。

b. 就職活動を理由とする場合は、訪問先の企業名と日付の入った企業が発行した証明書を持参してください。

c. 事前に時間割設置地区の学事センターにて、追加試験申し込み用紙と面接申し込み名簿に理由、連絡先、科目等記入してください。

追加試験申請の面接時に「保証人連署の理由書」と「追加試験申し込み用紙」に学習指導の受験許可印を得てください。

病気・怪我が理由で試験当日日付の「診断書」がない場合、試験当日日付以外の診断書を学習指導との面接に持参してください。

【申込受付・追加試験日程】

キャンパスにより、受付日程、時間など異なりますのでご注意ください。また、受付時間などの変更があった場合、掲示にてお知らせします。

科目設置	追加試験受付	時間割発表	追加試験日程
三田設置科目	7月上旬、1月上旬	8月・1月上旬 三田西校舎掲示板・web	8月上旬 2月下旬
	受付：三田学事センター 月～金曜日：未定		
日吉設置科目	7月上旬、1月上旬	8月・1月上旬 日吉第4校舎 J11 番前掲示板・web	8月上旬 2月下旬
	受付：日吉学事センター 月～金曜日：8：45 16：30		

4 再試験

文学部学生に関しては、文学部・他学部・諸研究所いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5 卒業試験

- (1) 卒業論文は、卒業を左右する重要な試験ですから、提出日・提出場所・提出手続きを厳守してください。この手続きを怠った場合は、卒業に支障が生じることになるので、十分に注意してください(P.14「9 卒業論文提出要領」参照)。
- (2) 卒業試験は原則として卒業論文によって行われますが、英米文学、社会学、人間科学の各専攻はそれ以外の方法によって卒業試験とすることができます。方法は専攻により異なりますので所属専攻の内規を確認し把握しておいてください。
- (3) 第4学年において留年した場合、卒業論文の成績は無効になるので注意してください。その場合、卒業論文は再度提出が必要となります。

6 試験における不正行為の取り扱いについて

【第1条(不正行為の報告)】

本学部学生に関する試験において、不正行為があったときは、監督者は学事センターに報告し、学事センターは学習指導主任にこれを報告しなければならない。学習指導主任は、直ちに学部長に報告しなければならない。

【第2条(処分案作成)】

前条の報告をうけた学部長は、速やかに運営準備会を召集し、不正行為の処分案を作成する。処分案作成に際しては当該学生の事情聴取を原則とする。また、必要に応じて、関係者の出席を求めその意見を徴することができる。

【第3条（処分の決定）】

運営準備会は処分案を運営委員会に提出し、運営委員会は学則第188条により、その処分の決定を行う。

【第4条（処分通知および報告）】

運営委員会が処分を決定したときは、学部長は、直ちに該当学生およびその保証人に処分の内容を通知しなければならない。

7 成績通知

3月中旬に保証人に宛て学業成績表を発送します。春学期終了科目の成績についても、通年科目、秋学期科目とともに学年末に通知します。それ以前には一切通知しません。なお、成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌年度の4月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

8 「成績評語に関する質問制度」について

文学部では2002年度より「成績評語に関する質問制度」を施行しております。制度の利用方法等、詳細はクラス担任・専攻担任・学習指導までお問い合わせください。

(1) 制度対象

文学部所属の学生

成績評語に対して確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者

科目担当教員と連絡が取れない場合、もしくはその対応に納得できない場合

対象学生が履修した文学部設置科目で

a. 評語が『D：不合格』もしくは『：未受験』の場合

b. 日吉キャンパス設置科目は「文学部1年生授業時間割」に記載されている科目

上記以外については対象外とします。

(2) 手続き方法など

用紙の記入・提出

a. 科目設置キャンパスの学事センター備え付けの所定用紙を使用してください。

b. 科目が設置されているキャンパスの学事センターに提出してください。

締め切り

2007年3月16日 16:00

事前に用意するもの

a. 学生証

b. 学業成績表（コピー不可）

c. 350円分の切手3セット

d. 封筒2枚（2枚とも赤で速達と記入し、350円分切手を貼っておく）

1枚目 学事から学生宛：学生本人の住所氏名を記入（回答返信用）

2枚目 教員から学事宛：封筒表面下部に学生本人の氏名を記入（回答送付用）

* 教員宛の質問発送用封筒はこちらで用意します。

その他

条件を満たしている場合のみ科目担当教員へ送付し、回答があった場合には返信します。

(3) その他

この質問制度は、教員に直接質問することを妨げるものではありません。当制度を利用せず、直接教員とコンタクトをとることも認められます。

9 卒業論文提出要領

提出日時、場所：詳細は掲示にてお知らせします。

(1) 注意事項

論文と一緒に、所定提出用紙（水色）を添えて提出してください（学事センター窓口にて事前配布）。提出時には所定提出用紙を配布しません。必ず事前に学事センター窓口で受け取り、記入を済ませてください。

提出用紙を論文の表紙に貼ったり、切り離したりせず、論文と一緒に提出してください。

論文は散逸しないよう綴じ、外表紙に提出年度、論文題目、大学名、学部名、専攻、学籍番号、氏名を必ず記入してください。また、必ずファイルに綴じるなど、表紙・裏表紙は硬いものにしてください。通常のレポートのような状態では受理できません。

フロッピーのみの提出はできません。また、主論文以外に資料（副論文、写真、フロッピー等）がある場合は、主論文と一緒に一つの封筒に入れ、バラバラにならないようにして提出してください。その際、封筒にも提出年度、論文題目、大学名、学部名、専攻、学籍番号、氏名を必ず明記してください。

(2) 文学部卒業論文の体裁について

必ずファイルに綴じてください。
ファイルの種類は問いません。
（但し、ゼミで指定されている場合は、それに従ってください）
ただし、ホチキス止め、クリップ止め、バインダー、クリアファイルは不可。
論文がバラバラにならないようしっかり綴じてください。
綴じ方は、縦でも横でも構いません。

表紙見本

○	200〇年度 卒業論文 論 文 題 目
	慶應義塾大学 文学部 専 攻:〇〇学専攻 学籍番号:1XXXXXX 氏 名:〇〇 〇〇

○	○
200〇年度 卒業論文 論 文 題 目	
慶應義塾大学 文学部 専 攻:〇〇学専攻 学籍番号:1XXXXXX 氏 名:〇〇 〇〇	

(3) 表紙の項目（見本参照）

200 年度 卒業論文
論文題目
大学名
学部名
専攻
学籍番号
氏名

○	論 文 題 目	200〇年度 卒業論文
	氏 名 学籍番号 専 攻	慶應義塾大学 文学部 〇〇学専攻

○	○	
論 文 題 目		200〇年度 卒業論文
氏 名 学籍番号 専 攻		慶應義塾大学 文学部 〇〇学専攻

1 学事センターの窓口

(1) 学事センター事務取扱時間

【三田地区】

月～金曜日 8:45～16:45

【日吉地区】

授業期間中は次の通り取り扱います。

月～金曜日 8:45～17:00

休業期間中は次の通り取り扱います。

月～金曜日 8:45～16:30

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務室取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

(2) 学事センター窓口業務

学籍・成績・履修に関すること

授業・試験・レポート等に関すること

時間割に関すること

休講・補講に関すること

追加試験の申込み

休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓(名)届等

学生証の発行

成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行(和文はおもに証明書自動発行機)

公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行

教室に関すること(ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援で行います)

通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援が取り扱います。

2 現住所変更届(本人・保証人)、保証人変更届、改姓(名)届

住所や保証人の変更、および改姓名の場合は、速やかに所属するキャンパスの学事センターへ届け出てください。所定用紙は、学事センター窓口で交付します(住居表示・地番変更の場合も届け出なければなりません)。

学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

住所変更届: 在学カード

保証人変更届: 保証人変更届、在学カード、誓約書(本人・保証人押印) 保証人住民票

改姓(名)届: 改姓(名)届、在学カード、誓約書(本人・保証人押印) 戸籍抄本、学生証再交付願

学生総合センター学生生活支援窓口提出する「学生カード」に新住所を記入しても、正式な届け出とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

3 学生証（身分証明書）

- (1) 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾メディアセンター入館証を兼ねています。
- (2) 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際には常に携帯しなければなりません。
- 本塾教職員の請求のあった場合
 - 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - 各種試験を受験する場合
 - 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
- (3) 再交付手続
- 学生証または学生証裏面シールを紛失したり、汚損した場合は、所属するキャンパスの学事センターで再交付を受けてください。特に学生証を紛失した場合には、最寄りの警察（交番）に届け出てください。
- 必要書類 証明書用写真（縦4cm、横3cm）3ヶ月以内に撮影したもので光沢仕上げ（絹目仕上げ不可）
証紙（2,000円分）所属キャンパスの学事センターで販売しているもの
- (4) 返却
- 再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業などで学籍をはなれた場合はただちに所属するキャンパスの学事センターへ返却しなければなりません。

4 各種証明書（学割証など）

証明書発行、申込み、受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。授業料等が未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

【証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）】

- (1) 在学証明書・卒業見込証明書・成績証明書・卒業見込付成績証明書・履修科目証明書
- (2) 学割証
- (3) 健康診断証明書（当該年度の健康診断を受けた人のみ）

学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも学籍を失った場合は無効）。

厳封が必要な場合は、自動発行機で発行できる証明書でも、学事センター窓口で申し出てください。

健康診断証明書は6月中旬以降、当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

【学事センター窓口で発行する証明書（英文）】

英文在学証明書・英文卒業見込証明書・英文成績証明書

三田は即日で発行するものもありますが、日吉は翌日の発行となります。

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

【学事センター窓口で日数を要して発行する証明書】

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、あらかじめ所属するキャンパスの学事センター窓口で相談してください。なお、交付には、申請してから和文証明書は標準3日、英文証明書は標準7日を要しますので、余裕をもって所属するキャンパスの学事センター窓口にお越しください。

【各種証明書一覧】

証明書種類		日吉	三田	手数料	補記（日程等）
在学証明書（和文）				200円	4月3日 12：30から発行
在学証明書（英文）					
成績証明書（和文）					
成績証明書（英文）					
学部卒業見込証明書（和文）				200円	5月8日から（学部4年生のみ）発行
学部卒業見込証明書（英文）		×			
履修科目証明書（和文）				200円	6月1日から発行
履修科目証明書（英文）					
健康診断証明書（和文）				200円	6月中旬から年度末まで発行 大学保健管理センターで発行します。 （詳細は保健管理センターにお問い合わせください）
健康診断書（英文）		×	×		
卒業見込証明書付成績証明書（和文）				400円	5月8日から（学部4年生のみ発行）
特殊 証明 書	司法試験受験用単位取得証明書（和文）			200円	所属キャンパスで申請してください。
	各種資格試験等受験用単位取得証明書				所属キャンパスで申請してください。
	提出先所定の用紙（リクエストフォーム）を要する証明書				学事センター窓口にお問い合わせください。
	科目等履修生・特別聴講生・研究生に関する各種証明書				所属キャンパスで申請してください。
そ の 他	学割証（JR 各社共通）			無料	定期健康診断を未受診の場合には、発行できません。
	通学証明書				学生証で購入できない区間（鉄道会社を3社以上使用する場合）またはバスなど。所属キャンパスで申請してください。
	英文身分証明書				証明書用写真（カラー3cm×3cm）が必要です。
	厳封（封筒に入れて封をして提出）を必要とする証明書（和文・英文）				厳封が必要な場合は、証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください。

凡例 自動発行機で即日発行 窓口で即日発行 窓口で翌日発行
窓口で数日後発行 × 発行不可

【証明書自動発行機稼働時間】

【日吉キャンパス】

学事センター前廊下 月曜日～金曜日 9：00～20：00

【三田キャンパス】

学事センター事務室内 月曜日～金曜日 8：45～16：45

南校舎1階 月曜日～土曜日 9：00～20：00（授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く）

注1）自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できません。

注2）メンテナンス、故障等により自動発行機を停止することがありますので、HP・掲示板等で確認してください。

【その他】

- （1）生協の組合員証および国際学生証は、生協事務室に直接お問い合わせください。
- （2）各種証明書の料金は、改定されることがあります。
- （3）発行日は、【各種証明書一覧】にある日程より遅くなる場合があります。

5 教室使用申請について

三田キャンパス

(1) 受付窓口（利用者により受付窓口が異なりますのでご注意ください）

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	三田学事センター	三田学生総合センター学生生活支援	管財部管財課
休業期間	三田学事センター	使用できません	管財部管財課

(2) 授業期間中の教室使用申請

研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。

学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。

申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（注）。但し、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。

「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。

外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

(3) 休業期間中の教室使用申請

研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当専任教員の印またはサインが必要となります。

学生団体の場合は、原則として使用できません。

申請は使用予定日の3日前まで受け付けます（注）。但し、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。

「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。

外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

日吉キャンパス

(1) 受付窓口（利用者により受付窓口が異なりますのでご注意ください）

	利用者		
	研究会（ゼミ）	学生団体	外部団体
授業期間	日吉学事センター総合受付	日吉学生総合センター	日吉運営サービス(用度)
休業期間	日吉学事センター総合受付	使用できません	日吉運営サービス(用度)

(2) 研究会（ゼミ）の教室使用申請

予約申請は使用予定日の前月20日から受け付けます。

（1月分の受付は12月10日から行います）

(3) 学生団体の教室使用申請

教室が使用できるのは、公認団体と今年度組織届・団体報告書を提出して受理された未公認団体です。

使用希望日の4日前（土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前）までに手続きをしてください。4日過ぎてからの申請は受け付けできません。

申請は1ヶ月毎となっています。来月分は前月の25日前後となっていますので、その都度、窓口で確認してください。

(4) 外部団体の教室等使用許可申請

日吉運営サービスセンターまでお問い合わせください（Tel：045-566-1001）。

6 学生総合センター

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

【学生生活支援】

教室等の使用申込み受付

公認学生団体会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前(休日を除く)までに申し込んでください。休日・試験期間中の使用はできません。(【教室使用申請について】も参照)

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～18:00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続きを行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にお問い合わせください。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

郵便物の取り扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8:45~21:00です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板上に掲示します。

慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板上に掲示します。

日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と、第二種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)があります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はそのつど、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板上に掲示します。

指定寄附奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はそのつど、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板上に掲示します。

奨学融資制度(利子給付奨学金付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付

でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」(学生総合センター窓口にも置いてあります)を参照してください。

【就職・進路支援】

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、3年生を対象に10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどを開催しています。

就職担当は、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったことなどがあった場合には、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室(西校舎地下2階)

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援、就職・進路支援

月～金曜日……8時45分～16時45分 都合により閉室することがあります。

学生相談室

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

【学生教育研究災害傷害保険について】

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業(総称して以下「授業」といいます)を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人(被保険者)の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

【任意加入の補償制度について】

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会(慶應義塾関連会社)に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先	(株)慶應学術事業会	TEL 03-3453-6098
	慶應生活協同組合	TEL 045-563-8489

【学生カード・大学に対する要望カードの提出について】

(学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません)

次に従って提出してください。

1. 提出学年

2・3・4年

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください(やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に提出してください)。

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同じカードに記入し、学生総合センター学生生活支援窓口へ提出してください。

【定期健康診断について】

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

7 掲示板

(1) 学生への通達事項は、すべて文学部掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもあります。

なお、他学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している学部の掲示板を見てください。共通掲示板にも注意してください。

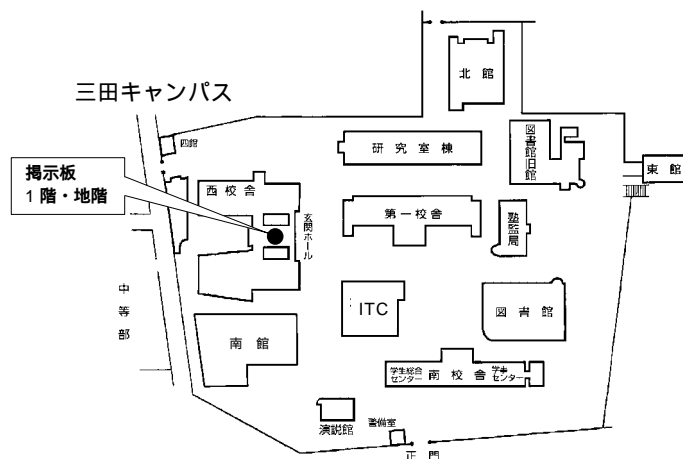
(2) 主な掲示事項

授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急事項、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等。

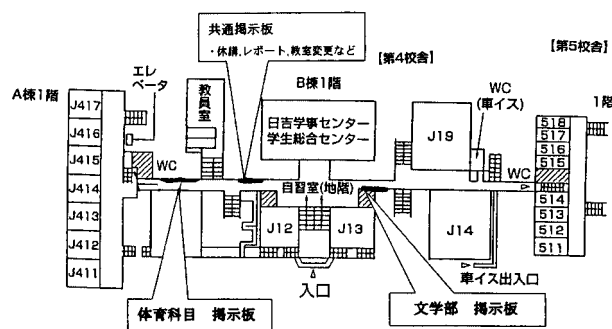
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp>) においても確認できます。

(3) 研究会に関する掲示は、三田校舎 501 番教室前の掲示板を利用してください。

(三田) 西校舎正面入口内の掲示板 (1階と地階)



日吉キャンパス



8 その他

【教員を訪ねる場合】

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

(1) 三田所属専任教員 (教授・助教授・助手)

研究室 (三田研究室棟)

(2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者 (講師)

教員室 (南校舎 2階)

【三田 ITC】

三田キャンパスのパソコン環境を利用するためには、三田 ITC でアカウント申請を行ってください。

【2・3年生】

(04学則)

1 総合教育科目および語学科目一覧

科目種別	分野番号	設置	授業科目名(単位)	は三田設置科目(1年生は履修不可)	は休講科目	は言文研設置科目	
必修語学科目	10-10-11	1年	英語 IA (2)	**英語 IB (2)			
	10-10-13	1年	英語 I 上級 A (2)	英語 I 上級 B (2)	英語 I 上級 C (2)	英語 I 上級 D (2)	
	10-10-21	2年	英語 IIA (2)	英語 IIB (2)			
	10-10-23	2年	英語 II 上級 A (2)	英語 II 上級 B (2)	英語 II 上級 C (2)	英語 II 上級 D (2)	
	10-20-11	1年	ドイツ語 IA (2)	ドイツ語 IB (2)	ドイツ語 IC (2)	ドイツ語 ID (2)	
	10-20-12	1年	ドイツ語 I 中級 A (2)	ドイツ語 I 中級 B (2)	ドイツ語 I 中級 C (2)		
	10-20-13	1年	ドイツ語 I 上級 A (2)	ドイツ語 I 上級 B (2)	ドイツ語 I 上級 C (2)		
	10-20-21	2年	ドイツ語 IIA (2) ドイツ語 IIE (2) ドイツ語 II I (2) ドイツ語 IIM (2)	ドイツ語 IIB (2) ドイツ語 IIF (2) ドイツ語 IIJ (2)	ドイツ語 IIC (2) ドイツ語 IIG (2) ドイツ語 IIK (2)	ドイツ語 IID (2) ドイツ語 IIH (2) ドイツ語 IIL (2)	
	10-30-11	1年	フランス語 IA (2)	フランス語 IB (2)	フランス語 IC (2)	フランス語 ID (2)	
	10-30-12	1年	フランス語 I 中級 A (2)	フランス語 I 中級 B (2)	フランス語 I 中級 C (2)		
	10-30-21	2年	フランス語 IIA (2)	フランス語 IIB (2)			
	10-40-11	1年	中国語 IA (2)	中国語 IB (2)	中国語 IC (2)	中国語 ID (2)	
	10-40-12	1年	中国語 I 中級 A (2)	中国語 I 中級 B (2)	中国語 I 中級 C (2)		
	10-40-21	2年	中国語 IIA (2)	中国語 IIB (2)			
	10-40-23	2年	中国語 II 上級 A (2)	中国語 II 上級 B (2)			
	10-50-11	1年	スペイン語 IA (2)	スペイン語 IB (2)	スペイン語 IC (2)	スペイン語 ID (2)	
	10-50-21	2年	スペイン語 IIA (2)	スペイン語 IIB (2)	スペイン語 IIC (2)	スペイン語 IID (2)	
	10-50-21	2年	スペイン語 IIE (2)	スペイン語 IIF (2)	スペイン語 IIG (2)	スペイン語 IIH (2)	
	10-50-21	2年	スペイン語 II I (2)				
	10-60-11	1年	イタリア語 IA (2)	イタリア語 IB (2)	イタリア語 IC (2)	イタリア語 ID (2)	
	10-60-21	2年	イタリア語 IIA (2)	イタリア語 IIB (2)			
	10-70-11	1年	朝鮮語 IA (2)	朝鮮語 IB (2)	朝鮮語 IC (2)	朝鮮語 ID (2)	
	10-70-21	2年	朝鮮語 IIA (2)	朝鮮語 IIB (2)			
10-80-11	1年	ロシア語 IA (2)	ロシア語 IB (2)	ロシア語 IC (2)	ロシア語 ID (2)		
10-80-21	2年	ロシア語 IIA (2)	ロシア語 IIB (2)				
10-90-11	1年	日本語 IA (2)	日本語 IB (2)	日本語 IC (2)			
10-90-21	2年	日本語 IIA (2)	日本語 IIB (2)				
10-91-21	2年	アラビア語 I (2) トルコ語 I (2)	アラビア語 II (2) トルコ語 II (2)	ペルシア語 (2) *	ペルシア語 I (2)		
2種類の語学を選択	人文科学系列		8単位以上				
	20-10-10	音楽 (4) 哲学 (4) 倫理学 (4)	漢文 (4) 美術 (4) 歴史 (4)	言語学 (4) 文学 (4) 論理学 (4)	国語国文 (4) 文化人類学 (4)		
	20-10-20	人文科学特論 (4)	**人文科学特論 I (2)	**人文科学特論 II (2)			
	社会科学系列		8単位以上				
	20-20-10	教育学 (4) 政治学 (4)	近代思想史 (4) 地理学 (4)	経済学 (4) 法学(憲法を含む) (4)	社会学 (4)		
	20-20-20	社会科学特論 (4)	社会科学特論 I (2)	社会科学特論 II (2)			
	自然科学系列		8単位以上				
	20-30-10	基礎化学 (2) 生命科学概論 (2) 統計学 (4) 生物学 II(実験を含む) (3)	心理学 (4) 生命の科学 (2) 化学 I(実験を含む) (3) 物理学 I(実験を含む) (3)	人類学 (4) 地学 (4) 化学 II(実験を含む) (3) 物理学 II(実験を含む) (3)	数学 (4) 天文学 (4) 生物学 I(実験を含む) (3)		
	20-30-20	**自然科学特論 (4)	自然科学特論 I (2)	自然科学特論 II (2)			
	系列外科目						
	20-40-10	基礎情報処理 (2) 総合教育セミナー II (2) 映画演劇論 III (2) 現代芸術 II (2)	辞書の世界 (2) 朝鮮文化・文学の歴史(4) 映画演劇論 IV (2) 詩学 I (2)	書物の世界 (2) 映画演劇論 I (2) **芸術と文明(2) 詩学 II (2)	総合教育セミナー I (2) 映画演劇論 II (2) 現代芸術 I (2) ロシア文学(4)		
	20-40-20	アラビア語 I (2) イタリア語初級 C (2) イタリア語入門 (2) 英語インテンシブ IIB (2) 古典ギリシア語初級 (2) スペイン語初級 (2) 中国語会話 A (2) 朝鮮語上級 (2) トルコ語 II (2) ラテン語初級 (2)	アラビア語 II (2) イタリア語中級 A (2) 英語インテンシブ IA (2) 英語インテンシブ IIIA (2) 古典ギリシア語中級 (2) スペイン語中級 (2) 中国語会話 B (2) ドイツ語会話初級 (2) 日本語 IIA (2) ラテン語中級 (2)	イタリア語初級 A (2) イタリア語中級 B (2) 英語インテンシブ IB (2) 英語インテンシブ IIIB (2) 現代ギリシア語初級 (2) 中国語初級 (2) 朝鮮語既習 (2) ドイツ語会話中級 (2) 日本語 IIB (2) ロシア語初級 (2)	イタリア語初級 B (2) イタリア語上級 (2) 英語インテンシブ IIA (2) **英語基礎 I (2) 現代ギリシア語中級 (2) 中国語上級 (2) 朝鮮語初級 (2) トルコ語 I (2) ペルシア語 I (2) ロシア語中級 (2)		
	20-40-30	教授会の認める各学部の総合教育相当科目					
	教授会の認める次の研究所等付属施設の授業科目または講座						
	20-50-10	体育研究所設置講座(講義)	体育学講義 (2)	体育学演習 (1)			
	20-50-11	体育研究所設置講座(実技)	体育実技 A (1)	体育実技 B (1)			
	20-50-20	国際センター日吉設置科目					
	20-50-30	情報処理教育設置講座					
	20-50-50以降	その他の研究所等付属施設					
	自由科目	99-99-99	自由科目 卒業および進級単位にはなりません				

【表の読み方および注意事項】

- (1) 分野番号については、P.4「分野と分野番号について」を参照してください。
- (2) 例えば、系列科目の「哲学(4)」は、4単位で総合教育科目の人文科学系列の単位ということです。
- (3) 総合教育科目自然科学系列の がついている科目は2年生の設置科目です。3年生は次の科目を履修してください。
化学(実験を含む)(6) 生物学(実験を含む)(6) 物理学(実験を含む)(6)
- (4) 時間割に掲載のない科目は開講しておりませんので注意してください。

2 必修語学科目

進級および卒業にあたって必ず履修しなければならない科目です。

- (1) 指定された必修語学を履修し、合格することが3年生への進級条件です。
- (2) クラス指定のある科目は、時間割どおりに履修してください。

語種		英語を履修する場合	英語以外の他言語を2語種履修する場合	
2年生 【専攻により異なる】	国文学	1年次履修した2語種の内、いずれか1語種(2)	4単位(週2コマ)	
	中国文学			4単位(週2コマ)
	独文学			
	仏文学			
	哲学系・史学系各専攻、英米文学専攻、図書館・情報学専攻、人間関係学系各専攻	1年次履修した語種と同一の2語種(各2)(*)	各語種4単位(週2コマ)計8単位	各語種4単位(週2コマ)計8単位
小計		4単位もしくは8単位	4単位もしくは8単位	

- (*) 東洋史学専攻の学生は、1年生で履修した2語種のうち、1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つに振り替えることができます。詳細は東洋史学専攻ガイダンスまたは履修案内(東洋史学専攻)で確認してください。

3 総合教育科目

卒業までに38単位以上(内訳として、人文科学系列、社会科学系列、自然科学系列それぞれ8単位以上)を取得してください。

- (1) 同一名称科目(同一単位数)が日吉と三田に設置されていますが、講義内容に水準の差はありません。
- (2) 2年生：生物学(実験を含む)・生物学(実験を含む)、化学(実験を含む)・化学(実験を含む)、物理学(実験を含む)・物理学(実験を含む)は、2時限連続180分授業で行われ、半期で3単位が取得できます。 は春学期、 は秋学期科目です。
3年生：生物学(実験を含む)、化学(実験を含む)、物理学(実験を含む)は、2時限連続180分授業で行われ、通年で6単位が取得できます
履修希望者は、希望する時限の第1回目の授業時間のガイダンス(前半)に出席してください。詳細は、履修案内(日吉キャンパス1年生)をご確認ください。

4 総合教育科目の系列外科目

総合教育科目の系列外科目として以下の科目を含みます。

- (1) 必修として履修しない語学科目(学則第34条：分野10-10-11～10-91-21)
但し、ドイツ語ID・フランス語ID・中国語ID・スペイン語ID・イタリア語ID・朝鮮語ID・ロシア語IDは系列外科目として履修することはできません。
- (2) 教授会の認める各学部設置の総合教育相当科目
- (3) 教授会の認める次の研究所等付属施設の授業科目または講座

体育研究所（総合教育科目の系列外として履修できるのは合計4単位まで）

国際センター（日吉設置科目・講座）

情報処理教育室

(4) 本年度教授会の認める総合教育科目（系列外科目）

三田キャンパス設置科目

ドイツ語初級（2）	蒐集の科学（4）	人の尊厳（社会と人権）（2）
-----------	----------	----------------

日吉キャンパス設置科目（履修にあたっての特別な手続・所定用紙は必要ありません）

21世紀の実学（2）	近代日本と福澤諭吉（2）	経済人類学（4）
宗教学（4）	ジェンダー論（2）	ジェンダー論（2）
女性学（2）	身体/感覚文化（2）	
地域研究 スペイン事情（2）	地域研究 スペイン事情（2）	地域研究 中国事情（2）
地域研究 中国事情（2）	地域研究 中国事情（2）	地域研究 中国事情（2）
地域研究 北米事情（2）	地域研究 北米事情（2）	地域生態文化論（2）
中国事情（2）	比較文化論（4）	東アジアの中の近代日本（2）
表象文化論（4）	人の尊厳（社会と人権）（2）	民族文化論（2）

外国語教育研究センター設置科目（日吉・三田独自科目）

教養研究センター設置科目（日吉）

保健管理センター設置科目（日吉）

～ の科目は、文学部時間割 諸研究所設置時間割表を参照してください。

5 専門教育科目（選択科目としても履修できる科目）

(1) 学則第 35 条に定める文学部設置の専門教育科目

哲 学 系	哲学概論 (4)	西洋哲学倫理学史Ⅰ (4)	西洋哲学倫理学史Ⅱ (4)	論理学入門 (4)	哲学倫理学原典講読 (4)
	科学の哲学 (4)	中級論理学 (4)	知識の哲学 (4)	形而上学 (4)	現代論理学の諸問題 (4)
	心の哲学 (4)	言語の哲学 (4)	現象学 (4)	宗教の哲学 (4)	哲学原典研究Ⅰ (4)
	哲学原典研究Ⅱ (4)	哲学原典研究Ⅲ (4)	哲学原典研究Ⅳ (4)	哲学倫理学特殊 (4)	哲学研究会Ⅰ (2)
	哲学研究会Ⅱ (2)	印度哲学 (4)	宗教学 (4)		
	倫理学概論 (4)	西洋哲学倫理学史Ⅰ (4)	西洋哲学倫理学史Ⅱ (4)	倫理学の基礎Ⅰ (2)	倫理学の基礎Ⅱ (2)
	倫理学の課題Ⅰ (2)	倫理学の課題Ⅱ (2)	倫理学の課題Ⅲ (2)	倫理学の課題Ⅳ (2)	哲学概論 (4)
	哲学倫理学特殊 (4)	日本倫理思想 (4)	東洋倫理思想 (4)	キリスト教概論 (4)	哲学倫理学原典講読 (4)
	倫理学研究会Ⅰ (2)	倫理学研究会Ⅱ (2)	倫理学洋書講読 (4)	中国哲学 (4)	
	美学概論 (4)	芸術研究基礎 (2)	芸術学 (2)	美学美術史学原典講読Ⅰ (2)	美学美術史学原典講読Ⅱ (2)
	美学美術史学演習 (2)	東洋美術史概説 (4)	西洋美術史概説 (4)	西洋音楽史概説 (4)	美学特殊 (4)
	美術史特殊 (4)	音楽史特殊 (4)	美学美術史学研究会Ⅰ (2)	美学美術史学研究会Ⅱ (2)	
史 学 系	史学概論 (4)	日本史特殊 (4)	日本史概説Ⅰ (4)	日本史概説Ⅱ (4)	日本史史料講読 (2)
	日本史演習 (2)	日本史研究会Ⅰ (2)	日本史研究会Ⅱ (2)	古文書学 (4)	日本史洋書講読 (2)
	東洋史研究入門 (2)	東洋史講読 (2)	東洋史概説Ⅰ (4)	東洋史概説Ⅱ (4)	東洋史概説Ⅲ (4)
	東洋史特殊 (4)	史学概論 (4)	東洋史研究会Ⅰ (2)	東洋史研究会Ⅱ (2)	東洋史演習 (2)
	史学概論 (4)	西洋史学原典講読 (2)	西洋史演習 (2)	西洋史概説Ⅰ (4)	西洋史概説Ⅱ (4)
	西洋史概説Ⅲ (4)	西洋史特殊 (4)	西洋史研究会Ⅰ (2)	西洋史研究会Ⅱ (2)	
	民族学考古学特殊 (4)	史学概論 (4)	民族学考古学原典講読 (2)	民族学考古学実習 (2)	考古学 (4)
	民族学 (4)	人類学概論 (4)	民族学考古学研究法 (4)	民族学考古学研究会Ⅰ (2)	民族学考古学研究会Ⅱ (2)
文 学 系	国語学Ⅰ (2)	国語学Ⅱ (2)	国文学Ⅰ (4)	国文学Ⅱ (4)	国文学Ⅲ (4)
	国文学Ⅳ (4)	国文学Ⅴ (4)	国文学Ⅵ (4)	国文学Ⅶ (4)	国文学Ⅷ (4)
	国文学Ⅸ (4)	国文学Ⅹ (4)	国文学Ⅺ (4)	国文学Ⅻ (4)	国文学ⅫⅢ (4)
	国文学ⅫⅣ (4)	国文学ⅫⅤ (4)	国文学史Ⅰ (2)	国文学史Ⅱ (2)	国文学史Ⅲ (2)
	国文学史Ⅳ (2)	国文学史Ⅴ (2)	国文学史Ⅵ (2)	国文学演習Ⅰ (2)	国文学演習Ⅱ (2)
	国文学演習Ⅲ (2)	国文学演習Ⅳ (2)	国文学演習Ⅴ (2)	国文学演習Ⅵ (2)	国語学演習 (2)
	国文学研究会 (2)	国文学原典講読 (2)	日本語文法 (2)	漢文講読Ⅲ (2)	日本語学Ⅰ (2)
	日本語学Ⅱ (2)	日本語教授法Ⅰ (2)	日本語教授法Ⅱ (2)	仏教学概論 (4)	
	中国語学概論 (4)	中国語学特殊 (4)	中国文学史Ⅰ (4)	中国文学史Ⅱ (4)	中国文学特殊 (4)
	中国語表現演習Ⅰ (2)	中国語表現演習Ⅱ (2)	中国語表現演習Ⅲ (2)	中国語表現演習Ⅳ (2)	中国文学演習Ⅰ (2)
	中国文学演習Ⅱ (2)	中国文学演習Ⅲ (2)	中国文学演習Ⅳ (2)	中国文学演習Ⅴ (2)	中国文学演習Ⅵ (2)
	中国語学研究会Ⅰ (1)	中国語学研究会Ⅱ (1)	中国古典文学研究会Ⅰ (1)	中国古典文学研究会Ⅱ (1)	中国現代文学研究会Ⅰ (1)
	中国現代文学研究会Ⅱ (1)	中国語学研究会Ⅲ (1)	中国語学研究会Ⅳ (1)	中国古典文学研究会Ⅲ (1)	中国古典文学研究会Ⅳ (1)
	中国現代文学研究会Ⅲ (1)	中国現代文学研究会Ⅳ (1)	漢文講読Ⅰ (2)	漢文講読Ⅱ (2)	中国語会話特殊Ⅰ (2)
	中国語会話特殊Ⅱ (2)	中国哲学 (4)			
英語史 (4)	英文学史 (4)	米文学史 (4)	現代英語学 (4)	英語英米文学基礎講読 (2)	
古代中世英語学 (4)	英語音声学 (4)	英語学演習 A (2)	英語学演習 B (2)	英語学演習 C (2)	
英語学演習 D (2)	英語学演習 E (2)	英語学演習 F (2)	英語学演習 G (2)	英語学演習 H (2)	
英文学演習 A (2)	英文学演習 B (2)	英文学演習 C (2)	英文学演習 D (2)	英文学演習 E (2)	
英文学演習 F (2)	英文学演習 G (2)	英文学演習 H (2)	英文学演習 I (2)	英文学演習 J (2)	
英文学演習 K (2)	英文学演習 L (2)	米文学演習 A (2)	米文学演習 B (2)	米文学演習 C (2)	
米文学演習 D (2)	米文学演習 E (2)	米文学演習 F (2)	米文学演習 G (2)	米文学演習 H (2)	
米文学演習 I (2)	英語学研究会Ⅰ (2)	英語学研究会Ⅱ (2)	英語学特別演習Ⅰ (2)	英語学特別演習Ⅱ (2)	
英文学研究会Ⅰ (2)	英文学研究会Ⅱ	英文学特別演習Ⅰ (2)	英文学特別演習Ⅱ (2)	米文学研究会Ⅰ (2)	
米文学研究会Ⅱ (2)	米文学特別演習Ⅰ (2)	米文学特別演習Ⅱ (2)			
英語学 A (4)	英語学 B (4)	英語学 C (4)	英語学 D (4)	英語学 E (4)	
英語学 F (4)	英語学 G (4)	英文学 A (4)	英文学 B (4)	英文学 C (4)	
英文学 D (4)	英文学 E (4)	英文学 F (4)	英文学 G (4)	英文学 H (4)	

文 学 系	英文学 I (4)	米文学 A (4)	米文学 B (4)	米文学 C (4)	米文学 D (4)
	米文学 E (4)	米文学 F (4)	アカデミック・ライティング A (2)		
	アカデミック・ライティング B (2)		アカデミック・ライティング C (2)		
	アカデミック・ライティング D (2)		アカデミック・ライティング E (2)		
	テキスト研究中級 (2)	テキスト研究上級 A (2)	テキスト研究上級 B (2)	ドイツ語作文初級 (2)	ドイツ語作文中級 (2)
	コミュニケーション・ドイツ語中級 A (2)		コミュニケーション・ドイツ語中級 B (2)		
	コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2)		コミュニケーション・ドイツ語上級 B (2)		ドイツ文法研究 (2)
	ドイツ文学史 (4)	ドイツ文化史 (4)	ドイツ語学研究 (4)	メディア研究 (4)	ゲート時代研究 (4)
	ドイツ文化研究 I (4)	ドイツ文化研究 II (4)	ドイツ文化研究 III (4)	ドイツ文学研究入門 (4)	現代ドイツ研究 (4)
	現代ドイツ研究入門 (4)	ドイツ語学文学ゼミナール I (2)		ドイツ語学文学ゼミナール II (2)	
ドイツ語学文学ゼミナール III (2)	ドイツ語学文学ゼミナール IV (2)	ドイツ語学文学ゼミナール V (2)			
ドイツ語学文学ゼミナール VI (2)	ドイツ語学文学ゼミナール VII (2)	ドイツ語学文学ゼミナール VIII (2)			
フランスの文化と歴史 I (2)	フランスの文化と歴史 II (2)	フランス語学演習 I (1)	フランス語学演習 II (1)	フランス語表現演習 I (1)	
フランス語表現演習 II (1)	フランス語表現演習 III (1)	フランス語表現演習 IV (1)	フランス文学史 I (2)	フランス文学史 II (2)	
フランス文学史 III (2)	フランス文学史 IV (2)	フランス文学と近代 I (2)	フランス文学と近代 II (2)	フランス文学と近代 III (2)	
フランス文学と近代 IV (2)	フランス文学と現代 I (2)	フランス文学と現代 II (2)	フランス語学 I (2)	フランス語学 II (2)	
フランス語学演習 III (1)	フランス語学演習 IV (1)	フランス語学演習 V (1)	フランス語学演習 VI (1)	フランス語学演習 VII (1)	
フランス語学演習 VIII (1)	フランス語表現演習 V (1)	フランス語表現演習 VI (1)	フランス語表現演習 VII (1)	フランス語表現演習 VIII (1)	
フランス文学演習 I (1)	フランス文学演習 II (1)	フランス文学演習 III (1)	フランス文学演習 IV (1)	フランス文学演習 V (1)	
フランス文学演習 VI (1)	フランス語学文学研究会 I (1)	フランス語学文学研究会 II (1)	フランス語学文学研究会 III (1)	フランス語学文学研究会 IV (1)	
図書館・情報学基礎 (2)	図書館・情報学原典講読 (2)	情報サービス基礎 I (2)	情報サービス基礎 II (2)	情報検索基礎 I (2)	
情報検索基礎 II (2)	情報メディア基礎 I (2)	情報メディア基礎 II (2)	図書館・情報学研究法 (2)	図書館・情報学研究会 (2)	
図書館概論 (2)	図書館の計画と経営 (2)	図書館資料論 (2)	図書館活動論 I (2)	図書館活動論 II (2)	
図書館活動論 III (2)	図書館活動論 IV (2)	コミュニケーション史 (2)	資料組織論 (2)	レファレンス・サービス論 (2)	
図書館実習 (2)	情報メディア概説 I (2)	情報メディア概説 II (2)	情報認識の基礎 (2)	情報メディアの構造と分析 I (2)	
情報メディアの構造と分析 II (2)	情報メディア特殊 I (2)	情報メディア特殊 II (2)	情報メディア特殊 III (2)	情報メディア特殊 IV (2)	
情報検索概説 I (2)	情報検索概説 II (2)	情報検索研究 (2)	情報探索行動 (2)	データベース検索 (2)	
情報検索システム (2)	情報処理技術 (2)	自然言語処理の基礎 (2)	画像・映像処理の基礎 (2)	書誌学 I (2)	
書誌学 II (2)	児童資料論 (2)	図書館・情報学特殊 (2)			
社会学概論 (4)	社会心理学概論 (4)	文化人類学概論 (4)	社会学史 (4)	社会調査 I (2)	
社会調査 II (2)	医療社会論 (4)	家族・親族論 (4)	教育社会学 (4)	現代社会論 (4)	
コミュニケーション学 (4)	宗教社会学 (4)	対人影響論 (4)	知識社会学 (4)	都市社会学 (4)	
日本社会論 (4)	比較文化論 (4)	普及学 (4)	文化社会学 (4)	社会学特殊 I (4)	
社会学特殊 II (4)	社会学特殊 III (4)	社会学特殊 IV (4)	社会学特殊 V (4)	社会学特殊 VI (4)	
社会学特殊 VII (4)	社会学特殊 VIII (4)	社会学特殊 IX (4)	社会学特殊 X (4)	社会学特殊 XI (4)	
社会学特殊 XII (4)	社会学特講 I (2)	社会学特講 II (2)	社会学特講 III (2)	社会学特講 IV (2)	
社会学特講 V (2)	社会学特講 VI (2)	社会学特講 VII (2)	社会学研究会 I (2)	社会学研究会 II (2)	
社会学原典講読 (2)	社会学洋書講読 (2)				
知覚心理学 I (4)	発達心理学 I (4)	行動分析学 I (4)	認知心理学 I (4)	生物心理学 I (4)	
心理測定論 (2)	心理学史 (2)	心理統計 (4)	心理学原典講読 (2)	心理学実験 I (2)	
心理学実験 II (2)	心理学研究会 I (2)	心理学研究会 II (2)	心理学特殊 I (4)	心理学特殊 II (2)	
心理学特殊 III (2)	知覚心理学 II (2)	発達心理学 II (2)	行動分析学 II (2)	認知心理学 II (2)	
生物心理学 II (2)	数理心理学 (2)	クリニカルワーク概説 (4)	パーソナリティ理論概説 (4)	認知臨床心理学 (4)	
発達臨床心理学 (4)	言語障害臨床 (4)				
教育学概論 (4)	教育学原典講読 (2)	教育史 (4)	教育学史 (4)	比較教育学 (4)	
教育心理学概論 (4)	教育学演習 I (2)	教育学演習 II (2)	教育学研究会 I (2)	教育学研究会 II (2)	
教育学特殊 I (4)	教育学特殊 II (4)	教育学特殊 III (4)	教育学特殊 IV (4)	教育学特殊 V (4)	
教育学特殊 VI (4)	教育学特殊 VII (4)	教育学特殊 VIII (4)	教育学文献講読 I (4)	教育学文献講読 II (4)	
教育学文献講読 III (4)	教育測定実験 (4)	教育研究法 I (2)	教育研究法 II (2)		
人間科学基礎 (2)	人間科学研究法基礎 (2)	人間科学諸領域 I (2)	人間科学諸領域 II (2)	人間科学諸領域 III (2)	
人間科学諸領域 IV (2)	人間科学研究法 (2)	人間科学研究法 (4)	人間科学演習 (2)	人間科学特殊 (2)	
人間科学特殊 (4)	人間科学卒業研究 (2)	人間科学研究会 I (2)	人間科学研究会 II (2)		

(2) 学則第 35 条に定める文学部設置の全専攻共通科目

全専攻共通科目	教育学概論(学芸員)(2)	生涯学習概論(2)	視聴覚教育メディア論(2)	文化財科学Ⅰ(4)	文化財科学Ⅱ(4)
	博物館学(4)	博物館学実習Ⅰ(3)	博物館学実習Ⅱ(3)	博物館学特殊Ⅰ(4)	博物館学特殊Ⅱ(4)
	博物館学特殊Ⅲ(4)	博物館学特殊Ⅳ(4)	漢文講読Ⅰ(2)	漢文講読Ⅱ(2)	応用情報処理Ⅰ(2)
	応用情報処理Ⅱ(2)	応用情報処理Ⅲ(2)	応用情報処理Ⅳ(2)	応用情報処理Ⅴ(2)	応用情報処理Ⅵ(2)
	応用情報処理Ⅶ(2)	情報と職業(2)	情報と倫理Ⅰ(2)	情報と倫理Ⅱ(2)	言語学概論Ⅰ(4)
	言語学概論Ⅱ(4)	言語学概論Ⅲ(4)	言語学特殊Ⅰ(4)	言語学特殊Ⅱ(4)	言語学特殊Ⅲ(4)
	言語学特殊Ⅳ(4)	言語学特殊Ⅴ(4)	言語学特殊Ⅵ(4)	言語学特殊Ⅶ(4)	言語学特殊Ⅷ(4)
	言語学特殊Ⅸ(4)	中国語会話特殊Ⅰ(2)	中国語会話特殊Ⅱ(2)	西洋古典学(4)	西洋古典研究会(2)
	古典ギリシア語文献講読Ⅰ(2)	古典ギリシア語文献講読Ⅱ(2)	現代ギリシア語文献講読Ⅰ(2)	ラテン語文献講読Ⅰ(2)	ロシア語文献講読(2)
	イタリア文学演習(2)	スペイン語圏文化研究(2)	ライフサイエンス(4)	自然科学研究会Ⅰ(2)	自然科学研究会Ⅱ(2)
	カウンセリング概論(4)	カウンセリングワークショップ(4)	アート・マネジメント(4)	アート・プロデュース(4)	名著研究Ⅰ(2)
	名著研究Ⅱ(2)	比較文学Ⅰ(2)	比較文学Ⅱ(2)	演劇の歴史Ⅰ(2)	演劇の歴史Ⅱ(2)
	音楽学Ⅰ(4)	音楽学Ⅱ(4)	英書講読(2)	論文フランス語(初級)(2)	論文フランス語(中級)(2)
	比較精神史(4)	環境問題と大学(2)			

(3) 本年度教授会の認める専門教育科目(全専攻共通科目)

三田キャンパス設置科目

イタリア語文献講読(2) 芸術の現在(4) 文章と表現(4) 古文書の世界(2) 翻訳の世界(2)

極東証券寄付講座

福澤研究センター設置科目

(4) 本大学設置の専門教育科目

教授会の認める各学部設置の専門教育相当科目

必ず以下の専門教育相当科目かどうか各学部の履修案内で確認し、授業担当者の口頭による承認を得てください。

- ・経済学部 : 専門教育科目
- ・法学部 : 法律学科目、政治学科目
- ・商学部 : 専攻科目
- ・理工学部 : 専門教育科目
- ・総合政策学部: 専門科目、クラスター科目
- ・環境情報学部: 専門科目、クラスター科目
- ・看護医療学部: 専門科目

教授会の認める研究所等付属施設の授業科目または講座

言語文化研究所、教職課程センター、斯道文庫、メディア・コミュニケーション研究所、国際センター(三田設置科目・講座)、日本語・日本文化教育センター、知的資産センター設置の授業科目または講座

教職課程センター設置科目の履修上の注意事項

教職課程センターの指示に従い、教職課程センターで教職課程の登録をすると同時に、**文学部の科目として履修申告を行わなければなりません。**

(5) 文学部教職課程教科に関する科目

書道(4)	法学概論(2)	政治学Ⅰ(2)	政治学Ⅱ(2)	口語英語(2)
英作文(2)	比較文化論(2)			

6 自由科目

進級および卒業に必要な単位としては計算されません。

- (1) 同一科目を重複して履修する場合は、専攻別内規で許可されている場合を除き、どちらか一方を自由科目の B 欄分野番号【99】を指定のうえ登録してください。
- (2) 教職課程センター設置の「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「教育実習基礎」は、自由科目となります。

1 一般的注意事項

【学則について】

学則とは、学校が制定する諸規程のうち学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項について規定したものをいいます。

今年度の文学部は、1993年度(平成5年度)に制定された【93学則】と、2004年度(平成16年度)に制定された【04学則】の2種類の学則が適用されます。【93学則】と【04学則】の適用対象者は、以下のとおりです。

【93学則】：2006年度4年生在籍者

【04学則】：2006年度1・2・3年生在籍者

【同一科目の重複履修】

原則として、単位を取得した同一名称の科目を必修科目、選択科目として2度以上履修することはできません。しかし、所属する専攻によっては、専攻別内規に示す範囲で2度以上の履修が認められる場合があります。詳しくは各専攻内規を確認のうえ、各専攻担任に問い合わせてください。

【分野変更】

一度履修・取得・認定した科目の分野は変更できません。

【留学】

在学中に留学する場合は、留学前および帰国後に、専攻担任および学事センターから履修科目に関するガイダンスを受けてください。(P.6参照)

【専攻変更】

原則として認められません。ただし、真にやむを得ない理由のある場合に限り、教授会の議を経て認められる場合があります。これに関わる問題については、学事センターおよび専攻担任に申し出て指導を受けてください。

2 2年生への注意事項

【2年生から3年生への進級条件】

- (1) 学則に定められた各専攻別必修語学の総単位数を満たすこと。(P.4参照)
- (2) 各専攻で進級条件に定められた専門教育科目を履修し、合格すること。

【専攻における語学履修諸注意】

- (1) 哲学系各専攻、日本史学・西洋史学・民族学考古学専攻、英米文学専攻、図書館・情報学専攻、人間関係学系各専攻
1年次に履修した2語種を各4単位履修してください。
- (2) 東洋史学専攻
1年次に履修した2語種のどちらかに代えて、アラビア語、ペルシア語、トルコ語のいずれかを必修語学の語種として履修することができます。東洋史学専攻内規を熟読し、専攻担任の許可を受けたうえで履修申告してください。
- (3) 国文学専攻
1年次に履修した2語種のうち、いずれか1語種を履修してください。
- (4) 中国文学・独文学・仏文学専攻
1年次に履修した2語種のうち、専攻関連語学(中文：中国語、独文：ドイツ語、仏文：フランス語)を1語種4単位履修してください。
所属専攻の専攻関連語学を1年次に履修しなかった学生は、授業開始に先立って、専攻別ガイダンスで

必ず専攻担任に相談してください。

【1 年次必修語学科目履修単位不足者】

- (1) 原則として、日吉設置の語学科目は履修できません。
- (2) 各語種については、以下の要領で三田設置の科目を履修してください。

英語：履修案内と一緒に配布した「語学指定クラス表」を確認してから履修申請してください。

他言語：ドイツ語 ID、フランス語 ID、中国語 ID、スペイン語 ID、イタリア語 ID、朝鮮語 ID、ロシア語 ID
の中から履修してください。

【他学部設置の専門教育科目】

他学部設置の専門教育科目は、上級学年(3・4年生)設置科目のため、2年生は履修できません。

3 2 年生での必修語学の履修方法

2年生で英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語を履修するものは、事前に「エントリーシート」による語学クラス選択申請が必要です。不明な点は、まずこの「履修案内」を熟読してください。決して憶測や風説を元にエントリー手続きを進めないようにしてください。

【英語 A、 B】

エントリーシート提出：4月4日 15:00～ 501番教室(ガイダンス会場にて提出)

結果発表：4月6日 10:00～ 西校舎地下2階掲示

科目名	履修	事前エントリー	履修申告
英語 IIA (指定クラス)	各1コマ、合計2コマを履修	×	
英語 IIB (選択クラス)			

(1)「英語 IIA」(指定クラス)

週1コマの授業が31クラス設置され、必修語学科目として英語を履修する学生は、自動的にその1つに割り振られます。こうして指定されたクラスを変更することは出来ません。全て中級クラスの授業として設定されており、それぞれの授業内容に関しては講義要綱を熟読のうえ、選択クラスや他の英語科目を併せて履修する際の参考としてください。

(2)「英語 IIB」(選択クラス)

週1コマの授業が32クラス設置され、必修語学科目として英語を履修する学生は、その中から1つを選んで履修しなければなりません。全て中級クラスの授業として設定されており、それぞれの授業内容に関しては講義要綱を熟読のうえ、指定クラスの授業内容との兼ね合いを考え、自分の必要とするものを検討しながら希望するクラスを選ぶことが大切です。

・履修方法

講義要綱を熟読のうえ、履修したいクラスを第1希望から第8希望まで選んでください。(別紙「英語 IIB 履修要領」エントリーコード参照)

「エントリーシート」に学籍番号、氏名を記入し、希望クラスのエントリーコード欄に希望する番号をマークしてください。

注意：同じクラスを複数回記入した場合には反則とみなされ、抽選では後回しとされます。記入した希望クラス全ての抽選に外れた場合には、無作為に空きのあるクラスへと割り振られます。

【英語 上級 A、 上級 B】

この科目の履修を希望する場合には、英語ガイダンス(4月4日(火)15:00～)又は英語質問受付(4月12日(水)12:15～13:00)に必ず出席し、許可を得てください。特に希望する場合には必修語学への振替も可能です。それぞれ所定用紙(英語ガイダンスおよび英語質問受付時に配布)に記入のうえ、アーマ君もしくはスネル君の許可印を受けて4月17日(月)15:00までに学事センターに提出してください。期日までに用紙が提出されない場合は、履修申告は無効になります。

【中国語 A、 B・フランス語 A、 B】

エントリーシート提出：4月3日 8:45～11:30 学事センター前受付 BOX

結果発表： 4月4日 9:00～ 西校舎地下2階掲示

科目名	履修		事前エントリー	履修申告
中国語 IIA	(指定クラス)	各1コマ、合計2コマを履修	×	
中国語 IIB	(選択クラス)			
フランス語 IIA	(指定クラス)	各1コマ、合計2コマを履修	×	
フランス語 IIB	(選択クラス)			

(1)「中国語 IIA・フランス語 IIA」(指定クラス)

指定クラスは、自動的にその1つに割り振られます。「平成18年度文学部2年生語学指定クラス表」(別紙)に従って履修してください。特別な事情によって指定クラスの履修が困難な場合は、学事センターに申し出てください。

(2)「中国語 IIB・フランス語 IIB」(選択クラス)

選択クラスは、「エントリーシート」により事前に学生が選択希望を申告し、必要に応じて抽選により決定します。所属専攻の必修科目・指定専門教育科目など、今年度必ず履修しなければいけない科目と授業時間が重ならないクラスを、各自で選択してエントリーシートを提出してください。

・履修方法

講義要綱を熟読のうえ、履修したいクラスを中国語は第3希望以上、フランス語は第6希望以上選んでください。(別紙「必修語学(諸国語)履修要領」エントリーコード参照)

「エントリーシート」に学籍番号、氏名を記入し、希望クラスのエントリーコード欄に希望する番号をマークしてください。

注意：指定クラスを選択クラスとして履修することはできません。

希望者数が定員を超えるものについては抽選を行います。決定したクラスの変更は認めません。

但し、特別な事情で変更の必要が生じた場合は、速やかに学事センターに申し出てください。

【ドイツ語、スペイン語、イタリア語】

エントリーシート提出：4月3日 8:45～11:30 学事センター前受付 BOX

結果発表： 4月4日 9:00～ 西校舎地下2階掲示

科目名	履修	事前エントリー	履修申告
ドイツ語 II	2コマ履修		
スペイン語 II	2コマ履修		
イタリア語 II	A群、B群より各1コマ履修		

(1) 各語種とも、曜日と時限を自由に選ぶことができます。

・履修方法

講義要綱を熟読のうえ、履修可能な授業全てを選んでください。(別紙「必修語学(諸国語)履修要領」エントリーコード参照)

「エントリーシート」に学籍番号、氏名を記入し、希望クラスのエントリーコード欄に希望する番号をマークしてください。

注意：2年生で履修しなくてはならない科目と重ならないよう注意してください。

4 学士入学および2年編入の学生への注意事項

- (1) 学士入学者は、2年生の各専攻指定必修科目などを3年生において併せて履修してください。
- (2) 学士入学者および2年編入者は、一般進学者と条件が異なる場合が多いので、必ず各専攻の担当者から特別ガイダンスを受けてください。

日 時：4月7日(金)9:00～

集合場所：研究室会議室 B (三田校舎 研究室棟 1 階) 名前を呼ばれるまで待機しててください。

5 学芸員資格の取得について【04学則】

学芸員の資格を取得しようとする場合は、以下の学科目を履修し、ガイダンスに出席して所定の手続きを行ってください。ガイダンスは、4月初めの博物館学実習ⅠA・B・C・Dいずれか(文学部全専攻共通科目)の初回授業で行われます。必ず出席し、登録・申請をしてください。なお、実習費として3,000円が必要になります。

実習費支払締切日：2006年5月31日(水) 学事センター文学部係

とを履修した場合、それぞれに実習費が必要になります。

履修申告をした学生は、授業の参加、不参加にかかわらず、必ずお支払いください。

支払締切日までに支払い手続きのない場合は、6月1日(木)に履修科目を削除します。それによって、卒業に必要な単位が不足する場合や、学芸員資格に必要な科目が不足する場合がありますので、十分ご注意ください。

【学芸員資格取得に必要な科目】()内は単位数を表す。

	授 業 科 目	備 考	時間割設置
必 修 科 目	博物館学(4)	必修	全専攻共通科目
	博物館学実習ⅠA(3)	このうち1科目必修	
	博物館学実習ⅠB(3)		
	博物館学実習ⅠC(3)		
	博物館学実習ⅠD(3)		
	博物館学実習ⅡA(3)	このうち1科目必修	
	博物館学実習ⅡB(3)		
	博物館学特殊Ⅰ(資料論・有形)(4)	このうち1科目必修	
	博物館学特殊Ⅱ(資料情報処理)(4)		
	博物館学特殊Ⅲ(展示・普及)(4)		
	博物館学特殊Ⅳ(企画・運営・教育)(4)		
	文化財科学Ⅰ(4)	このうち1科目必修	
	文化財科学Ⅱ(4)		
	生涯学習概論(2)	必修	
視聴覚教育メディア論(2)	必修		
教育学概論(学芸員)(2)	必修		
選 択 科 目	民族学(4)	このうち2科目	民族学考古学専攻
	考古学(4)		美学美術史学専攻
	東洋美術史概説A(4)または東洋美術史概説B(4)		
	西洋美術史概説A(4)または西洋美術史概説B(4)		
	アート・マネジメント(4)		全専攻共通科目
アート・プロデュース(4)			

平成8年度までに、社会教育(2)視聴覚教育(2)教育原理(4)の各単位を取得した場合は、上記生涯学習概論(2)視聴覚教育メディア論(2)教育学概論(2)の各単位を取得したものとみなします。

東洋美術史概説A・B、西洋美術史概説A・Bのうちから2科目を修得しても選択科目の充足とはなりません。

6 よくある質問【2・3年生(04学則)】

項目	質問	適用学年	回答
履修	履修申告は何単位までできますか？	2・3・4年生	文学部2・3・4年生には履修単位の上限はありません。
	総合教育科目はどれでも履修申告できる？	2・3・4年生	他学部設置の総合教育科目は履修申告できません。文学部の時間割に掲載されているもののみになります。
	総合教育科目(日吉)の履修制限について	2・3・4年生	履修申告期間中に正しく申告ができた学生に限り、抽選の対象となります。抽選結果発表は、日吉・三田キャンパス掲示板および Web で行います。URL: http://www.hc.keio.ac.jp/gakuji/
	必修語学の履修要領が分かりません。	2年生	履修案内 P.34、必修語学履修要領配布プリントをよく読んでください。
	必修としてではなく、語学を履修したい。	2・3・4年生	「全学部共通外国語科目履修案内」(別冊)に掲載されている科目や、外国語教育研究センター設置科目(独自科目)を履修する事ができます。
	選択科目って？	2・3・4年生	履修案内 P.30～32に掲載されている科目のことを指します。
	他専攻の科目も履修できますか？	2・3・4年生	履修できます。A欄申告で、専門教育科目の選択科目として履修する事ができます。
	他学部の専門科目は履修できますか？	2年生	上級学年設置科目のため、2年生では履修できません。
	他学部の研究会は履修できますか？	2年生	上級学年設置科目のため、2年生では履修できません。
	他学部のゼミで卒論を提出し卒業したい。	3・4年生	文学部所属専攻の要件を満たさないと卒業できません。
	体育科目を履修したい。	2・3・4年生	時間割の該当(体育研究所)ページおよび履修案内を参照の上、必ず体育研究所のガイダンスに出席してください。締切、抽選等がありますので十分注意してください。また、4単位までが卒業単位(総合教育科目(系列外))になります。
	メディア・コミュニケーション研究所の授業がとりたい。	2・3・4年生	入所説明会や手続を経て研究生になった学生以外はオープン科目しか履修できません。詳細は、講義要綱を参照のうえ、メディア・コミュニケーション研究所にご確認ください。
	外国語教育研究センターの科目を履修したい。	2・3・4年生	文学部の時間割に掲載されている科目以外は履修申告できません。外国語教育研究センターのガイダンスに出席し、所定の手続を経た上で履修申告を行ってください。
他専攻の科目の重複履修はできますか？	2・3・4年生	他専攻の科目を選択科目として重複履修することはできません。例えば、美学美術史学専攻以外の学生は、「美術史特殊」を複数履修することはできません。	
資格	学芸員資格について教えてください。	2・3年生	履修案内 P.36を参照してください。
	教職に必要な科目を履修した場合は？	2・3・4年生	教職課程センター設置科目は、専門教育科目(選択科目)として履修できます。但し、教育実習・教育実習基礎は自由科目になります。教員免許取得に必要な科目が、専攻に設置されている場合は、教職と専攻の単位数両方の要件を満たすこととなります。但し、履修申告期間に正しく履修申告がなされている場合に限りです。
その他	専攻別学生カードの提出先は？(2・3年のみ)	2・3年生	専攻担任に提出してください。詳細は専攻別ガイダンスで確認してください。
	三田には科目ガイダンス週間がありますか？	2・3・4年生	ありません。8日から授業を開始しますので履修申告する科目は出席してください。
	他学部や、他地区の時間割・講義要綱を閲覧したい。	2・3・4年生	学事センター閲覧コーナー(閲覧のみ)もしくはメディアセンター 1F 複写カウンター(閲覧、コピー)で可能です。Webでも閲覧する事ができます。
	専攻担任ってなんですか？	2・3・4年生	所属専攻学生全員を取りまとめて受け持つ先生のことです。留学・休学・退学を希望する場合は必ず専攻担任の面接と承認が必要になります。また、所属専攻内の事で相談したいことがある場合はまず専攻担任に相談してください。
	先生の連絡先を教えてください。	2・3・4年生	学事センターでは、先生の個人情報は一切お教えできません。
	授業内やレポートボックス回収で提出できなかったレポートを先生に転送してほしい。	2・3・4年生	学事センターでは、レポートに限らず、担当教員への書類の転送は一切行っていません。
	ゼミに関する情報はどこにありますか？	2・3・4年生	西校舎地下2階の掲示板に掲出しています。

MEMO

A series of horizontal dashed lines providing space for writing a memo.

文学部では学則の他に専攻ごとに専攻内規を定めています。各自、所属する専攻の内規を熟読の上、不明な点がある場合は、履修申告の前に、専攻担任に必ず相談してください。

【目次】

哲 学 専 攻	40
倫 理 学 専 攻	42
美学美術史学専攻	44
日 本 史 学 専 攻	46
東 洋 史 学 専 攻	48
西 洋 史 学 専 攻	50
民族学考古学専攻	52
国 文 学 専 攻	54
中 国 文 学 専 攻	56
英 米 文 学 専 攻	58
独 文 学 専 攻	60
仏 文 学 専 攻	62
図書館・情報学専攻	64
社 会 学 専 攻	68
心 理 学 専 攻	70
教 育 学 専 攻	72
人 間 科 学 専 攻	74

【学則第156条適用に関する文学部内規】<04学則>

在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1, 2学年については2年間ずつ在籍することができる。
- (2) 3年進級条件科目のある専攻は、第3・4学年各々2年間ずつ在籍することができる。
 該当専攻：倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、
 英米文学、図書館・情報学、心理学、教育学
- (3) 3年進級条件科目のない専攻は、第3・4学年計4年間在籍することができる。
 該当専攻：哲学、国文学、中国文学、独文学、仏文学、社会学、人間科学

哲学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	コース	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必要単位			
必修科目	基礎コース	30-01-11	哲学倫理学原典講読 (4) ... 2 年進級条件科目	のうち 3 科目 (12)	48 単 位		
		30-01-21	哲学概論 (4) 西洋哲学倫理学史Ⅰ (4) 西洋哲学倫理学史Ⅱ (4) 論理学入門 (4)				
		専門コース	30-01-22			科学の哲学 (4) 中級論理学 (4) 知識の哲学 (4) 形而上学 (4) 現代論理学の諸問題 (4) 心の哲学 (4) 言語の哲学 (4) 現象学 (4) 宗教の哲学 (4) 哲学原典研究Ⅰ (独) (4) 哲学原典研究Ⅱ (仏) (4) 哲学原典研究Ⅲ (英) (4) 哲学原典研究Ⅳ (古典) (4)	のうち 5 科目 (20)
						30-01-23	
	研究会			30-01-31		哲学研究会Ⅰ (2)	
				30-01-32		哲学研究会Ⅱ (2)	
	卒試			30-01-41		卒業試験 (卒業論文)	
	選択科目			30-01-55		大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目 選択科目には哲学専攻設置の次の科目も含まれる 印度哲学 (4)・宗教学 (4)	

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 48 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない (倫理学専攻開講の哲学倫理学原典講読 (英) は卒業に必要な単位に含めない)。

【第 2 学年】

- (1) 進級条件科目
哲学倫理学原典講読 (倫理学専攻開講の哲学倫理学原典講読 (英) は含めない)
- (2) 基礎コースの科目は第 2 学年で履修することが望ましい。

【第 3 学年】

- (1) 第 3 学年ではいずれかの研究会Ⅰを必修科目として履修すること。進級条件科目ではないが、研究会Ⅰを必修として取得していないと、研究会Ⅱは履修できなくなる。
- (2) 研究会Ⅰを同一学年で二つ以上履修する場合は一つを必修とし、他は選択科目として履修申告 (B 欄 55) す

ること。

- (3) 専門コースの科目は第 3・4 学年で履修することが望ましい。

【第 4 学年】

- (1) 第 4 学年ではいずれかの研究会 II を必修科目として履修する（前年度まで必修として履修した研究会 I の単位が取得できていないと、研究会 II を履修することはできない）。なお、同一担当者の研究会を 2 年連続して履修しなくともよい。
- (2) 研究会 II を同一学年で二つ以上履修する場合は一つを必修科目として履修申告（A 欄）し、他は選択科目として履修申告（B 欄 55）すること。
- (3) 卒業試験は卒業論文とし、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4 年生は文学部時間割に記載されている研究会担当教員の「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号）。
- (4) 専門コースの科目は第 3・4 学年で履修することが望ましい。

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された 24 単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 単位取得済科目の再履修は、授業科目系列表内の必修科目（倫理学専攻開講のものを含む）に限り、次の場合には何度でも選択科目として認められる（A 欄申告）。
- （ア）担当者が異なる場合
- （イ）担当者は同じだが内容が異なる場合（この場合は、履修届提出日前に専攻担任（平成 18 年度は中川純男、堀江聡）の判断を求め、履修届（WEB 履修の場合、画面のプリントアウト）に認定のサインを受けること）
- (2) 1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目（分野 30-01-21・30-01-22・30-01-23）を、指定数を超えて履修（A 欄申告）した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (3) 専門コースで「中級論理学」、「現代論理学の諸問題」を履修しようとする者は基礎コースで「論理学入門」を先に履修しておくこと。

倫理学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】(* = 半期科目)

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位	
必修科目	30-02-11	倫理学概論 (4) 倫理学の基礎 I (2) * 倫理学の基礎 II (2) *	36 単 位	
	30-02-12	哲学倫理学原典講読 (英) (4) 哲学倫理学原典講読 (独) (4) 哲学倫理学原典講読 (仏) (4) 哲学倫理学原典講読 (露) (4) } のうち 4 単位		
	30-02-13	西洋哲学倫理学史 I (4) 西洋哲学倫理学史 II (4)		
	30-02-21	倫理学の課題 I (2) * 倫理学の課題 II (2) * 倫理学の課題 III (2) * 倫理学の課題 IV (2) * 哲学概論 (4) 哲学倫理学特殊 (4) } のうち 8 単位		
	30-02-22	日本倫理思想 (4) 東洋倫理思想 (4) キリスト教概論 (4) 仏教学概論 (4) [国文学専攻設置] } のうち 4 単位		
	研究会	30-02-31 倫理学研究会 I (2) 30-02-32 倫理学研究会 II (2)		
	卒試	30-02-41 卒業試験 (卒業論文)		
	選択科目	30-02-55 大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目 倫理学専攻設置の次の科目を含める 倫理学洋書講読 (4)・中国哲学 (4)		36 単 位 以 上

2 必修科目

必修科目として、授業科目系列表に示された 36 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【第 2 学年】

特別の理由がない限り、倫理学概論、倫理学の基礎 I、II、哲学倫理学原典講読を履修しなければならない。特別の理由がある者は、履修相談日に専攻担任に申し出、許可状の発行を受け、履修申告期間中に学事センターへ提出すること。ただし、進級条件科目ではない。

哲学倫理学原典講読の主目的は、研究会で使用する英語以外の外国語 (ドイツ語・フランス語・ロシア語) の修得であるから、日吉でドイツ語・フランス語・ロシア語を履修した者は同一語種を選択することを原則とし、英語や中国語を選択することはできない。

日吉で中国語を履修した者で中国思想を研究したい者のみ、中国文学専攻設置の中国文学演習 I を履修することができ、単位を取得すれば、当専攻の哲学倫理学原典講読の単位として認定するので、希望者は必ず履修相談

日に来談して、専攻担任から許可状の発行を受けること。

日吉で中国語を履修した者で中国思想を研究しない者および日吉でイタリア語・スペイン語・朝鮮語を履修した者は、ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語のうちから、自分が研究したい領域の言語を選択すること。この場合、英語以外は、第3学年で履修することを例外的に認めることがあるので、希望者は必ず履修相談日に来談して、専攻担任から許可状の発行を受けること。

【第3学年】

進級条件科目

倫理学研究会Ⅰ

3・4学年の2年間継続して、同一担当者の研究会を必修科目として履修すること。

【第4学年】

(1) 倫理学研究会Ⅱ

3・4学年の2年間継続して、同一担当者の研究会を必修科目として履修すること。

(2) 卒業試験は論文とし、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること(研究会とは別の登録番号)。

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された36単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 必修科目のなかで、1グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目(分野30-02-21・30-02-22)を指定単位数を超えて履修(A欄申告)した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (2) 単位取得済科目の再履修は、分野番号30-02-11から30-02-32までのうち、30-02-12を除き、次の場合にのみ選択科目として許可する。
 - (ア) 担当者が異なる場合
 - (イ) 担当者は同じだが、内容が前(々)年度と異なる場合(この場合は、履修相談日に専攻担任の判断を求め、許可状の発行を受けること)
- (3) 履修申告の前に、専攻担任による履修相談日を設ける。来談して専攻担任の許可状の発行を受けなければならない者は上記に該当する場合であるが、その他の項の例外に該当する者も来談すること。許可状は、履修申告期間中に学事センターへ提出すること。

美学美術史学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単位		
必修科目	30-03-11	芸術研究基礎 (2)	38 単位		
	30-03-12	美学美術史学原典講読Ⅰ(英)(2) 美学美術史学演習 (2)			
	30-03-13	美学美術史学原典講読Ⅱ(独・仏・伊・日)(2)			
	30-03-14	美学概論 (4) 芸術学 (2)			
	30-03-21	東洋美術史概説 (4)		のうち 2 種類以上にわたり 3 科目 (12)	
	30-03-22	西洋美術史概説 (4)			
	30-03-23	西洋音楽史概説 (4)			
	選択必修	30-03-24		美学特殊 (4) 美術史特殊 (4) 音楽史特殊 (4)	のうち 1 科目 (4)
		30-03-25		アート・マネジメント (4)【全専攻共通科目】 アート・プロデュース (4)【全専攻共通科目】	のうち 1 科目 (4)
	研究会	30-03-31		美学美術史学研究会Ⅰ (2)	
30-03-32		美学美術史学研究会Ⅱ (2)			
卒試	30-03-41	卒業試験 (卒業論文)			
選択科目	30-03-55	大学設置 (学部学則第 35 条3 項参照) の専門教育科目	34 単位以上		

2 必修科目

卒業時まで専門教育科目については上に掲げた授業科目系列表にしたがって、必修科目として 38 単位を取得しなければならない。

【第 2 学年】

- (1)「芸術研究基礎」,「美学美術史学原典講読Ⅰ」,「美学美術史学演習」は必ず履修すること。
(ただし進級条件科目ではない。)
- (2)第 1, 第 2 学年を通じて, 語学科目計 18 単位 (英語を選択していない場合は 20 単位) を取得しないと第 3 学年に進級できない。

【第 3 学年】

- (1)「美学美術史学研究会Ⅰ」は第 4 学年への進級条件科目である。研究会を履修する場合, 学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し, 履修の許可を得なければならない。
- (2)「芸術学」,「アート・マネジメント」,「アート・プロデュース」は本学年で履修することが望ましい。

【第 4 学年】

- (1)「美学美術史学研究会Ⅱ」は卒業条件科目である。研究会を履修する場合, 学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し, 履修の許可を得なければならない。

- (2) 卒業試験は論文試験とし、必修として履修した「美学美術史学研究会 II」の指導教授による「卒業試験（卒業論文）」（研究会とは別の登録番号、文学部時間割に記載されている）を必ず履修し、その指導教授に卒業論文を提出すること。
- (3) 第4学年において留年した者は、「美学美術史学研究会 II」について、たとえ単位を取得していても、再度必ず履修すること。

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された34単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならぬ。

4 共通

- (1) 「芸術研究基礎」の履修は、原則として本専攻の第2学年生のみが可能であり、第2学年次に単位取得できなかった者についてのみ第3学年次以降での履修を認める。
- (2) 「東洋美術史概説」、「西洋美術史概説」、「西洋音楽史概説」の概説科目は、計12単位を必修とするが、その内ひとつの概説科目に限り、担当者の異同を問わず、計8単位までを必修と認める。
- (3) 「美学特殊」、「美術史特殊」、「音楽史特殊」の特殊科目は、その内ひとつの科目4単位を必修とする。
- (4) 全専攻共通科目の「アート・マネジメント」と「アート・プロデュース」については、その内ひとつの科目4単位を本専攻の必修とする。
- (5) 「芸術研究基礎」を除く美学美術史学専攻の授業科目は、必修および選択科目として、担当者の異同を問わず、何度でも履修できる。（他専攻の専門教育科目、全専攻共通科目については、重複して履修することはできない。）
- (6) 同一年度に必修科目として指定単位数を超えて履修した場合、その超過分は選択科目とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (7) 必修科目として履修したものと同名の科目を選択科目として履修する場合も、履修申告用紙のA欄に記入すること。
- (8) 在学中に留学を考えている者は、当該年度の履修申告に際して必ず専攻担任に相談の上、学事センターに申し出ること。

日本史学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必要単位	
必修科目	30-04-11	日本史史料講読(A)または(B)(2)	36 単 位	
	30-04-12	史学概論(4)		
		古文書学(4)		
	30-04-13	日本史概説Ⅰ(4)		
		日本史概説Ⅱ(4)		
	選択必修	30-04-21		日本史特殊(各4)のうち2科目(8)
		30-04-22		日本史演習(各2)のうち1科目(2)
		30-04-23		東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4)【東洋史学専攻設置】 西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4)【西洋史学専攻設置】 } のうち1科目(4)
研究会	30-04-31	日本史研究会Ⅰ(A)~(G)(2)		
	30-04-32	日本史研究会Ⅱ(A)~(G)(2)		
卒試	30-04-41	卒業試験(卒業論文)		
選択科目	30-04-51	日本史洋書講読(2)	36 単 位 以 上	
		日本史演習(各2)		
指定選択		日本史概説Ⅰ・Ⅱ(各4)	のうち12単位以上を含めなければならない。	
	日本史特殊(各4)			
	東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4)【東洋史学専攻設置】			
	西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4)【西洋史学専攻設置】			
	東洋史特殊(4)【東洋史学専攻設置】			
	西洋史特殊(4)【西洋史学専攻設置】			
	哲学倫理学特殊(4)【哲学専攻設置】*			
	考古学(4)【民族学考古学専攻設置】			
	民族学(4)【民族学考古学専攻設置】			
選択科目	30-04-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		

* 専攻担任が指定する科目に限る

2 必修科目

必修科目として、授業科目系列表に示された 11 科目 36 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【第 2 学年進級条件科目】

日本史史料講読

【第 3 学年進級条件科目】(第 2 学年では履修することができない)

日本史研究会Ⅰ(担当者の許可を得たもの)

【第 3 学年指定必修科目】(第 2 学年では履修することができない)

日本史演習(担当者の許可を得たもの)

【第4学年指定必修科目】(第2・3学年では履修することができない)

日本史研究会Ⅱ(担当者の許可を得たもの)

【各学年共通】

- (1) 史学概論は、日本史学専攻の登録番号で履修すること。
- (2) 日本史概説Ⅰ・Ⅱを共に卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。
- (3) 東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの中から1科目を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。
- (4) 日本史特殊は、卒業までに8単位を履修し、単位を取得しなければならない。
- (5) 卒業試験(卒業論文)について
卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること(日本史研究会Ⅱとは別の登録番号がある)。

3 選択科目

- (1) 授業科目系列表に選択科目として示された科目の中から、卒業までに36単位を履修し、単位を取得しなければならない。
- (2) そのうちの少なくとも12単位については、指定された科目群(分野番号30-04-51)の中から、相異なる科目を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
指定単位数を超えて履修した必修科目は、選択科目(30-04-51または30-04-55)とみなし、卒業単位として取り扱う。したがって、履修申告では、必修単位として挙げられている科目は全てA欄に記入すること。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
日本史学専攻以外の設置科目については、重複履修を認めない。
日本史学専攻の設置科目については、日本史史料講読、日本史研究会・を除き必修科目・選択科目ともに、担当者の異同を問わず、同一科目の重複履修を認める。
- (3) 研究会の履修方法
各研究会は指定された学年で履修しなければならない。
各学年で2科目以上履修することはできない。

東洋史学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位	
必修科目	30-05-11	東洋史研究入門 (2)	40 単 位	
	30-05-12	東洋史講読 A~E (2)		
	30-05-13	東洋史概説 I (4)・II (4)・III (4)		
	30-05-21	東洋史特殊 A~K (各 4) ... のうち 4 科目 (16)		
	30-05-22	史学概論 (4) [史学系設置科目] 日本史概説 I・II (各 4) [日本史学専攻設置] 西洋史概説 I・II・III (各 4) [西洋史学専攻設置]		} のうち 1 科目 (4)
	30-05-31	東洋史研究会 IA~F (各 2) のうち 1 科目 (2)		
	研究会	30-05-32		東洋史研究会 IIA~F (各 2) のうち 1 科目 (2)
卒試	30-05-41	卒業試験 (卒業論文)		
選択科目	指定 選択	30-05-51 東洋史特殊 A~K (各 4) 東洋史研究会 IA~F (各 2) 東洋史研究会 IIA~F (各 2)	32 単 位 以 上	
	選択 科目	30-05-55 大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目 東洋史学専攻設置の次の科目を含む 東洋史演習 A~C (各 2)		

2 必修科目

必修科目として、別掲の授業科目系列表に示された 12 科目 40 単位を卒業までに履修し、かつ単位取得しななければならない。

【第 2 学年進級条件科目】

東洋史研究入門

【第 3 学年進級条件科目】

東洋史講読 A~E のうち 1 科目, 東洋史研究会 IA~F のうち 1 科目

【第 4 学年】

卒業試験は卒業論文によって行う。第 4 学年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号がある)。

【全学年共通】

- (1) 東洋史講読 A~E のうち 1 科目を第 2 学年または第 3 学年において必修科目として履修し、かつ単位取得しななければならない。
- (2) 東洋史概説は I・II・III それぞれを履修し、かつ単位取得しななければならない。
- (3) 必修の東洋史特殊 4 コマのうち、1 コマは専任教員担当の授業を取るのが望ましい。
- (4) 東洋史特殊 A~K は同一担当者の講義を続けて履修しても内容は毎年異なるので、必修科目および選択科目の単位として加算される。
- (5) 史学概論は東洋史学専攻の【授業科目系列表】に示されている分野番号で登録しななければならない。

- (6) 東洋史研究会 I・II は同一担当者の科目を第 3・4 学年においてそれぞれ必修科目の単位として 1 科目ずつ 2 年間連続して履修することを原則とする。同一学年において 2 科目を超えて履修することをさまたげないが、その場合、一つを必修科目として履修し、残りは選択科目 (B 欄 51) としなければならない。第 3・4 学年に連続して同一担当者の東洋史研究会を必修科目として単位取得することが望ましいが、事情により第 3 学年に選択科目として単位取得した東洋史研究会 I と同一担当者の東洋史研究会 II を第 4 学年において必修科目として履修し、その担当者の「卒業試験 (卒業論文)」を履修することもできる。
- (7) 卒業試験 (卒業論文) の履修者のなかで、すでに東洋史研究会 I・II を必修科目として単位取得済みの者 (たとえば第 4 学年で卒業論文を提出しなかった場合) は卒業試験 (卒業論文) 担当者の東洋史研究会 I・II を選択科目または自由科目として履修することが望ましい。
- (8) 第 2 学年において選択必修語学科目のうち 1 語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれかひとつの語種にふりかえることができるが、同一語種を 2 科目 (4 単位) 履修し、単位取得しなければならない。その場合、アラビア語とトルコ語については文学部設置のアラビア語 I とアラビア語 II、またはトルコ語 I とトルコ語 II を履修し、かつ単位取得しなければならない。またペルシア語については、1 科目は文学部設置のペルシア語を、もう 1 科目は言語文化研究所特殊講座のペルシア語 I (初級) を履修し、かつ単位取得しなければならない (B 欄 91)。

3 選択科目

- (1) 選択科目は、別掲の授業科目系列表に示された科目のなかから卒業までに 32 単位を履修し、かつ単位取得しなければならない。
- (2) 東洋史演習 A～C、文学部設置のアラビア語、ペルシア語、トルコ語、中国語、朝鮮語、それに言語文化研究所特殊講座のアジア諸言語を選択科目としてできるだけ積極的に履修することが望ましい。

4 各学年共通

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
- ・必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定されている科目について指定単位数を超えて履修し、かつ単位取得した場合は選択科目の単位とみなす (A 欄申告)。
 - ・東洋史特殊 A～K、東洋史研究会 IA～F・IIA～F は必修科目の指定単位数を超えて単位取得した場合、合計 12 単位まで指定選択科目 (分野番号は 30-05-51) として認める。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
- ・東洋史講読 (30-05-12) は、担当者の異同にかかわらず選択科目 (30-05-55) の単位とみなされる (A 欄申告)。
 - ・東洋史概説 I・II・III (30-05-13) は、担当者が異なれば選択科目 (30-05-55) とみなされる (A 欄申告)。
 - ・東洋史特殊 (30-05-21) は、同一担当者の授業を繰り返し履修し、かつ単位取得した場合にも必修科目 (必修科目の必要単位数を超えた場合は指定選択科目 (30-05-51)) として加算される (A 欄申告)。
 - ・東洋史演習 (30-05-55) は、同一担当者の授業を繰り返し履修し、かつ単位取得した場合にも選択科目 (30-05-55) として加算される (A 欄申告)。
- (3) 研究会の履修方法
- 第 2 学年で履修する場合は、選択科目 (30-05-51) として履修申告できる (B 欄 51)。
- 各学年で 2 科目履修する場合、1 つは (30-05-31 または 32)、1 つは (30-05-51) とする (B 欄 51)。ただし、第 3 学年で 2 科目 (4 単位) を取っても卒業要件を満たさない。

西洋史学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単位
必修科目	必修	30-06-11 史学概論 (4)	40 単 位
		30-06-12 西洋史学原典講読 (2)	
		30-06-13 西洋史演習 (2)	
		30-06-14 西洋史概説 I (4)・II (4)・III (4)	
	選択必修	30-06-21 西洋史特殊 A~L (各 4) のうち 2 科目 (8)	
		30-06-22 日本史概説 I (4)・II (4)【日本史学専攻設置】のうち 1 科目 (4)	
		30-06-23 東洋史概説 I (4)・II (4)・III (4)【東洋史学専攻設置】のうち 1 科目 (4)	
	研究会	30-06-31 西洋史研究会 I (A)~(G)(2)	
		30-06-32 西洋史研究会 II (A)~(G)(2)	
卒試	30-06-41 卒業試験 (卒業論文)		
選択科目	30-06-55	大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	32 単 位 以 上

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 12 科目 40 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【第 2 学年】

(1) 進級条件科目

西洋史学原典講読

第 2 学年の在籍者で、次のいずれかの条件に該当する者は、第 2 学年の初めに専攻担任の別個のガイダンスを受けること。

- ・必修語学として英語を履修していない。
- ・必修語学として独語・仏語・伊語・西語・露語のうちいずれの言語も履修していない。

【第 3 学年】

(1) 進級条件科目

西洋史研究会 I (A)~(G) のうちのいずれか 1 科目

第 3・4 学年において同一担当者の西洋史研究会 I および II を継続して履修することを原則とする。

西洋史演習 (独語・仏語・伊語・西語・露語のいずれか)

【第 4 学年】

(1) 指定必修科目

西洋史研究会 II (A)~(G) のうちのいずれか 1 科目

第 3・4 学年において同一担当者の西洋史研究会 I および II を継続して履修することを原則とする。

- (2) 卒業試験は卒業論文によっておこなう。第 4 学年は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること。

【各学年共通】

- (1) 西洋史概説はⅠ・Ⅱ・Ⅲのそれぞれを履修しなければならない。
- (2) 西洋史特殊 2 科目は、それぞれ別の担当者の科目を必修科目として履修しなければならない。
- (3) 史学概論は西洋史学専攻の【授業科目系列表】に示されている分野番号で登録しなければならない。

3 選択科目

選択科目は、大学および諸研究所・センター設置の専門教育科目（学部学則 35 条 3 項）の中から卒業までに 32 単位以上を履修し、かつ単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 西洋史学原典講読と西洋史演習は、それぞれ 2 単位は必修科目として、それ以上は選択科目として上限を設けずに履修を認める。なお、同一担当者の講義を何度重複履修してもさしつかえない。
- (2) 西洋史特殊 A～L を 2 科目を超えて必修科目として履修し単位を取得した場合、2 科目までは必修科目、3 科目めからは選択科目の単位とみなす。ただし、すでに取得済みの科目と同一担当者による科目を選択科目として履修することはできない（同一科目名でも担当者が異なる場合は選択科目として履修できる）。
- (3) 日本史概説Ⅰ・Ⅱと東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを、それぞれ必修科目として指定されている 4 単位を超えて履修し単位を取得した場合は、選択科目とみなす。ただし、同一のローマ数字の科目を選択科目として重複履修することはできない。
- (4) 史学概論、西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、西洋史研究会Ⅰ・Ⅱの重複履修は選択科目として認めない。
- (5) 西洋史研究会Ⅰ・Ⅱは第 2 学年で履修することはできない。また同一学年で 2 科目以上履修することはできない。

民族学考古学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
必修科目	30-07-11	民族学考古学原典講読(2)	40 単 位		
	30-07-12	史学概論(4)			
	30-07-13	民族学考古学実習(2)			
	30-07-21	民族学考古学特殊 A~K(各 4)のうち 2 科目(8)			
	30-07-22	考古学(4) 民族学(4) 人類学概論(4) 民族学考古学研究法(4) } いずれか 3 科目(12)			
	30-07-23	日本史概説 I(4)・II(4) [日本史学専攻設置]		日本史概説・東洋史概説・西洋史概説の 三つの系列のうちから二つの系列にわたっ て 2 科目(8)を必修として履修すること。	
	30-07-24	東洋史概説 I(4)・II(4)・III(4) [東洋史学専攻設置]			
	30-07-25	西洋史概説 I(4)・II(4)・III(4) [西洋史学専攻設置]			
	研究会	30-07-31		民族学考古学研究会 I(A)~(E)(2)	
		30-07-32		民族学考古学研究会 II(A)~(E)(2)	
卒試	30-07-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-07-55	大学設置(学部学則第 35 条 3 項参照)の専門教育科目	32 単 位 以 上		

2 必修科目

卒業試験は卒業論文によって行う。4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。(研究会とは別の登録番号があります。)

【第 2 学年進級条件科目】

民族学考古学原典講読

【第 3 学年進級条件科目】

民族学考古学研究会 I

【第 4 学年卒業条件科目】

民族学考古学研究会 II, 卒業試験(卒業論文)

【各学年共通】

(1) 民族学考古学実習は 2 年生で履修するのが望ましい。

(2) 民族学考古学研究会 I・II

民族学考古学研究会 I(A)~(E)は第 3 学年において履修し, II(A)~(E)は第 4 学年(卒論指導)において履修する。したがって, 第 3 学年において民族学考古学研究会 I(A)~(E)のいずれかの単位を取得しない場合は, 第 4 学年に進級できない。

- (3) 民族学考古学特殊 A～K (分野 30-07-21) は 2 科目 8 単位を必修とする。また、民族学考古学専攻の学生については、同一担当者でも選択科目としての再履修を認める。
- (4) 卒業試験は卒業論文によって行う。第 4 学年は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目

選択科目として、卒業までに 32 単位を履修し、かつ単位取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 重複履修の取り扱いについて
担当者の異同に関わらず、全ての民族学考古学専攻設置科目に限り、重複履修を認める。
- (2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
必修科目のなかで、1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目 (分野 30-07-21・30-07-22・30-07-23・30-07-24・30-07-25) を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (3) 研究会の履修方法
第 3 学年、第 4 学年で履修することをすすめるが、第 2 学年で履修することも可能。
その場合は選択科目 (分野 30-07-55) の単位とみなし、卒業単位として取り扱う (B 欄 55)。
第 3 学年、第 4 学年で 2 科目以上研究会を履修する場合、1 科目を必修 (A 欄)、2 科目めを選択科目 (B 欄 55) とする。

国文学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位	
必修科目	30-08-11	国文学原典講読 (2)	34 単 位	
	30-08-12	国語学Ⅰ (2)・国語学Ⅱ (2)		
	30-08-21	国文学Ⅰ～ⅩⅤ (各 4) のうち 2 科目 (8)		
	30-08-22	国文学史Ⅰ～Ⅵ (各 2) のうち 4 科目 (8)		
	30-08-23	国文学演習Ⅰ～Ⅵ (各 2) 国語学演習 (2)		} のうち 4 科目 (8)
	研究会	30-08-31		国文学研究会 (2)
卒試	30-08-41	卒業試験 (卒業論文)		
選択科目	30-08-51	国語学Ⅰ (2)・国語学Ⅱ (2) 国文学Ⅰ～ⅩⅤ (各 4) 国文学史Ⅰ～Ⅵ (各 2) 日本語文法 (2) 漢文講読Ⅲ (2) 国語学演習 (2) 国文学演習Ⅰ～Ⅵ (各 2)	42 単 位 以 上	
		} のうち必修科目として履修して いない 12 単位を含めなければ ならない。		
	30-08-55	本大学設置の専門教育科目 (学部学則第 35 条 3 項 参照) 国文学専攻設置の次の科目を含む 日本語学Ⅰ (2)・日本語学Ⅱ (2) 日本語教授法Ⅰ (2)・日本語教授法Ⅱ (2) 仏教学概論 (4)		

2 必修科目の履修について

【第 2 学年進級条件科目】

第 2 学年において、「国文学原典講読 (A)～(D)」のうち、1 科目を修得しなければならない。そのクラス分けは、新学期に発表する。

【第 3・4 学年指定科目】

選択必修科目としての「国文学演習Ⅰ～Ⅵ」「国語学演習」(各 2 単位)は、第 3 学年、第 4 学年において異なる 4 科目を履修すること。

【卒業試験】

卒業試験は卒業論文によって行うので、4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目の履修について

卒業に必要な 42 単位の選択科目には、国語学Ⅰ・国語学Ⅱ・国文学Ⅰ～ⅩⅤ・国文学史Ⅰ～Ⅵ・日本語文法・漢文講読Ⅲ・国語学演習・国文学演習Ⅰ～Ⅵの中から必修科目として履修しない12単位を指定選択科目として、履修しなければならない。

ただし、履修申告の際には、必修科目と指定選択科目を区別せず、すべてを必修科目としてA欄申告すること（必修科目としての単位数を超えた段階で、以降の科目が自動的に指定選択科目として処理されるため）

4 各学年共通

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱いについて

「国文学Ⅰ～ⅩⅤ」、「国文学史Ⅰ～Ⅵ」、「国文学演習Ⅰ～Ⅵ」・「国語学演習」、「日本語文法」・「漢文講読Ⅲ」に関しては、それぞれ必修科目としての単位数を超えて履修した単位は、自動的に選択科目の単位となる（履修申告は必修科目としてA欄申告すること。ただし重複履修の場合は4-(2)を参照）。

(2) 必修科目の重複履修の取り扱いについて

すでに履修した必修科目を重複履修する際は、以下の点に注意すること。特に、選択科目として履修できる単位数の制限と、履修申告の際の申告欄に注意すること。

ア 「国文学Ⅰ～ⅩⅤ」、「国文学史Ⅰ～Ⅵ」、「国文学演習Ⅰ～Ⅵ」・「国語学演習」、「日本語文法」・「漢文講読Ⅲ」

<担当者が異なる場合>

担当者が異なる場合は、同じ科目でも別科目とみなし、再履修・再々履修は共に必修科目として履修できる（A欄申告）。

<担当者が同じ場合>

同一担当者の科目の場合は、再履修は選択科目（B欄51）となり、再々履修は自由科目（B欄99）となる。

なお、同一担当者の科目を再履修する場合、～の科目群においては、それぞれの科目群につき合計8単位まで、の科目群においては2単位までは選択科目として履修できるが、それ以降は自由科目となる。

イ 「国語学Ⅰ」、「国語学Ⅱ」

担当者の異同に関わらず、再履修は選択科目（B欄51）となり、再々履修は自由科目（B欄99）となる。

(3) 研究会の履修方法

国文学研究会は（Ⅰ）藤原・（Ⅱ）川村・（Ⅲ）佐藤・（Ⅳ）岩松・（Ⅴ）石川・（Ⅵ）関場・（Ⅶ）松村担当のいずれか一つを第4学年で履修する。これは卒業論文指導であるから、論文のテーマ等を考え、指導を受けようとする教員の研究会を選ぶこと。なお、第2学年と第3学年では国文学研究会は履修できない。また、第4学年で2つ以上の研究会を履修することはできない。

中国文学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単位				
必修 科目	30-09-11	中国文学史Ⅰ(4) 中国文学史Ⅱ(4) 中国語学概論(4)	38 単 位				
	30-09-12	中国文学特殊(4) 中国語学特殊(4) 中国語表現演習Ⅰ(2) 中国語表現演習Ⅱ(2) 中国語表現演習Ⅲ(2) 中国語表現演習Ⅳ(2)					
	選択必修	30-09-21		中国文学演習Ⅰ～Ⅵ(2)のうち4科目(8)			
	研究会	30-09-31		中国語学研究会Ⅰ(1) 中国語学研究会Ⅱ(1) 中国古典文学研究会Ⅰ(A)(B)(C)(1) 中国古典文学研究会Ⅱ(A)(B)(C)(1) 中国現代文学研究会Ⅰ(A)(B)(1) 中国現代文学研究会Ⅱ(A)(B)(1)	同一の研究会Ⅰ・Ⅱの 2科目(2)を第3学年 で履修。		
				卒試		30-09-41	卒業試験(卒業論文)
選択 科目			研究会	30-09-32		中国語学研究会Ⅲ(1) 中国語学研究会Ⅳ(1) 中国古典文学研究会Ⅲ(A)(B)(C)(1) 中国古典文学研究会Ⅳ(A)(B)(C)(1) 中国現代文学研究会Ⅲ(A)(B)(1) 中国現代文学研究会Ⅳ(A)(B)(1)	38 単 位 以 上 のうち12単位を含め なければならない。
				指定 選択		30-09-51	
	選択	30-09-55			大学設置(学部学則第35条3頁参照)の専門教育科目		

2 必修科目

【2年進級条件科目】

「中国文学史Ⅰ」、「中国文学史Ⅱ」、「中国語学概論」は、進級条件科目として第2学年で必ず履修し、単位を取得すること。

【2年指定科目】

「中国文学演習Ⅰ」、「中国文学演習Ⅱ」、「中国語表現演習Ⅰ」、「中国語表現演習Ⅱ」は、第2学年で履修することが望ましい。

【3・4年指定科目】

第3・4学年指定科目は、第3学年または第4学年のいずれかで履修してもよい。

「中国文学特殊」、「中国語学特殊」、「中国語表現演習 III～IV」、「中国文学演習 III～VI」

「中国語学研究会 I～IV」

「中国古典文学研究会 I(A)～I(C)・II(A)～II(C)・III(A)～III(C)・IV(A)～(C)」

「中国現代文学研究会 I(A)～I(B)・II(A)～II(B)・III(A)～III(B)・IV(A)～(B)」

【卒業論文】

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。

3 選択科目

指定選択科目の中には、下記(1)～(6)の科目のうちから12単位以上を含めること。

(1)「中国語学研究会 III・IV」、「中国古典文学研究会 III・IV」、「中国現代文学研究会 III・IV」(各1)

(2) 必修科目として履修しない「中国文学演習 I～VI」(各2)

(3)「中国語会話特殊 I・II」(各2)

(4)「漢文講読 I・II」(各2)

(5)「中国哲学」(4)

(6)「東洋史概説 I・II・III」(各4)

4 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

第3学年ですでに単位を取得した中国文学専攻設置の必修科目・選択科目を第4学年で再履修する場合は、科目担当者が異なる場合、8単位まで選択科目として認める。この際、専攻担任の承認が必要である。

(2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

「中国文学演習 I～VI」は、計6科目のうち4科目を必修科目として履修する。それ以上さらに履修する場合は、選択科目として履修することができる(A欄申告)。

(3) 研究会の履修方法

研究会は、第3・4学年と続けて、I・II・III・IVの順に履修することが望ましい。I・IIIは春学期科目、II・IVは秋学期科目であるが、原則としてIとII、IIIとIVをそれぞれ同一学年で続けて履修し、履修申告はいずれも4月に行う。学則上、IとIIは必修科目、IIIとIVは選択科目であるが、IIIとIVは卒業論文指導を主体とする必修に準ずる科目であるので履修することが望ましい。履修しない場合は、必ず専攻担任に申し出ること。

また、第3学年で研究会I・IIが不合格だった場合は、第4学年で再度履修し単位を取得しなければ卒業できない。

英米文学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単 位				
必 修 科 目	30-10-11	英語史 (4) 英文学史 (4) 米文学史 (4) 現代英語学 (4) 英語英米文学基礎講読 (A)~(G)(2) ... 2 年指定必修	40 単 位				
		30-10-12		古代中世英語学 (4) ... 3 年指定必修 英語音声学 (4)			
	30-10-21	英語学演習 A~H (各 2) 英文学演習 A~L (各 2) 米文学演習 A~I (各 2) } のうち 5 科目 (10)					
	30-10-31	英語学研究会 I (2)・英語学研究会 II (2) 英文学研究会 I (2)・英文学研究会 II (2) 米文学研究会 I (2)・米文学研究会 II (2)		} のうち同分野 2 科目 (4)			
		30-10-32			英語学特別演習 I (2)・英語学特別演習 II (2) 英文学特別演習 I (2)・英文学特別演習 II (2) 米文学特別演習 I (2)・米文学特別演習 II (2)		
					30-10-41	卒業試験 (卒業論文)	研究会履修者
						30-10-42	卒業試験 (卒業試験)
	選 択 科 目	30-10-51		英米文学専攻設置の以下の科目を含める 英語学 A~G (各 4)・英文学 A~I (各 4) 米文学 A~F (各 4)・アカデミック・ライティング A~E (各 2)	32 単 位 以 上		
		30-10-55		大学設置 (学部学則 35 条 3 項参照) の専門教育科目			

2 必修科目

【第 2 学年進級条件科目】

必修科目の「英語史」、「英文学史」、「米文学史」、「現代英語学」、「英語英米文学基礎講読」のうち 3 科目以上。このうち、「英語英米文学基礎講読」は第 2 学年で取得することが望ましい。しかし、第 2 学年において、「英語英米文学基礎講読」が不合格となっても、上記の 5 科目中 3 科目に合格していれば、進級条件を満たすことになる。

【第 3 学年進級条件科目】

「研究会 I」または「特別演習 I」

【卒業試験】

「研究会 II」を履修している 4 年生は「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修し、「特別演習 II」を履修している 4 年生は「卒業試験 (卒業試験)」を必ず履修すること。「卒業試験 (卒業論文)」と「卒業試験 (卒業試験)」は、「研究会」と「特別演習」とは別の登録番号があるので注意されたい。第 4 学年で留年した場合、前年度すでに「卒業試験 (卒業論文)」または「卒業試験 (卒業試験)」に合格していても、再度履修する必要がある。(ただし、既に取得した「研究会 II」あるいは「特別演習 II」の単位は有効)

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された 32 単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

選択必修科目である「英語学演習 A～H」,「英文学演習 A～L」,「米文学演習 A～I」(分野 30-10-21)の3科目のみ、指定単位数(10 単位)を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

(2) 重複履修の取り扱いについて

選択必修科目である「英語学演習 A～H」,「英文学演習 A～L」,「米文学演習 A～I」(分野 30-10-21)の3科目のみ、同一担当者の同一科目の再履修が認められる。その場合、一度目は必修科目として、二度目は選択科目として認められるが、三度目以降は自由科目となる。

また、英米文学専攻設置の選択科目の「英語学 A～G」,「英文学 A～I」,「米文学 A～F」,「アカデミック・ライティング A～E」は、たとえ同一のアルファベットであっても担当者が異なれば別科目と認める。なお、同一担当者による同一科目履修は自由科目として履修すること。

(3) 「研究会」・「特別演習」の履修方法

第3・4 学年の2年間にわたって、同一担当者の「研究会」あるいは「特別演習」を履修する。第3 学年においては、「研究会Ⅰ」あるいは「特別演習Ⅰ」を、第4 学年においては「研究会Ⅱ」あるいは「特別演習Ⅱ」を履修すること。

「研究会」から「特別演習」へのコース変更は担当教員および専攻担任の面接・許可を受け、学事センターに文章にて申し出た場合のみ可能である。但し、「研究会」および「特別演習」を同一学年で2科目以上履修したり第2 学年で履修することはできない。

5 その他

(1) 第2 学年での履修上の注意

第3 学年においてどの「研究会」あるいは「特別演習」を選ぶかは、第2 学年中に行われるガイダンスに出席して各自の希望で決め、志望票を提出すること。ただし、指導教授の選抜・承認が必要である。なお、定められた期日までに志望票の提出が無い場合は、第3 学年で「研究会」あるいは「特別演習」を履修することはできない。

(2) 各学年共通の履修上の注意

「英語学演習 A～H」,「英文学演習 A～L」,「米文学演習 A～I」は、原則として英米文学専攻の学生を対象とする。ただし、教職課程(英語科)履修者の場合は、定員の範囲内で他専攻の学生も受け入れる場合がある。演習は原則として定員を15名とする。

留年者、復学者、学士入学者、第2 学年編入者は、必ず英米文学専攻担任のガイダンスを受けること。事故者(前学年で履修すべき指定授業科目に合格しなかった者等)は、必ず専攻担任のガイダンスを受けなければならない。

「オフィス・アワー」 専攻担任は毎水曜日午後、各自の研究室に在室し、学生諸君の相談に応じる。履修案内を熟読しても、なお不明の点がある場合は遠慮なく尋ねて疑問を解消し、後に困難な事態に立ち至らぬよう留意されたい。

独文学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単位		
必修 科目	30-11-11	テキスト研究中級 (2)	40 単 位		
	30-11-12	ドイツ文学史 (4) ドイツ文化史 (4)			
	30-11-13	ドイツ語学研究 (4)			
	30-11-14	現代ドイツ研究入門 (4)			
	30-11-21	テキスト研究上級 A (2) テキスト研究上級 B (2) } のうち 1 科目 (2)			
	30-11-22	ドイツ語作文初級 (2) ドイツ語作文中級 (2) コミュニケーション・ドイツ語中級 A (2) コミュニケーション・ドイツ語中級 B (2) コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2) コミュニケーション・ドイツ語上級 B (2) ドイツ文法研究 (2) } のうち 3 科目 (6)			
	30-11-23	メディア研究 (4) ゲーテ時代研究 (4) ドイツ文化研究 I ~ III (4) ドイツ文学研究入門 (4) 現代ドイツ研究 (4) } のうち 2 科目 (8)			
	ゼミ	30-11-31		ドイツ語学文学ゼミナール I ~ VIII (各 2) のうち 3 科目 (6)	
	卒試	30-11-41		卒業試験 (卒業論文)	
	選択科目	30-11-55		大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	36 単位 以上

2 必修科目

(1)【第 2 学年指定科目】

以下の科目は、第 2 学年で履修すべき科目として指定されているが、第 2 学年で単位を取得できなかった場合は、第 3 学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

ア 「テキスト研究中級」

イ 「ドイツ文学史」

ウ 「ドイツ語作文初級」, 「ドイツ語作文中級」のうち 1 科目

エ 「コミュニケーション・ドイツ語中級 A」, 「コミュニケーション・ドイツ語中級 B」(この 2 科目を同一学年で並行して履修することが望ましい)

(2)【第3学年指定科目】

以下の科目は、第3学年で履修すべき科目として指定されているが、第3学年で単位を取得できなかった場合は、第4学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

ア 「テキスト研究上級 A」、「テキスト研究上級 B」のうち1科目

イ 「コミュニケーション・ドイツ語上級 A」、「コミュニケーション・ドイツ語上級 B」(この2科目は同一学年で並行して履修することが望ましい)

(3)【卒業論文】

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。(研究会とは別の登録番号があります)

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された36単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

- ・研究会、卒業論文以外の必修科目に関しては、選択科目として重複履修が認められる(A欄申告)。
- ・研究会は例外的に3科目まで必修科目として重複履修が可能である(A欄申告)。

(2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目の単位数が必要単位数を超えたときには、自動的に選択科目の単位とみなされる。

(3) 研究会(ドイツ語学文学ゼミナール)の履修方法

「ドイツ語学文学ゼミナール」のいずれかの担当者を指導教授として、卒業論文(卒業試験)作成にあたっての承認と指示を受けること。指導を受けたいと望む教員の担当するゼミナールには、第3学年と第4学年の2年間に継続して履修することが望ましい。第4学年においては、指導教授のゼミナールに出席すること。ゼミナールはいくつ履修してもよいが、3科目6単位までを必修単位とし、それを超えて履修する場合には選択科目とみなす(A欄申告)。

ゼミナールは第3学年および第4学年で履修することを原則とし、第2学年で履修を希望する者は選択科目として申告すること。

仏文学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】以下の表を用いて履修申告に記入する授業科目の分野番号を確認すること。
なお、仏文学専攻設置の専門教育科目は、すべて半期科目である。

種類	分野番号	授 業 科 目 名(単位)	卒業必 要単位		
必修科目	基礎コース	30-12-11 フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1) フランス語表現演習Ⅰ～Ⅳ(各1)	40 単 位		
		30-12-12 フランスの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ(各2) フランス文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)			
	専門コース	30-12-21 フランス文学と近代Ⅰ～Ⅳ(各2) フランス文学と現代Ⅰ・Ⅱ(各2)		のうち6科目(12)	
		30-12-22 フランス文学史Ⅲ・Ⅳ(各2) フランス語学Ⅰ・Ⅱ(各2)			
		30-12-23		フランス語学演習Ⅲ～Ⅷ(各1) フランス語表現演習Ⅴ～Ⅷ(各1) フランス文学演習Ⅰ～Ⅵ(各1)	のうち12科目(12)
				30-12-31 フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1):3年次履修	
				30-12-32 フランス語学文学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1):4年次履修	
		卒試		30-12-41 卒業試験(卒業論文)	
	選択科目	30-12-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		36単位	

2 必修科目

【第2学年進級条件科目】

「フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ」,「フランス語表現演習Ⅰ～Ⅳ」(基礎コースの他の科目は第2学年で履修することが望ましい。)

【第2学年インテンシヴ科目】

専門コースの演習科目の中には、初級フランス語終了者の学力強化を目的とした科目が設けられている(詳細は「講義要綱」を参照)。2年生で集中的に学習したい者は履修すること。

【第3学年指定科目】

「フランス語学文学研究会Ⅰ」,「フランス語学文学研究会Ⅱ」(専門コースの科目は第3・4学年で履修することが望ましい。ただし、上記の「第2学年インテンシヴ科目」は除く。)

【第4学年必修科目】

「フランス語学文学研究会Ⅲ」,「フランス語学文学研究会Ⅳ」

【卒業論文】

卒業試験は卒業論文によって行う。ただし、第4学年で留年した場合は、再度提出が必要。

4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること(研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目

「4-(1)重複履修の取り扱いについて」と「4-(2)超過履修の取り扱い」を参照のこと。

4 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

同一名称の科目の重複履修は認めない。文学部時間割表の科目名の後ろのアルファベットが異なっても同一科目名とみなされる。

ただし、「フランス語学演習 III～VIII」「フランス語表現演習 V～VIII」「フランス文学演習 I～VI」(分野番号 30-12-23)については、選択科目として重複履修が可能である。(分野 30-12-55：履修申告の際はB欄分野番号 55 を記入)

(2) 超過履修の取り扱い

必修科目専門コースの単位を指定数を超えて取得した場合は、これらを選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

(3) 研究会の履修方法

「フランス語学文学研究会 I・II」は、第 3 学年で指定科目として履修し、「フランス語学文学研究会 III・IV」は、第 4 学年で必修科目として履修すること。なお、第 4 学年で留年しても、研究会の単位自体は有効である。

また、第 2 学年では研究会は履修できない。第 3 学年以上でも、原則は 1 学年の間に 3 科目以上履修することはできない。ただし、第 3 学年時に留学する場合、帰国後第 4 学年の秋学期に集中して研究会を履修できる。

図書館・情報学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 注意事項

- (1) 履修の際の注意点は、学年初めのガイダンスで指示するので、必ず出席すること。
- (2) 学士入学者、留年者は、専攻担任のガイダンスを必ず受けること。
- (3) 2 年生は、授業開始までに三田 ITC でアカウント申請手続きを済ませること。

2 専門教育科目およびその単位数

図書館・情報学専攻における専門教育科目の必修科目ならびに選択科目とその単位数は次の通りである。

必修科目		選択科目		
図書館・情報学基礎(2) 情報サービス基礎Ⅰ(2) 情報サービス基礎Ⅱ(2) 情報メディア基礎Ⅰ(2) 情報メディア基礎Ⅱ (A)~(C)(2) 情報検索基礎Ⅰ(2) 情報検索基礎Ⅱ(A)~(C)(2) 図書館・情報学原典講読 (A)~(C)(2) 図書館・情報学研究法(2) 図書館・情報学研究会 (A)~(H)(2)	20 単 位 以 上	図書館概論(2) 図書館の計画と経営(2) 図書館資料論(2) 図書館活動論Ⅰ~Ⅳ(各2) コミュニケーション史(2) 資料組織論(2) レファレンス・サービス論(2) 図書館実習(2)	28 単 位 以 上	52 単 位 以 上
		情報メディア概説Ⅰ~Ⅱ(各2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と分析Ⅰ~Ⅱ(各2) 情報メディア特殊Ⅰ~Ⅳ(各2)		
		情報検索概説Ⅰ~Ⅱ(各2) 情報検索研究(2) 情報探索行動(2) データベース検索(2) 情報検索システム(2) 情報処理技術(2) 自然言語処理の基礎(2) 画像・映像処理の基礎(2)		
		書誌学Ⅰ~Ⅱ(各2) 児童資料論(2) 図書館・情報学特殊(2)		
卒業試験(卒業論文)		本大学設置(学部学則第 35 条 3 項参照)の専門教育科目	24 以上 単位	

3 履修上の注意

【各学年共通】

- (1) 図書館・情報学を専攻する者は、図書館・情報学専攻専門教育科目の必修科目 20 単位、指定選択科目 28 単位以上およびその他の専門教育科目 24 単位以上、計 72 単位以上を修得しなければならない。ただし、その他の専門教育科目に図書館・情報学専攻設置の専門教育科目を含めることはできない。
- (2) 必修科目 20 単位は、特別の場合を除き、第 2 学年において 16 単位、第 3 学年において 2 単位、第 4 学年において 2 単位を履修するように配分されている。
- (3) 図書館・情報学研究法は 3 年次に、また図書館・情報学研究会は 4 年次に、それぞれ指定された必修科目であって、他の学年次および他の専攻の者は自由科目としても履修できない。
- (4) 司書教諭資格の取得を希望する者は、教諭免許取得に必要な科目の他、原則として教職課程センターに設置されている「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディア論」、「学習指導と学校図書館」、「読書教育

- 論」,「情報メディア利用論」の5科目を履修しなければならない。希望者は必ず専攻担任に相談すること。
- (5) 「情報」科をはじめとする各教科の教諭免許の取得を希望する者は、教職課程センターが実施するガイダンスに必ず出席すること。

【2年生】

- (6) 原則として、2年生は図書館・情報学専攻が設置する指定選択科目を履修することはできない。ただし、2年生で留年した者については、専攻担任と面談のうえ、履修を認める場合がある（その場合は必ずB欄申告すること）。
- (7) 第3学年に進級するためには、第2学年に配分されている必修科目8科目（16単位）のうち、5科目（10単位）以上を修得しなければならない。

【3年生】

- (8) 3年生は履修申告に際して所属コースを明記すること。
- (9) 図書館コース、情報メディアコース、情報検索コースのいずれか一つのコースを選択する。各コースごとに、コース必修科目と、コース選択科目が授業科目系列表のように定められているので、その指示通りに履修しなければならない。
- (10) 司書資格の取得を希望するものは、図書館・情報学専攻を卒業し、図書館コースで指定されている必修7科目、および「図書館活動論Ⅰ～Ⅳ」、「児童資料論」のうちから3科目以上を修得しなければならない。なお、これらの科目は、情報メディアコース及び情報検索コースで指定されているコース選択科目の中に入れられることができる。
- (11) 第4学年に進級するためには、「図書館・情報学研究法」を修得しなければならない。

【4年生】

- (12) 4年生は履修申告に際して所属コースを明記すること。
- (13) 文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること（研究会とは別の登録番号である）。卒業試験は卒業論文をもってあてる。卒業論文提出にあたっては、9月に開催される中間発表会および提出後に行われる最終面接に出席しなければならない。
- (14) 司書資格の取得を希望するものは、上の(10)の指示に従うこと。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)				卒業必 要単位
必修 科目	必修2年 30-13-01	2年次	図書館・情報学基礎(2) 図書館・情報学原典講読(2) 情報サービス基礎Ⅰ(2) 情報サービス基礎Ⅱ(2) 情報検索基礎Ⅰ(2) 情報検索基礎Ⅱ(2) 情報メディア基礎Ⅰ(2) 情報メディア基礎Ⅱ(2)			20 単 位
	研究会 30-13-02	3年次 4年次	図書館・情報学研究法(2) 図書館・情報学研究会(2)			
	卒業試験 30-13-11	卒業試験(卒業論文)				
指定 選択 科目 3・4 年次	図書館コース		情報メディアコース		情報検索コース	
	分野 (B欄)	授業科目名(単位)	分野 (B欄)	授業科目名(単位)	分野 (B欄)	授業科目名(単位)
	図必修 (21)	図書館概論(2) 図書館の計画と経営(2) コミュニケーション史(2) 図書館資料論(2) 資料組織論(2) レファレンス・サービ ス論(2) 図書館実習(2)	メ必修 (31)	情報メディア概説Ⅰ(2) 情報メディア概説Ⅱ(2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と 分析Ⅰ～Ⅱ(各2)	検必修 (41)	情報検索概説Ⅰ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) 情報探索行動(2) 情報検索システム(2) 情報検索研究(2) データベース検索(2) 情報処理技術(2)
	30-13- 21	14 単 位	30-13- 31	10 単 位	30-13- 41	14 単 位
図指定 選択 (22)	図書館活動論Ⅰ(2) 図書館活動論Ⅱ(2) 図書館活動論Ⅲ(2) 図書館活動論Ⅳ(2) 児童資料論(2) のうち、3科目6単位 以上	メ指定 選択 (32)	情報メディア特殊Ⅰ(2) 情報メディア特殊Ⅱ(2) 情報メディア特殊Ⅲ(2) 情報メディア特殊Ⅳ(2) 図書館資料論(2) 資料組織論(2) 情報探索行動(2) のうち、4科目8単位 以上	検指定 選択 (42)	自然言語処理の基礎(2) 画像・映像処理の基礎(2) レファレンス・サービス論(2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と分析Ⅰ～Ⅱ (各2) のうち、2科目4単位以上	
30-13- 22	14 単 位	30-13- 32	18 単 位	30-13- 42	28 単 位	
コース 選択 (23)	図書館コースのコース 必修科目(図必修)以 外の指定選択科目(注1) また、それ以外に次 の科目もコース選択科 目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) 図指定選択とコース選 択の両方あわせて14単 位以上を履修すること	コース 選択 (33)	情報メディアコースの コース必修科目(メ必 修)以外の指定選択科 目(注2) また、それ以外に次 の科目もコース選択科 目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) メ指定選択とコース選 択の両方あわせて18単 位以上を履修すること	コース 選択 (43)	情報検索コースのコース必修科目 (検必修)以外の指定選択科目 (注3) また、それ以外に次の科目もコ ース選択科目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) 検指定選択とコース選択の両方あ わせて14単位以上を履修すること	
30-13- 23	14 単 位	30-13- 33	18 単 位	30-13- 43	14 単 位	
選択 科目 (55)	本大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目				24 単 位	
30-13- 55						

指定選択科目のB欄分野番号は2年留年者のみ使用(B欄分野番号は上表参照)

注1:メ必修,検必修,図指定選択,メ指定選択,検指定選択の分野科目がそれにあたる

注2:図必修,検必修,図指定選択,メ指定選択,検指定選択の分野科目がそれにあたる

注3:図必修,メ必修,図指定選択,メ指定選択,検指定選択の分野科目がそれにあたる

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

社会学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

社会学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名(単位)	卒業必要単位
必修科目	30-14-11	次の 3 科目を第 2 学年で修得すること。 社会学概論(4) 社会心理学概論(4) 文化人類学概論(4)	12
	30-14-12	次の 3 科目を卒業までに修得すること。 社会学史(4) 社会調査Ⅰ(2)・Ⅱ(2)	8
	30-14-21	次の科目のうちから卒業までに 20 単位を履修すること。 医療社会学(4) 家族・親族論(4) 教育社会学(4) 現代社会学(4) コミュニケーション学(4) 宗教社会学(4) 対人影響論(4) 知識社会学(4) 都市社会学(4) 日本社会学(4) 比較文化論(4) 普及学(4) 文化社会学(4) 社会学特殊Ⅰ～Ⅻ(各4) 社会学特講Ⅰ～Ⅶ(各2)	20
卒試	30-14-41	卒業試験(卒業論文)	
	30-14-42	卒業試験(社会学専攻)	
選択科目	30-14-51	社会学研究会Ⅰ(2) } (卒業論文コースの者は、「社会学研究会Ⅰ・Ⅱ(各2)」 社会学研究会Ⅱ(2) } 合計 4 単位を必ず含めること)	32 単位以上
	30-14-52		
	30-14-55	大学設置(学部学則 35 条 3 項参照)の専門教育科目 社会学専攻設置の「社会学原典講読(2)」および「社会学洋書講読(2)」を含める。	

2 必修科目

【第 2 学年】

(1) 進級条件科目

社会学概論

社会心理学概論

文化人類学概論

これらの授業科目は必ず第 2 学年で修得すること。1 科目でも不合格であれば進級できないから、十分注意しなければならない。

(2) 第 2 学年においては「卒業論文コース」を将来目指すものであっても、「研究会」を選択履修することはできない。

【第 3・4 学年】

(1) 「卒業論文コース」

「卒業論文コース」をとる者は、第 3・4 の両学年において、社会学研究会(Ⅰ・Ⅱ)を履修・合格しなければ、

最終年度において卒業論文を提出する資格を得ることができない。第4学年で別の担当者の研究会に変更し、その担当者に卒論を提出することを希望する場合は、変更前・変更後の担当者との相談を、履修申告前に行わなければならない。なお「卒業論文コース」の者が、研究会担当者の承認を受けて中途および第4学年で「非卒業論文コース」に移行することもありうる。ただし、第4学年で、履修届の提出後においては、移行できない。

(2) 「非卒業論文コース」

「非卒業論文コース」の者は、4年次において次の卒業試験指定科目のうち、1科目を履修・合格し、さらに同一分野の卒業試験に合格しなければならない。

コミュニケーション学
宗教社会学
家族・親族論

【第4学年】

(1) 卒業に必要な単位数を充足しても、卒業論文もしくは卒業試験（非卒業論文コースの者）に合格しなければ卒業できない。

4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験」を必ず履修すること。

(2) 非卒業論文コースの者に課せられる卒業試験については、卒業試験指定科目が決められている。非卒業論文コースの者は、4年次（卒業年次）において次の卒業試験指定科目のうち、1科目を履修・合格し、さらに同一分野の卒業試験に合格しなければならない。指定科目が前年度までに修得済みであっても4年次（卒業年次）において自由科目として履修・合格しなければならない。卒業試験指定科目は以下のとおりである。

コミュニケーション学
宗教社会学
家族・親族論

(3) 4年次留年者は改めて卒業試験（卒業論文）を履修し合格しなければならない（4年次に卒業試験（卒業論文）に合格していても、改めて、卒業試験指定科目及び卒業試験を、あるいは4年次研究会及び卒業論文を自由科目として履修しなければならない）。

3 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

- ・過年度に履修済みの必修科目を選択科目として再履修することは認めない。再履修の場合は自由科目となる。
- ・社会学特殊 I～XII，社会学特講 I～VII については各々を独立した科目として認める。ただし、同一番号科目の二度以上の履修については自由科目とする。
- ・社会学原典講読および社会学洋書講読については各々選択科目として認める。ただし同一語種科目の二度以上の履修については自由科目とする。

(2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

選択必修科目（分野 30-14-21）を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

(3) 研究会の履修方法

研究会は、選択科目または自由科目として申告することになるので、次の分野番号で申告すること。

	研究会 I	研究会 II
3年生が履修する場合	A 欄申告	自由科目（B 欄分野番号 99）
4年生が履修する場合	自由科目（B 欄分野番号 99）	A 欄申告

2年生で履修することはできません。

心理学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

心理学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名(単位)	卒業必要 単位
必修 科目	30-15-11	知覚心理学Ⅰ(4) 発達心理学Ⅰ(4) 行動分析学Ⅰ(4)	38 単 位
		認知心理学Ⅰ(4) 生物心理学Ⅰ(4)	
	30-15-12	心理測定論(2)	
		心理学史(2)	
	30-15-13	心理統計(4)	
	30-15-14	心理学原典講読(2)	
	30-15-15	心理学実験Ⅰ(2) 心理学実験Ⅱ(2)	
研究会	30-15-31	心理学研究会Ⅰ(A)~(F)(各2)	
	30-15-32	心理学研究会Ⅱ(A)~(F)(各2)	
卒試	30-15-41	卒業試験(卒業論文)	
選択 科目	指定 選択	心理学専攻設置の専門選択科目(【専攻設置科目表】を参照)・人間関係学系設置の必修科目のうち 20 単位以上。	20 以上
	選択	大学設置(学部学則 35 条 3 項参照)の専門教育科目	34 単位 以上

2 進級条件科目および各学年指定専門教育科目

	指定専門科目	進級条件科目
第 2 学年	心理学原典講読(2) 知覚心理学Ⅰ(4) 発達心理学Ⅰ(4) 行動分析学Ⅰ(4) 認知心理学Ⅰ(4) 生物心理学Ⅰ(4)	心理学原典講読(2)を含めて 4 科目(計 14 単位)を修得しな ければならない。
	心理統計(4)	
第 3 学年	心理学史(2) 心理測定論(2) 心理学実験Ⅰ(2) 心理学実験Ⅱ(2) 心理学研究会Ⅰ(2)	*心理学実験Ⅰ(2) *心理学実験Ⅱ(2) 心理学研究会Ⅰ(2)
	心理学研究会Ⅱ(2)	
第 4 学年	心理学研究会Ⅱ(2)	

*心理学実験Ⅰ(2)と心理学実験Ⅱ(2)はセットで履修すること

3 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

心理学専攻設置の専門選択科目(各心理学のⅡと、心理学特殊Ⅱ,Ⅲ)で担当者の異なる科目については重複履修を認め、指定選択科目の必要単位として取り扱う。

(2) 研究会の履修方法

同一担当者の研究会を第3・4学年にわたり履修することを原則とする。また、第3学年では心理学研究会Ⅱを、第4学年では心理学研究会Ⅰを自由科目(B欄99)として履修することを原則とする。

(3) 卒業試験(卒業論文)について

卒業試験は卒業論文とする。卒業論文は履修する心理学研究会Ⅱの担当者に提出し、その審査に合格しなければならない。第4学年は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること(研究会とは別の登録番号がある)。

(4) 注意

各学年の指定専門科目をその年次で履修しない場合、時間割の関係上翌年度に履修することが不可能になり、卒業が遅れることがあるので留意されたい。

【専攻設置科目表】

専 門 選 択 科 目	心理学特殊Ⅰ(4)	行動分析学ⅡB(2)	パーソナリティ理論概説(4)
	心理学特殊ⅡB(2)	認知心理学ⅡB(2)	認知臨床心理学(4)
	心理学特殊ⅢB(2)	生物心理学ⅡB(2)	発達臨床心理学(4)
	知覚心理学ⅡB(2)	数理心理学(2)	言語障害臨床(4)
	発達心理学ⅡB(2)	クリニカルワーク概説(4)	

教育学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

- (1) 教育学専攻設置の学科目は [必修科目] および [選択必修科目] および [指定選択科目] から構成され、その単位数は以下の通りである。
- (2) 卒業までに必修 8 科目 (26 単位), 選択必修 8 科目から 3 科目 (12 単位), 研究会 2 科目 (4 単位), 選択科目 (指定選択科目を含む) 30 単位以上を履修しなければならない (履修方法に関しては後述の規定に従うこと)。
- (3) 卒業試験は卒業論文によって行なう (卒業論文の指導担当者および担当者は研究会担当者と同一)。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位	
必修科目	30-16-11	教育学概論 (4) 教育学原典講読 (2)	42 単 位	
	30-16-12	教育史 (4) 教育学史 (4) 比較教育学 (4) 教育心理学概論 (4)		
	30-16-13	教育学演習 I (2), 教育学演習 II (2)		
	30-16-21	教育学特殊 I (4) 教育学特殊 II (4) 教育学特殊 III (4) 教育学特殊 IV (4) 教育学特殊 V (4) 教育学特殊 VI (4) 教育学特殊 VII (4) 教育学特殊 VIII (4)		このうち 12 単位以上
	研究会	30-16-31 教育学研究会 I (2) 30-16-32 教育学研究会 II (2)		
	卒試	30-16-41 卒業試験 (卒業論文)		
	選択科目	指定選択		30-16-51 教育学文献講読 I (4) 教育学文献講読 II (4) 教育学文献講読 III (4) 教育測定実験 (4) 教育研究法 I (2), 教育研究法 II (2)
選択		30-16-55 大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目		

2 履修上の規定

【第2学年】

(1) 進級条件科目

教育学概論，教育学原典講読

(2) 教育学原典講読履修について

第2学年の履修者は、まず2つ(年度によっては4つ)のグループに分かれてもらい(グループ分けは混乱を避けるため専攻担任が決定する)、春学期「教育学原典講読A」「教育学原典講読B」「教育学原典講読C」「教育学原典講読D」にそれぞれ属してもらおう。秋学期はこれをそっくり交換し、春学期にA(C)を受けたものはB(D)に、B(D)を受けたものはA(C)に属してもらおう。これは、なるべく異なった分野の教育学研究を原典で経験してもらい、3年次の研究会選択に活かしてもらいたいためである。履修申告は春学期に属した担当教員の名で行なうこと。

【第3学年】

第3学年の学生は、必ずいずれかの担当者の教育学演習Ⅰ，教育学研究会Ⅰを履修すること。これらは第4学年への進級条件科目である。ちなみに、研究会は卒論指導のために設けられたものであり、演習と密接な関係をもっているため、演習と同じ担当者の研究会を履修すること。

【第4学年】

第4学年の学生は、必ず教育学演習Ⅱ，教育学研究会Ⅱを履修すること。なお、それらは第3学年次に履修した教育学演習Ⅰ，教育学研究会Ⅰと同一担当者のものであることが原則である。

3 各学年共通

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目の中の選択必修科目(教育学特殊Ⅰ～Ⅷ)を指定単位数を超えて履修した場合は、その超えた分は選択科目とみなし卒業単位として取り扱う。ただし、同一名称のものを卒業時までもう一度履修した場合は自由科目扱いとなり、選択必修科目、選択科目とみなされることはない。

(2) 選択科目について

指定選択科目とは、高度専門的に教育学研究を目指す場合、必要と考えられる方法や内容に焦点を当てた科目である。したがって、専攻の設置する専門科目ではあるものの、あえて必修科目とはせず、選択科目扱いとしている。各研究会でより高度な卒論を目指す学生や、大学院進学を考えている学生の積極的履修を望みたい。

(3) その他

第4学年で留年した場合、必修の「研究会」等の科目がすでに履修済みならば、再度その科目を自由科目として履修する必要はない。ただし、「卒業試験(卒業論文)」「研究会とは別の登録番号がある」は必ず履修すること。

人間科学専攻

(平成 18 年度第 2・第 3 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

人間科学専攻が今年度開講する必修科目(Ⅰ～Ⅲ類)および選択科目とその単位数, および進級条件・卒業までに必要な単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	備考	卒業必要単位		
必修科目	Ⅰ類 4単位	30-17-11	人間科学基礎(2) 人間科学研究法基礎(2)	第2学年次進級条件科目 これらに1科目でも不合格(D)があれば第3学年に進級することができない。 第2学年次履修指定科目 第2学年次に履修することを原則とする。第2学年中に最低2科目(4単位)を選択履修し,合格すること。この条件が充足されなかった場合は第3学年に進級することができない。 この類より26単位以上を選択して履修する。	38 単 位 以 上	
		Ⅱ類 8単位	30-17-12			人間科学諸領域Ⅰ(2) 人間科学諸領域Ⅱ(2) 人間科学諸領域Ⅲ(2) 人間科学諸領域Ⅳ(2)
	Ⅲ類 26単位以上		30-17-21			人間科学研究法(2) 人間科学研究法(4) 人間科学演習(2) 人間科学特殊(2) 人間科学特殊(4)
			30-17-31			人間科学研究会Ⅰ(A)~(J)(2) <コースA>
		30-17-32	人間科学研究会Ⅱ(A)~(J)(2) <コースA>			
30-17-33		人間科学卒業研究(2) <コースB>				
	30-17-41	卒業試験(卒業論文) <コースA>				
	30-17-42	卒業試験(人間科学専攻) <コースB>				
選択科目	30-17-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目(2)または(4)	34単位以上を履修するⅢ類として履修しなかった科目を選択科目として履修することができる。	34 単 位 以 上		

今年度開講される 類人間科学研究法・演習・特殊科目は以下の通りである。

人間科学研究法	(観察・実験ⅶ4) (計量と解析ⅶ4) (データ解析ⅶ4)
人間科学演習	(文献講読ⅶ2)
人間科学特殊	(キャリア発達論ⅶ4) (キャリア発達論Ⅱⅶ4) (組織行動論ⅶ4) (組織行動論Ⅱⅶ4) (現代家族論ⅶ4) (パーソナリティ研究ⅶ4) (臨床心理学ⅶ4) (コミュニティ心理学ⅶ4) (比較文化関係論ⅶ4) (米国の多民族社会と文化ⅶ4) (精神病理学ⅶ2) (精神分析学ⅶ2) (社会システム論ⅶ2) (芸術と人間ⅶ2) (現代日本人のライフスタイルⅶ2) (現代日本人のライフスタイルⅡⅶ2) (都市生活と景観ⅶ2) (都市生活と景観Ⅱⅶ2) (スポーツ社会心理学ⅶ2) (スポーツメディア論ⅶ2)

2 第3学年次におけるコースの選択とその決定

- (1) 第3学年次において、「卒業論文」(ゼロ単位)をもって「卒業試験」に代替するコース(以下、コースAとよぶ)、または、「卒業試験」(ゼロ単位)を卒業の要件とするコース(以下、コースBとよぶ)のいずれかを選ばなければならない。
- (2) コースAを志望する学生は、第2学年次の秋学期に行われるガイダンスに基づいて、「卒業論文」の指導を仰ぐ教員を選定し、当該教員にその旨を申し出、当該教員の審査を受け、これに合格した上で、当該教員の担当する「人間科学研究会Ⅰ」(2)を第3学年次で、「人間科学研究会Ⅱ」(2)を第4学年次で、履修し単位を満たし、第4学年次の定められた期日までに「卒業論文」を提出し、論文の審査(「卒業試験」に充当する)に合格しなければならない。
- (3) コースBを志望する学生は、第4学年次秋学期開講の「人間科学卒業研究」(2)を含めて、卒業までにⅢ類26単位以上を履修し単位を満たし、「卒業試験」に合格しなければならない。「卒業試験」は、「人間科学卒業研究」の修得をもって代替する。
- (4) 第3学年次にコースAを選択した学生が第4学年次履修申告時に「人間科学研究会Ⅱ」を履修しない場合には、コースBへの変更となる。この変更をした場合、「人間科学研究会Ⅰ」の単位が修得済みであればⅢ類の単位として認める。
- (5) コースBを選択し第4学年次で卒業できなかった場合、「人間科学卒業研究」の単位は取り消される。次年度に再度「人間科学卒業研究」を履修しなければならない。
- (6) コースAを選択し第4学年次で「人間科学研究会Ⅱ」の単位を充たしながら卒業できなかった場合、次年度にコースBに変更して「人間科学卒業研究」を履修しなければならない。
- (7) コースA・コースBそれぞれにおける卒業要件を要約して示せば下表のとおりである。

卒業要件		コースA	コースB
専門必修科目 (38単位以上)	Ⅰ類	4単位	4単位
	Ⅱ類	8単位	8単位
	Ⅲ類	人間科学研究会Ⅰ・Ⅱ(各2) を含めて26単位以上	人間科学卒業研究(2) を含めて26単位以上
専門選択科目(34単位以上)		34単位以上	34単位以上
卒業試験(*)		卒業論文(0単位)	人間科学卒業研究(2)の 修得をもって代替する
卒業に必要な専門教育科目の総単位数		72単位以上	72単位以上

(*) 研究会・卒業研究のほかに「卒業試験(卒業論文)」<コースA>または「卒業試験(人間科学専攻)」<コースB>の履修申告もすること。

3 各学年共通

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
Ⅲ類科目を指定単位を超えて履修した場合、超えた分の単位を選択科目とみなして、その取得単位を卒業に必要な選択科目単位として取り扱う。
- (2) 同一名称科目の取扱いについて
「人間科学研究法」、「人間科学特殊」、「人間科学演習」の()内は開講題目で、年度によって変更されることもある。また、科目名の後の()内に異なる名称が付されている場合、それぞれを別科目として取り扱う。ただし、この取り扱いは人間科学専攻の学生に限る。

4 その他

- (1) 春学期の授業開始直前の「専攻別ガイダンス」において、科目履修上の細かい説明を行うので、専攻学生は全員必ず出席されたい。
- (2) 2年生諸君は、「専攻別学生カード」を「人間科学基礎」の第1回目授業時に必ず持参し提出されたい。
- (3) 履修申告の控えを必ずとり、成績表が送られてくるまでは保存しておくこと(控えがないために履修上の問題の“責”がいずれにあったのか判断のつきかねる場合があるので、このことをくれぐれも注意されたい)。

B欄による申告方法（2・3年生【04学則】）

履修申告欄は、A欄・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは下記のとおりです。

1 通常はA欄にて履修申告してください。

2 B欄での履修申告は、変則的な履修をする場合に行います。B欄分野番号(2桁の数字)を使って、どの分野の単位として履修申告するかを、学則に決められた範囲内で申告することができます。

(1) ひとつの科目に対して複数の分野が選択できる科目の場合に使用します。

(2) B欄分野番号は、通常とは異なる変則的な履修を可能とします(自由科目の履修など)。

(3) B欄分野番号は学部により異なります。

【注意】

1 学則ならびに各専攻内規により許可されている分野以外での履修は一切認められません。

2 ほとんどの場合、履修申告はA欄にて行います。例年、A欄申告できる科目にもかかわらず、B欄申告をしたことにより、誤った分野で履修してしまう例が散見されますので、くれぐれも注意してください。

3 他専攻の科目を選択科目として履修申告する場合もA欄申告になります。

B欄による申告方法（2・3年生【04学則】）

全専攻共通事項

専攻	B欄分野番号	分野コード	使用例
共通	40	20 - 40 - 20 総合教育科目 (系列外)	・必修語学科目を総合教育科目(系列外)として履修する場合 P.27の「総合教育科目および語学科目一覧」で、総合教育科目(系列外)の「20 - 40 - 20」に分野配当されている科目(アラビア語、イタリア語入門など)はA欄申告をしてください。
共通	45	20 - 40 - 30 総合教育科目 (系列外)	他学部設置の全学部共通外国語科目(三田)を総合教育科目(系列外)として履修する場合
共通	90	10 - 90 - 21 必修語学科目 (日本語)	留学生が必修語学として日本語 A・日本語 Bを履修する場合
共通	55	30 - * * - 55 選択科目	他学部設置の専門教育科目を文学部の専門教育科目(選択科目)として履修する場合 【2年生は履修申告不可(3・4年設置科目のため)】 文学部他専攻設置の専門科目はA欄申告してください。
共通	99	99 - 99 - 99 自由科目	・同一科目名を重複して履修する場合、片方は自由科目として申告(ただし、専攻内規により重複履修が認められている科目はA欄申告) ・自由科目として申告する場合

各専攻別内規により特に指示がある場合

専攻	B欄分野番号	分野コード	使用例
哲学	55	30 - 01 - 55 選択科目	研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修申告
東洋史	91	10 - 91 - 21 必修語学科目 (諸国語)	アラビア語・ペルシア語・トルコ語を必修語学として履修する場合
	51	30 - 05 - 51 指定選択科目	研究会を二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修
民族学 ・考古学	55	30 - 07 - 55 選択科目	・第2学年で研究会を履修する場合 ・研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修
国文学	51	30 - 08 - 51 選択科目	国文学・国文学史・国文学演習・国語学演習・日本語文法・漢文講読 同一科目名・同一担当者の科目を再履修する場合 国語学 ・ 担当者の異同に関わらず、再履修する場合 いずれも再々履修は自由科目(B欄分野番号99)
仏文学	55	30 - 12 - 55 選択科目	フランス語学演習 ~、フランス語表現演習 ~、フランス文学演習 ~、 を重複履修する場合

【4 年生】
(93 学則)

1 総合教育科目および語学科目

種類	分野番号	授業科目名(単位)	
必修として履修する語学科目	01-01-01	英語(2)	
	01-01-02	ドイツ語(2)	
	01-01-03	フランス語(2)	
	01-01-04	中国語(2)	
	01-01-05	スペイン語(2)	
	01-01-06	ロシア語(2)	
	01-01-08	朝鮮語(2)	
	01-01-11	日本語(2)	
	01-01-16	イタリア語(2)	
	01-01-14	アラビア語(2) トルコ語(2) ペルシア語(2)	
総合教育科目	人文科学関係	02-01-01	哲学(4) 論理学(4) 倫理学(4) 歴史(4) 文学(4) 音楽(4) 美術(4) 国語国文(4) 言語(4) *研究情報処理(4)
		02-01-02	人文科学特論(4) *人文科学特論Ⅰ(2) *人文科学特論Ⅱ(2)
	社会科学関係	02-01-03	法学(憲法を含む)(4) 政治学(4) 経済学(4) 社会学(4) 地理学(4) 近代思想史(4) *研究情報処理(4) 教育学(4)
		02-01-04	社会科学特論(4) 社会科学特論Ⅰ(2) 社会科学特論Ⅱ(2)
	自然科学関係	02-01-05	数学(4) 統計学(4) 物理学(実験を含む)(6) 生物学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 地学(4) 心理学(4) 人類学(4) 天文学(4) 生命の科学(2) 生物学(2) 化学(2)
		02-01-06	*自然科学特論(4) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2)
	系列外科目	02-02-01	体育科目 体育研究所設置講座(講義)(2)・(演習)(1)
		02-02-02	体育研究所設置講座(実技)(1)
		02-02-03	必修として履修しない語学科目(各2または4)(注1)
			基礎情報処理(2)
三田キャンパス設置の全専攻共通科目(各2または4)(注2) 日吉キャンパス設置の全専攻共通科目(各2または4) 教授会の認める他学部設置の共通科目(各2または4)(注3) 保健管理センター設置科目			
02-02-04		国際センター設置講座(各2または4) 情報処理教育設置講座(各2または4) 知的資産センター設置講座(各2または4)	
		02-02-05	教授会の認める外国語教育研究センター設置の独自科目
自由科目	04-01-01	同一科目を重複して履修する場合どちらか一方は自由科目としてください。 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習基礎 その他	

三田のみ設置科目

休講

(注1) 次頁 2 総合教育科目の系列外科目(1)参照

(注2) 同上(2)参照

(注3) 同上(3)参照

【表の読み方および注意事項】

- (1) 分野番号については、P.4「分野と分野番号について」を参照してください。
- (2) 例えば、系列科目の「哲学(4)」は、4単位で総合教育科目の人文科学系列の単位ということです。
- (3) 時間割に掲載のない科目は開講しておりませんのでご注意ください。

2 総合教育科目の系列外科目

総合教育科目の系列外科目として以下の科目も含まれます。

(1) 必修として履修しない語学科目

履修方法によっては、必修語学科目（「必修として履修する語学科目」）を総合教育科目の系列外科目（「必修として履修しない語学科目」）として履修可能です。

但し、ドイツ語第・フランス語第・中国語第・スペイン語第・イタリア語第・朝鮮語第・ロシア語第は系列外科目として履修することはできません。

(2) 三田キャンパス設置の全専攻共通科目

次ページ以下の「3 専門教育科目」の全専攻共通科目欄に記載されている科目のことです。B欄04で申告すると、総合教育科目の系列外として履修することが可能です。ただし、総合教育科目の系列外科目として履修した科目を専門教育科目に振り替えること、また、その逆を行うことはできません。

(3) 教授会の認める他学部設置の共通科目

他学部が設置し、共通科目として公開している科目のことです。履修にあたっての特別な手続・所定用紙は必要ありません。

日吉キャンパス設置の教授会の認める他学部設置の共通科目は以下の通りです。

21世紀の実学(2)	近代日本と福澤諭吉(2)	経済人類学(4)
宗教学(4)	ジェンダー論(2)	ジェンダー論(2)
女性学(2)	身体/感覚文化(2)	
地域研究 スペイン事情(2)	地域研究 スペイン事情(2)	地域研究 中国事情(2)
地域研究 中国事情(2)	地域研究 中国事情(2)	地域研究 中国事情(2)
地域研究 北米事情(2)	地域研究 北米事情(2)	地域生態文化論(2)
中国事情(2)	比較文化論(4)	東アジアの中の近代日本(2)
表象文化論(4)	民族文化論(2)	

三田キャンパス設置の教授会の認める他学部設置の共通科目とは、「各学部共通外国語科目」のことです。

(4) 体育研究所設置科目

2004年度より開講された「体育学講義(2)」「体育学演習(1)」は、2003年度以前に「保健衛生」「体育理論」を履修・取得済でも別科目として履修できます。また体育実技科目は、2003年度以前の科目を含め同一科目名でも履修できます。ただし、文学部の総合教育科目として履修できる体育研究所設置講座は合計4単位までです。

(5) 国際センター設置講座

(6) 情報処理教育室設置講座

(7) 知的資産センター設置講座

(8) 外国語教育研究センター設置講座(日吉・三田独自科目)

(9) 本年度教授会の認める総合教育科目(系列外科目)

教養研究センター設置科目(日吉)

保健管理センター設置科目(日吉)

、 の設置科目については、文学部時間割「諸研究所設置時間割表」を参照してください。

3 専門教育科目（選択科目としても履修できる科目）

(1) 学則第 34 条に定める文学部設置の専門教育科目

哲 学 系	哲学概論 (4)	形而上学 (4)	知識の哲学 (4)	科学の哲学 (4)	現代論理学の諸問題 (4)
	中級論理学 (4)	哲学倫理学特殊 (4)	論理学入門 (4)	原典講読 (2)	西洋哲学倫理学史 I (4)
	西洋哲学倫理学史 II (4)	心の哲学 (4)	現象学 (4)	言語の哲学 (4)	宗教の哲学 (4)
	中国哲学 (4)	印度哲学 (4)	宗教学 (4)	原典研究 I (4)	原典研究 II (4)
	原典研究 III (4)	原典研究 IV (4)	哲学研究会 I (2)	哲学研究会 II (2)	
	倫理学概論 (4)	東洋倫理思想 (4)	日本倫理思想 (4)	キリスト教概論 (4)	倫理学の基礎 I (2)
	倫理学の基礎 II (2)	自然と倫理 (2)	生活と倫理 (2)	社会と倫理 (2)	文化と倫理 (2)
	哲学的人間学 (4)	原典講読 (2)	倫理学研究会 I (2)	倫理学研究会 II (2)	
	美学概論 (4)	芸術研究基礎 (2)	芸術学 (2)	芸術運営論 (4)	美学特殊 (4)
	美術史特殊 (4)	音楽史特殊 (4)	東洋美術史概説 (4)	西洋美術史概説 (4)	西洋音楽史概説 (4)
美学美術史学演習 (2)	原典講読 I (2)	原典講読 II (2)	美学美術史学研究会 I (2)	美学美術史学研究会 II (2)	
史 学 系	史学概論 (4)	日本史研究入門 (4)	日本史概説 I (4)	日本史概説 II (4)	日本史概説 III (4)
	日本史特殊 (4)	日本史演習 (2)	古文書学 (4)	地理学 (4)	地理学 (2)
	原典講読 (2)	日本史研究会 I (2)	日本史研究会 II (2)		
	東洋史概説 I (4)	東洋史概説 II (4)	東洋史概説 III (4)	東洋史特殊 (4)	東洋史演習 (2)
	原典講読 (2)	東洋史研究会 I (2)	東洋史研究会 II (2)		
	西洋史概説 I (4)	西洋史概説 II (4)	西洋史概説 III (4)	西洋史特殊 (4)	西洋史演習 (2)
	原典講読 (2)	西洋史研究会 I (2)	西洋史研究会 II (2)		
	考古学 (4)	人類学 (4)	民族学 (4)	民族学考古学研究法 (4)	民族学考古学特殊 (4)
	民族学考古学実習 (2)	博物館学 (4)	博物館学実習 (3)	博物館学特殊 I (4)	博物館学特殊 II (4)
	博物館学特殊 III (4)	博物館学特殊 IV (4)	原典講読 (2)	民族学考古学研究会 I (2)	民族学考古学研究会 II (2)
文 学 系	国語学 A (2)	国語学 B (2)	国語学演習 (2)	国文学史 A (2)	国文学史 B (2)
	国文学史 C (2)	国文学史 D (2)	国文学史 E (2)	国文学史 F (2)	国文学 I (4)
	国文学 II (4)	国文学 III (4)	国文学 IV (4)	国文学 V (4)	国文学 VI (4)
	国文学 VII (4)	国文学 VIII (4)	国文学 IX (4)	国文学 X (4)	国文学 XI (4)
	国文学 XII (4)	国文学 XIII (4)	国文学 XIV (4)	国文学 XV (4)	国文学演習 I (2)
	国文学演習 II (2)	国文学演習 III (2)	国文学演習 IV (2)	国文学演習 V (2)	国文学演習 VI (2)
	日本語文法 (2)	仏教学概論 (4)	日本語学 I (2)	日本語学 II (2)	原典講読 I (2)
	日本語教授法 I (2)	日本語教授法 II (2)	国文学研究会 (2)		
	中国語学概論 (4)	中国語学特殊 (4)	中国語学演習 I (2)	中国語学演習 II (2)	中国文学史 I (4)
	中国文学史 II (4)	近代中国文学 (4)	中国文学特殊 (4)	中国古典演習 I (2)	中国古典演習 II (2)
	中国古典演習 III (2)	原典講読 I (2)	原典講読 II (2)		
	古代中世英語学 (4)	現代英語学 (4)	英語音声学 (4)	英語史 (4)	英文学史 I (4)
	英文学史 II (4)	米文学史 I (4)	米文学史 II (4)	英語学 (4)	英文学 (4)
	米文学 (4)	英語学演習 (2)	英文学演習 (2)	米文学演習 (2)	英語学研究会 I (2)
	英語学研究会 II (2)	英語学特別演習 I (2)	英語学特別演習 II (2)	英文学研究会 I (2)	英文学研究会 II (2)
	英文学特別演習 I (2)	英文学特別演習 II (2)	米文学研究会 I (2)	米文学研究会 II (2)	米文学特別演習 I (2)
	米文学特別演習 II (2)	原典講読 (2)			
	ドイツ文学史 I (4)	ドイツ文学史 II (4)	ドイツの文学と中世 (4)	ドイツの文学と近代 I (4)	ドイツの文学と近代 II (4)
ドイツの文学と現代 (4)	ドイツの文学理論 (4)	ドイツの歴史と社会 (4)	スイス・オーストリアの文学と社会 (4)		
作品研究 I (2)	作品研究 II (2)	ドイツ語学 (4)	ドイツ語学演習 (2)	ドイツ語表現演習 I (2)	
ドイツ語表現演習 II (2)	ドイツ語表現演習 III (2)	ドイツ語表現演習 IV (2)	ドイツ語学文学研究会 (2)		
フランス文学史 I (4)	フランス文学史 II (4)	フランス文学と近代 I (4)	フランス文学と近代 II (4)		
フランス文学と現代 (4)	フランスの文化と歴史 (4)	フランス語学 (4)	フランス文学演習 I (2)	フランス文学演習 II (2)	
フランス文学演習 III (2)	フランス語学演習 I (2)	フランス語学演習 II (2)	フランス語学演習 III (2)	フランス語学演習 IV (2)	
フランス語表現演習 I (2)	フランス語表現演習 II (2)	フランス語表現演習 III (2)	フランス語表現演習 IV (2)	フランス語学文学研究会 (2)	

図書館・情報学系	図書館・情報学基礎 (2)	原典講読 (2)	情報サービス基礎Ⅰ (2)	情報サービス基礎Ⅱ (2)	情報検索基礎Ⅰ (2)
	情報検索基礎Ⅱ (2)	情報メディア基礎Ⅰ (2)	情報メディア基礎Ⅱ (2)	図書館・情報学研究法 (2)	図書館・情報学研究会 (2)
	図書館概論 (2)	図書館の計画と経営 (2)	図書館資料論 (2)	図書館活動論Ⅰ (2)	図書館活動論Ⅱ (2)
	図書館活動論Ⅲ (2)	図書館活動論Ⅳ (2)	コミュニケーション史 (2)	資料組織論 (2)	レファレンス・サービス論 (2)
	図書館実習 (2)	情報メディア概説Ⅰ (2)	情報メディア概説Ⅱ (2)	情報認識の基礎 (2)	情報メディアの構造と分析Ⅰ (2)
	情報メディアの構造と分析Ⅱ (2)	情報メディア特殊Ⅰ (2)	情報メディア特殊Ⅱ (2)	情報メディア特殊Ⅲ (2)	情報メディア特殊Ⅳ (2)
	情報検索概説Ⅰ (2)	情報検索概説Ⅱ (2)	情報検索研究 (2)	情報探索行動 (2)	データベース検索 (2)
	情報検索システム (2)	情報処理技術 (2)	自然言語処理の基礎 (2)	画像・映像処理の基礎 (2)	書誌学Ⅰ (2)
	書誌学Ⅱ (2)	児童資料論 (2)	図書館・情報学特殊 (2)		
人間関係学系	社会学概論 (4)	社会心理学概論 (4)	文化人類学概論 (4)	社会学史 (4)	社会調査Ⅰ (2)
	社会調査Ⅱ (2)	コミュニケーション学 (4)	普及学 (4)	教育社会学 (4)	日本社会論 (4)
	宗教社会学 (4)	都市社会学 (4)	文化社会学 (4)	家族・親族論 (4)	社会学特殊Ⅰ (4)
	社会学特殊Ⅱ (4)	社会学特殊Ⅲ (4)	社会学特殊Ⅳ (4)	社会学特殊Ⅴ (4)	社会学特殊Ⅵ (4)
	社会学特殊Ⅶ (4)	社会学特殊Ⅷ (4)	社会学特殊Ⅸ (4)	社会学特殊Ⅹ (4)	社会学特殊Ⅺ (4)
	社会学特殊Ⅻ (4)	社会学特講Ⅰ (2)	社会学特講Ⅱ (2)	社会学特講Ⅲ (2)	社会学特講Ⅳ (2)
	社会学特講Ⅴ (2)	社会学特講Ⅵ (2)	比較文化論 (4)	対人影響論 (4)	現代社会論 (4)
	知識社会学 (4)	社会学研究会Ⅰ (2)	社会学研究会Ⅱ (2)		
	心理学概論 (4)	心理学史 (2)	心理学特殊 (4)	心理学特殊Ⅰ (2)	心理学特殊Ⅱ (2)
	心理学実験 (4)	心理統計 (4)	知覚心理学Ⅰ (4)	知覚心理学Ⅱ (2)	発達心理学Ⅰ (4)
発達心理学Ⅱ (2)	行動分析学Ⅰ (4)	行動分析学Ⅱ (2)	認知心理学Ⅰ (4)	認知心理学Ⅱ (2)	
生物心理学Ⅰ (4)	生物心理学Ⅱ (2)	心理測定論 (2)	数理心理学 (2)	クリニカルワーク概説 (4)	
パーソナリティ理論概説 (4)	認知臨床心理学 (4)	発達臨床心理学 (4)	言語障害臨床 (4)	原典講読 (2)	
心理学研究会Ⅰ (2)	心理学研究会Ⅱ (2)				
教育学概論 (4)	教育心理学概論 (4)	教育史 (4)	教育学史 (4)	教育学特殊Ⅰ (4)	
教育学特殊Ⅱ (4)	教育学特殊Ⅲ (4)	教育学特殊Ⅳ (4)	教育学特殊Ⅴ (4)	教育学特殊Ⅵ (4)	
教育学特殊Ⅶ (4)	教育学特殊Ⅷ (4)	教育学演習Ⅰ (2)	教育学演習Ⅱ (2)	教育測定実験 (4)	
教育研究法Ⅰ (2)	教育研究法Ⅱ (2)	文献講読Ⅰ (4)	文献講読Ⅱ (4)	文献講読Ⅲ (4)	
原典講読 (2)	教育学研究会Ⅰ (2)	教育学研究会Ⅱ (2)			
人間科学基礎 (4)	人間科学研究法基礎 (4)	人間科学諸領域 A (4)	人間科学諸領域 B (4)	人間科学諸領域 C (4)	
人間科学諸領域 D (4)	人間科学研究法 (2)	人間科学研究法 (4)	人間関係学 (4)	対人行動学 (4)	
現代家族論 (4)	ライフコース研究 (4)	組織行動研究 (4)	コミュニティ心理学 (4)	人間・環境系論 (4)	
社会システム論 (2)	比較文化関係論 (4)	パーソナリティ研究 (4)	臨床心理学 (4)	精神分析学 (2)	
精神病理学 (2)	文化と精神病理 (2)	人間科学特論 (2)	人間科学特論 (4)	人間科学演習 (2)	
人間科学研究会Ⅰ (2)	人間科学研究会Ⅱ (2)				

(2) 学則第 34 条に定める文学部設置の全専攻共通科目

全専攻共通科目	言語学概論Ⅰ (4)	言語学概論Ⅱ (4)	言語学概論Ⅲ (4)	言語学特殊Ⅰ (4)	言語学特殊Ⅱ (4)
	言語学特殊Ⅲ (4)	言語学特殊Ⅳ (4)	言語学特殊Ⅴ (4)	言語学特殊Ⅵ (4)	言語学特殊Ⅶ (4)
	言語学特殊Ⅷ (4)	言語学特殊Ⅸ (4)	ロシア文学 (4)	比較文学Ⅰ (4)	比較文学Ⅱ (4)
	詩学 (4)	詩学Ⅰ (2)	詩学Ⅱ (2)	現代芸術 (4)	現代芸術Ⅰ (2)
	現代芸術Ⅱ (2)	演劇史 (4)	映画演劇論Ⅰ (2)	映画演劇論Ⅱ (2)	映画演劇論Ⅲ (2)
	映画演劇論Ⅳ (2)	視聴覚教育メディア論 (2)	漢文講読Ⅰ (2)	漢文講読Ⅱ (2)	音楽学Ⅰ (4)
	音楽学Ⅱ (4)	文化財科学Ⅰ (4)	文化財科学Ⅱ (4)	西洋古典学 (4)	ライフサイエンス (4)
	芸術と文明Ⅰ (4)	芸術と文明Ⅱ (2)	日本洋学史 (4)	カウンセリング概論 (4)	アート・マネジメント (4)
	アート・プロデュース (4)	洋書講読 (2)	名著研究Ⅰ (2)	名著研究Ⅱ (2)	ドイツ語 (2)
	フランス語 (2)	中国語 (2)	朝鮮語 (2)	ロシア語 (2)	スペイン語 (2)
	イタリア語 (2)	特別イタリア語 (2)	ラテン語 (2)	古典ギリシア語 (2)	現代ギリシア語 (2)
	アラビア語 (2)	ペルシア語 (2)	トルコ語 (2)	英語インテンシブⅠ (4)	英語インテンシブⅡ (4)
	英語インテンシブⅢ (4)	中国語会話Ⅰ (2)	中国語会話Ⅱ (2)	中国語会話Ⅲ (2)	中国語会話Ⅳ (2)
	カウンセリングワークショップ (4)		生涯学習概論 (2)	教育学概論 (2)	情報と倫理Ⅰ (2)
	情報と倫理Ⅱ (2)	応用情報処理Ⅰ (2)	応用情報処理Ⅱ (2)	応用情報処理Ⅲ (2)	応用情報処理Ⅳ (2)
	応用情報処理Ⅴ (2)	応用情報処理Ⅵ (2)	応用情報処理Ⅶ (2)	情報と職業 (2)	

(3) 本年度文学部教授会の認める専門教育科目

原典講読 (中国文学演習)(2)	原典講読 (中国文学演習)(2)	中国古典演習 (A)(中国語表現演習)(2)
中国古典演習 (B)(中国語表現演習)(2)	中国古典演習 (A)(中国文学演習)(2)	中国古典演習 (B)(中国文学演習)(2)
中国古典演習 (A)(中国文学演習)(2)	中国古典演習 (B)(中国文学演習)(2)	中国語学演習 (中国語表現演習)(2)
中国語学演習 (中国語表現演習)(2)	中国現代文学研究会 ・ (各2)	中国古典文学研究会 ・ (各2)
中国語学研究会 ・ (各2)	アカデミック・ライティングA~E (各2)	比較教育学 (4)
漢文講読 (国文)(2)	作品研究 (2)	ドイツ文化論 (4)
医療社会論 (4)	博物館学実習 A~ D(各3)	博物館学実習 A・ B(各3)
人間科学諸領域 ~ (各2)		

(4) 本年度教授会の認める専門教育科目 (全専攻共通科目)

三田キャンパス設置科目

イタリア文学演習 (2)	イタリア語文献講読 (2)	英語上級 (2)
環境問題と大学 (2)	芸術の現在 (4)	古文書の世界 (2)
自然科学研究会 ・ (各2)	蒐集の科学 (4)	スペイン語圏文化研究 (2)
比較精神史 (4)	人の尊厳 (社会と人権)(2)	文章と表現 (4)
翻訳の世界 (2)	論文フランス語入門 (初級)(2)	論文フランス語入門 (中級)(2)

極東証券寄付講座

日吉キャンパス設置科目

辞書の世界 (2)	書物の世界 (2)	人の尊厳 (社会と人権)(2)
文化人類学 (4)		

知的資産センター設置科目

福澤研究センター設置科目

、 の設置科目については、文学部時間割「諸研究所設置時間割表」を参照してください。

(5) 本大学設置の専門教育科目

教授会の認める各学部設置の専門教育相当科目

必ず以下の専門教育相当科目かどうかを各学部の履修案内で確認し、授業担当者の口頭による承認を得てください。

- ・経済学部：専門教育科目
- ・法学部：法律学科目、政治学科目
- ・商学部：専攻科目
- ・理工学部：専門教育科目
- ・総合政策学部：専門科目、クラスター科目
- ・環境情報学部：専門科目、クラスター科目
- ・看護医療学部：専門科目

教授会の認める研究所等付属施設の授業科目または講座

言語文化研究所、メディア・コミュニケーション研究所、斯道文庫、国際センター、情報処理教育室、教職課程センター、外国語教育研究センター設置(日吉・三田独自科目)の授業科目または講座

教職課程センター設置科目の履修上の注意事項

教職課程センターの指示に従い、教職課程センターで教職課程の登録をすると同時に、**文学部の科目として履修申告を行わなければなりません。**

日本語・日本文化教育センター設置「日本語教育学講座」については、所定の条件を満たした場合、基礎科目を専門教育科目として履修することができます。詳しくは日本語・日本文化教育センターに確認し、ガイダンスに出席してください。

(6) 文学部教職課程教科に関する科目(学部学則 別表1)

書道(4)	法学概論(2)	政治学Ⅰ(2)	政治学Ⅱ(2)	口語英語(2)
英作文(2)	比較文化論(2)			

4 自由科目

進級および卒業に必要な単位としては計算されません。

- (1) 同一科目を重複して履修する場合は、専攻別内規で許可されている場合を除き、どちらか一方を自由科目のB欄分野番号【99】に指定のうえ、登録してください。
- (2) 教職課程センター設置の「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「教育実習基礎」は、自由科目となります。

【学年により分野の異なる科目(学則改正に伴う)】

科目名、単位	2・3年生(04学則)	4年生(93学則)
漢文(4)	総合教育科目 人文科学系列	履修不可
漢文(2)	履修不可	総合教育科目 系列外(休講)
文化人類学(4)	総合教育科目 人文科学系列	教授会の認める科目 全専攻共通科目
書物の世界(2)	総合教育科目 系列外	教授会の認める科目 全専攻共通科目
辞書の世界(2)	総合教育科目 系列外	教授会の認める科目 全専攻共通科目
英語インテンシブⅠA,ⅠB(各2)	総合教育科目 系列外	履修不可
英語インテンシブⅠ(4)	履修不可	教授会の認める科目 全専攻共通科目(2005年度休講)

ここでは履修申告に際しての一般的な注意点を学年別及び特定のケースにしたがってまとめています。

1 一般的注意事項

【同一科目の重複履修】

単位を取得した同一名称の科目を必修科目、選択科目として 2 度以上履修することは原則としてできません。科目とは学則第 32 条に示されている科目名のことです。しかし所属する専攻によっては、専攻別内規に示す範囲で 2 度以上の履修することが認められています。詳しくは各専攻の専攻担任に問い合わせてください。

【選択語学の科目名】

全専攻共通科目のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語、イタリア語、ラテン語、古典ギリシア語、現代ギリシア語については、科目名後ろの()内のレベルが異なれば、同一語種でも、卒業必要単位数に含めることができます。

【専攻における専門選択科目の履修】

各専攻の内規にある(専門)選択科目として履修できる科目には、各学部設置の専門教育科目、言語文化研究所、メディア・コミュニケーション研究所、斯道文庫、国際センター、情報処理教育室、教職課程センターの授業科目または講座を含める事ができます。

【分野変更】

授業科目名が同一であっても「総合教育科目」で履修した科目を「専門教育科目」に変更することはできません。また、この逆も出来ません。一度履修・修得・認定した科目の分野は変更できません。

【他地区設置科目履修の場合】

時間的に不可能な履修の仕方は認められません。

例：同一時限の重複履修、1 時限(日吉)2 時限(三田)という履修

【他学部設置科目履修の場合(文学部の時間割に記載のない科目)】

【4 年生】

他学部設置科目は、学則 33 条に定める大学設置の専門科目に限ります。(詳細は P.83 を参照)

履修にあたって特別な申込み方法はありますが、科目担当者の口頭了承を得た上で、履修申告をしてください。

他学部設置の総合教育科目は、原則として履修申告できません(自由科目でも申告不可)。

【諸研究所設置科目履修の場合】

諸研究所(言語文化研究所、メディア・コミュニケーション研究所、斯道文庫、国際センター、情報処理教育室、教職課程センター、外国語教育研究センター、日本語・日本語文化教育センター)設置の科目の中には履修申告とは別に当該研究所でも登録を必要とする場合があります。当該研究所のガイダンスには必ず出席し、必要な場合は別途登録をしてください。

【留学】

在籍中に外国の大学に留学する場合は、留学前および帰国後に専攻担任および学事センターから履修科目に関するガイダンスを受けてください(P.6 を参照)。

【専攻変更】

専攻の変更は原則として認められません。ただし、真にやむを得ない理由のある場合に限り教授会の議を経て認められる場合があります。これにかかわる問題については、学事センター窓口および専攻担任に申し出て指導を受けてください。

【進級・卒業要件】

4年生の卒業要件に関しては専攻内規をよく読み、専攻別ガイダンスに出席してください。

2 学芸員資格の取得について

学芸員の資格を取得しようとする場合は、以下の学科目を履修し、ガイダンスに出席して所定の手続きを行ってください。ガイダンスは、4月初めの博物館学実習ⅠA・B・C・Dいずれか(文学部民族学考古学専攻設置科目)の初回授業で行われます。必ず出席し、登録・申請をしてください。なお、実習費として3,000円が必要になります。

実習費支払締切日：2006年5月31日(水) 学事センター文学部係

とを履修した場合、それぞれに実習費が必要になります。

履修申告をした学生は、授業の参加、不参加にかかわらず、必ずお支払いください。

支払締切日までに支払い手続きのない場合は、6月1日(木)に履修科目を削除します。それによって、卒業に必要な単位が不足する場合や、学芸員資格に必要な科目が不足する場合がありますので、十分ご注意ください。

【学芸員資格取得に必要な科目】()内は単位数を表す。

	授 業 科 目	備 考	時間割設置
必 修 科 目	博物館学(4)	必修	民族学考古学専攻
	博物館学実習ⅠA(3)・博物館学実習ⅠA(3)	このうち1科目必修	
	博物館学実習ⅠB(3)・博物館学実習ⅠB(3)		
	博物館学実習ⅠC(3)・博物館学実習ⅠC(3)		
	博物館学実習ⅠD(3)・博物館学実習ⅠD(3)		このうち1科目必修
	博物館学実習ⅡA(3)		
	博物館学実習ⅡB(3)	このうち1科目必修	民族学考古学専攻
	博物館学特殊Ⅰ(資料論・有形)(4)		
	博物館学特殊Ⅱ(資料情報処理)(4)		
	博物館学特殊Ⅲ(展示・普及)(4)		
	博物館学特殊Ⅳ(企画・運営・教育)(4)	このうち1科目必修	全専攻共通科目
	文化財科学Ⅰ(4)		
	文化財科学Ⅱ(4)	必修	
	生涯学習概論(2)		
視聴覚教育メディア論(2)			
教育学概論(学芸員コース)(2)			
選 択 科 目	民族学(4)	このうち2科目	民族学考古学専攻
	考古学(4)		
	東洋美術史概説A(4)または東洋美術史概説B(4)		美学美術史学専攻
	西洋美術史概説A(4)または西洋美術史概説B(4)		
	アート・マネジメント(4)		全専攻共通科目
	アート・プロデュース(4)		

平成8年度までに、社会教育(2)視聴覚教育(2)教育原理(4)の各単位を取得した場合は、上記生涯学習概論(2)視聴覚教育メディア論(2)教育学概論(2)の各単位を取得したものとみなします。

東洋美術史概説A・B、西洋美術史概説A・Bのうちから2科目を修得しても選択科目の充足とはなりません。博物館学実習ⅠA～ⅠDおよび博物館学実習ⅡA・ⅡBは、2004年度新2年生(2004年4月に第2学年に進級または編入学した学生)より必修になります。2003年度以前に2年生以上だった学生は、民族学考古学専攻設置の博物館学A～Dを履修してください。(博物館学実習ⅡA・ⅡBは必修ではありません)

3 よくある質問【4年生(93学則)】

項目	質問	適用学年	回答
履修	履修申告は何単位までできますか？	2・3・4年生	文学部2・3・4年生には履修単位の上限はありません。
	総合教育科目はどれでも履修申告できる？	2・3・4年生	他学部設置の総合教育科目は履修申告できません。文学部の時間割に掲載されているもののみになります。
	総合教育科目(日吉)の履修制限について	2・3・4年生	履修申告期間中に正しく申告ができた学生に限り、履修制限の対象となります。抽選結果発表は、日吉・三田キャンパス掲示板および Web で行います。 URL: http://www.hc.keio.ac.jp/gakuji/
	必修としてではなく、語学を履修したい。	4年生	2年生の必修語学抽選結果後に空きクラスがあった場合に限り履修することができます。また、全専攻共通科目や、「全学部共通外国語科目履修案内」(別冊)でも履修する事ができます。
	選択科目って？	4年生	履修案内 P.81～P.84に掲載されている科目のことを指します。
	全専攻共通科目の履修方法は？	4年生	A欄で申告すると、専門教育科目の選択科目として登録されます。B欄(04)で申告すると、総合教育科目(系列外)として登録されます。
	他専攻の科目も履修できますか？	2・3・4年生	履修できます。A欄申告で、専門教育科目の選択科目として履修することができます。
	「卒業試験」の履修申告について	2・3・4年生	「卒業試験(卒業論文)」または「卒業試験」を必ず履修申告してください。登録番号は、各専攻の時間割欄外に掲載してあります。前年度に留年した学生は、前年度の「卒業試験(卒業論文)」または「卒業試験」の成績は無効になっています。今年度、改めて履修申告してください。また、専攻によって研究会の再履修方法が異なります。必ず履修案内を熟読し専攻担任に相談をしてください。
	他学部の専門科目は履修できますか？	4年生	文学部の専門教育科目に相当する科目であれば履修申告可能です。必ず授業担当者に口頭で許可を得てください。(科目認定用紙の提出は必要ありません)
	他学部の研究会は履修できますか？	3・4年生	各専攻の専門教育科目(選択科目)として履修が可能です。
	他学部のゼミで卒論を提出し卒業したい。	2・3・4年生	文学部所属専攻の要件を満たさないと卒業できません。
	体育科目を履修したい。	2・3・4年生	時間割の該当(体育研究所)ページおよび履修案内を参照の上、必ず体育研究所のガイダンスに出席してください。締切、抽選等がありますので十分注意してください。また、4単位までが卒業単位(総合教育科目(系列外))になります。
	メディア・コミュニケーション研究所の授業がとりたい。	2・3・4年生	入所説明会や手続を経て研究生になった学生以外はオープン科目しか履修できません。詳細は、講義要綱を参照のうえ、メディア・コミュニケーション研究所にご確認ください。
外国語教育研究センターの科目を履修したい。	2・3・4年生	文学部の時間割に掲載されている科目以外は履修申告できません。外国語教育研究センターのガイダンスに出席し、所定の手続を経た上で履修申告を行ってください。	
資格	学芸員資格について教えてください。	3・4年生	履修案内 P.86を参照してください。
	教職に必要な科目を履修した場合は？	2・3・4年生	教職課程センター設置科目は、専門教育科目(選択科目)として履修できます。但し、「教育実習」・「教育実習基礎」は自由科目になります。教員免許取得に必要な科目が、専攻に設置されている場合は、教職と文学部両方の要件を満たすことになります。但し、履修申告期間に正しく履修申告がされている場合に限りです。
その他	専攻別学生カードの提出先は?(2・3年のみ)	2・3年生	専攻担任に提出してください。詳細は専攻別ガイダンスで確認してください。
	三田には科目ガイダンス週間がありますか？	2・3・4年生	ありません。8日から授業を開始しますので履修申告する科目は出席してください。
	他学部や他地区の時間割・講義要綱を閲覧したい。	2・3・4年生	学事センター閲覧コーナー(閲覧のみ)もしくはメディアセンター 1F 複写カウンター(閲覧、コピー)で可能です。Webでも閲覧する事ができます。
	専攻担任ってなんですか？	2・3・4年生	所属専攻学生全員を取りまとめて受け持つ先生のことです。留学・休学・退学を希望する場合は必ず専攻担任の面接と承認が必要になります。また、所属専攻内の事で相談したいことがある場合はまず専攻担任に相談してください。
	先生の連絡先を教えてください。	2・3・4年生	学事センターでは、先生の個人情報は一切お教えできません。
	授業内やレポートボックス回収で提出できなかったレポートを先生に転送してほしい。	2・3・4年生	学事センターでは、レポートに限らず、担当教員への書類の転送は一切行っていません。
	ゼミに関する情報はどこにありますか？	2・3・4年生	西校舎地下2階の掲示板に掲出しています。

文学部では学則の他に専攻ごとに専攻内規を定めています。各自、所属の専攻内規を熟読の上、不明な点がある場合は、履修申告の前に、専攻担任に必ず相談してください。

なお、入学年度等により、適用される学則・内規が異なる専攻があります。学則・内規の適用対象者の条件にも十分注意してください。

【目次】

哲 学 専 攻.....	90
倫 理 学 専 攻.....	92
美学美術史学専攻.....	94
日 本 史 学 専 攻.....	96
東 洋 史 学 専 攻.....	98
西 洋 史 学 専 攻.....	100
民族学考古学専攻.....	102
国 文 学 専 攻.....	103
中 国 文 学 専 攻.....	106
英 米 文 学 専 攻.....	108
独 文 学 専 攻.....	110
仏 文 学 専 攻.....	112
図書館・情報学専攻.....	114
社 会 学 専 攻.....	118
心 理 学 専 攻.....	122
教 育 学 専 攻.....	124
人 間 科 学 専 攻.....	126

【学則第156条適用に関する文学部内規】<93学則>

在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1, 2学年については2年間ずつ在籍することができる。
- (2) 3年進級条件科目のある専攻は、第3・4学年各々2年間ずつ在籍することができる。
該当専攻：倫理学，美学美術史学，日本史学，西洋史学，英米文学，図書館・情報学，
心理学，教育学
- (3) 3年進級条件科目のない専攻は、第3・4学年計4年間在籍することができる。
該当専攻：哲学，東洋史学，民族学考古学，国文学，中国文学，独文学，仏文学，
社会学，人間科学

哲学専攻

平成 11 年度新入生（1 年生）より適用。

1 必修科目

必修科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された 46 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。（倫理学専攻開講の原典講読（英）は卒業に必要な単位に含めない）

【2 年生】

（1）進級条件科目

原典講読（倫理学専攻開講の原典講読（英）は含めない）

（2）基礎コースの科目は 2 年生で履修することが望ましい。

【3 年生】

（1）3 年生ではいずれかの研究会 I を必修科目として履修する。

（2）研究会を同一学年で二つ以上履修した場合は一つを必修とし、他は選択科目として履修すること。

（3）専門コースの科目は 3・4 年生で履修することが望ましい。

【4 年生】

（1）4 年生ではいずれかの研究会 II を必修科目として履修する。なお、同一の研究会を 2 年継続して履修しなくともよい。

（2）研究会を同一学年で二つ以上履修した場合は一つを必修とし、他は選択科目として履修すること。

（3）卒業試験は論文とし、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること。（研究会とは別の登録番号があります。）

（4）専門コースの科目は 3・4 年生で履修することが望ましい。

【各学年共通】

（1）単位取得済科目の再履修は、授業科目系列表内の必修科目（倫理学専攻開講のものを含む）に限り、次の場合には何度でも選択科目として認められる。（ア）担当者が異なる場合、（イ）担当者は同じだが内容が異なる場合。（イ）の場合は、履修届提出日前に専攻担任（平成 18 年度は中川純男、堀江 聡）の判断を求め、履修届（WEB 履修の場合、画面のプリントアウト）に認定のサインを受けること。

（2）必修科目のなかで、1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目（分野 03-01-01・03-01-03・03-01-05）を、指定数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

（3）専門コースで「中級論理学」、「現代論理学の諸問題」を履修しようとする者は基礎コースで「論理学入門」を先に履修しておくこと。

2 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された 26 単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【授業科目系列表】

種類	コース	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単位
必修科目	基礎 コース	03-01-01	哲学概論 (4) 西洋哲学倫理学史Ⅰ (4) 西洋哲学倫理学史Ⅱ (4) 論理学入門 (4) } のうち 3 科目 12 単位	46 単 位
		03-01-02	原典講読 (2) (2年進級条件科目)	
	専 門 コ ー ス	03-01-03	知識の哲学 (4) 科学の哲学 (4) 形而上学 (4) 中級論理学 (4) 現代論理学の諸問題 (4) 心の哲学 (4) 言語の哲学 (4) 現象学 (4) 宗教の哲学 (4) 原典研究Ⅰ (独) (4) 原典研究Ⅱ (仏) (4) 原典研究Ⅲ (英) (4) 原典研究Ⅳ (古典) (4) } のうち 5 科目 20 単位	
		03-01-05	哲学倫理学特殊 (4) } 2 科目 8 単位	
		03-01-06	哲学研究会Ⅰ (2) 哲学研究会Ⅱ (2) } 計 4 単位	
		卒業試験	03-01-11	
選択科目		03-01-51	大学設置 (学部学則第 33 条 2 項参照) の専門教育科目	26 単 位 以 上

【専攻設置科目表】

印度哲学 宗教学 哲学概論 西洋哲学倫理学史Ⅰ 西洋哲学倫理学史Ⅱ 論理学入門 原典講読 形而上学 知識の哲学 科学の哲学 現代論理学の諸問題 中級論理学 心の哲学 言語の哲学 現象学 宗教の哲学 原典研究Ⅰ 原典研究Ⅱ 原典研究Ⅲ 原典研究Ⅳ 哲学倫理学特殊 哲学研究会Ⅰ・Ⅱ 卒業試験 (卒業論文)

倫理学専攻

(平成2年度2年生(平成元年度休学者・留年者を含まない)より適用)

1 必修科目

必修科目として、授業科目系列表に示された34単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【2年生】

特別の理由がない限り、倫理学概論、倫理学の基礎Ⅰ・Ⅱ、原典講読を履修しなければならない。特別の理由がある者は、履修相談日に専攻担任に申し出、許可状の発行を受けること。但し、進級条件科目ではない。

原典講読の主目的は、研究会で使用する英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・ロシア語)の修得であるから、日吉でドイツ語・フランス語・ロシア語を履修した者は同一語種を選択することを原則とし、英語や中国語を選択する事は出来ない。

日吉で中国語を履修した者で中国思想を研究したい者のみ、中国文学専攻設置の原典講読を履修することができ、単位を取得すれば、当専攻の原典講読の単位として認定するので、希望者は必ず履修相談日に来談して、専攻担任から許可状の発行を受けること。

中国思想を研究しない者及び日吉でイタリア語・スペイン語・朝鮮語を履修した者は、ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語のうちから、自分が研究したい領域の言語を選択すること。この場合、英語以外は、第3学年で履修することを例外的に認めることがあるので、希望者は必ず履修相談日に来談して、専攻担任から許可状の発行を受けること。

【3年生】

進級条件科目

研究会Ⅰ

原則として3・4年生の2年間継続して、同一担当者の研究会を必修科目として履修すること。

【4年生】

(1)研究会Ⅱ

原則として3・4年生の2年間継続して、同一担当者の研究会を必修科目として履修すること。

(2)卒業試験は論文とし、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。(研究会とは別の登録番号があります。)

【各学年共通】

- (1)必修科目のなかで、1グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目(分野 03-02-03・03-02-04・03-02-05)を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (2)単位取得済科目の再履修は、分野番号 03-02-01 から 03-02-07 までのうち、03-02-06 を除き、次の場合にのみ選択科目として許可する。(ア)担当者が異なる場合、(イ)担当者は同じだが、内容が前(々)年度と異なる場合。(イ)の場合は、履修相談日に専攻担任の判断を求め、許可状の発行を受けること。
- (3)履修届提出日の前に、専攻担任による履修相談日を設ける。来談して専攻担任の許可状の発行を受けなければならない者は上記に該当する場合であるが、その他の項の例外に該当する者も来談すること。

2 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された 38 単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならぬ。

【授業科目系列表】(* = 半期科目)

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位							
必修科目	03-02-01	倫理学概論 (4) 西洋哲学倫理学史Ⅰ(4)・Ⅱ(4)	34 単 位							
	03-02-02	倫理学の基礎Ⅰ(2)*・Ⅱ(2)*								
	03-02-03	自然と倫理(2)* 生活と倫理(2)* 社会と倫理(2)* 文化と倫理(2)*		} のうち 2 科目 (4)						
					03-02-04	哲学概論(4) 哲学的人間学(4) 哲学倫理学特殊(4)	} のうち 1 科目 (4)			
								03-02-05	日本倫理思想(4) 東洋倫理思想(4)	} のうち 1 科目 (4)
	03-02-06	原典講読(2)								
	03-02-07	倫理学研究会Ⅰ(2) 倫理学研究会Ⅱ(2)								
	03-02-11	卒業試験(卒業論文)								
	選択科目	03-02-51		大学設置(学部学則第 33 条 2 項参照)の専門教育科目	38 単 位 以 上					

【専攻設置科目表】

倫理学概論 倫理学の基礎Ⅰ 倫理学の基礎Ⅱ 自然と倫理 生活と倫理 社会と倫理 文化と倫理 哲学的人間学 哲学倫理学特殊 日本倫理思想 東洋倫理思想 キリスト教概論 原典講読(独) 原典講読(露) 原典講読(英) 倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ 卒業試験(卒業論文)

美学美術史学専攻

(平成8年度2年生(平成7年度休学者・留年者を含まない)である者より適用)

4 履修上の注意

卒業時まで専門教育科目については別に掲げた授業科目系列表にしたがって、必修科目として38単位以上を、および選択科目として34単位以上を履修し、取得しなければならない。

【2年生】

(1)「芸術研究基礎」、「原典講読Ⅰ」、「美学美術史学演習」は必ず履修すること。

(ただし進級条件科目ではない。)

(2)1,2年生を通じて、語学科目計18単位(英語を選択しない場合は20単位)を取得しないと進級できない。

【3年生】

(1)「美学美術史学研究会Ⅰ」は4年生への進級条件科目である。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。

(2)「芸術学」、「芸術運営論」は本学年で履修することが望ましい。

【4年生】

(1)「美学美術史学研究会Ⅱ」は卒業条件科目である。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。

(2)卒業試験は論文試験とし、必修として履修した「美学美術史学研究会Ⅱ」の指導教授による「卒業試験(卒業論文)」(研究会とは別の登録番号、文学部時間割に記載されている)を必ず履修し、その指導教授に卒業論文を提出すること。

(3)4年生において留年した者は、「美学美術史学研究会Ⅱ」について、たとえ単位を取得していても、再度必ず履修すること。

【各学年共通】

(1)「芸術研究基礎」を除く美学美術史学専攻の授業科目は、必修および選択科目として、担当者の異同を問わず、何度でも履修できる。(他の専攻の専門科目の履修に関しては、一般的注意事項を参照すること。)

(2)「芸術研究基礎」の履修は、原則として本専攻の2年生のみが可能であり、2年次に単位取得できなかった者についてのみ3年次以降での履修を認める。

(3)必修科目として指定単位数を超えて履修した場合、その超過分は選択科目とみなし、卒業単位として取り扱う。

(4)必修科目として履修したものと同名の科目を選択科目として履修する場合も、A欄で履修申告をすること。

(5)「東洋美術史概説」、「西洋美術史概説」、「西洋音楽史概説」の概説科目は、合計12単位を必修とするが、その内一つの概説科目に限り、担当者の異同を問わず、計8単位までを必修と認める。

(6)「美学特殊」、「美術史特殊」、「音楽史特殊」の特殊科目は、その内一つの科目4単位を必修とする。

(7)「芸術運営論(アート・マネジメント)」と「芸術運営論(アート・プロデュース)」の内一つ4単位を必修とする。

(8)在学中に留学を考えている者は、当該年度の履修申告に際して必ず専攻担任に相談の上、学事センターに申し出ること。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位
必修科目	03-03-01	美学概論 (4) 芸術研究基礎 (2)	38 単 位
	03-03-02	東洋美術史概説 (4)	
	03-03-03	西洋美術史概説 (4)	
	03-03-04	西洋音楽史概説 (4)	
	03-03-05	美学特殊 (4) 美術史特殊 (4) 音楽史特殊 (4)	
	03-03-06	芸術運営論 (4)	
	03-03-07	芸術学 (2)	
	03-03-08	原典講読Ⅰ (2)・原典講読Ⅱ (2)	
	03-03-09	美学美術史学研究会Ⅰ (2)・美学美術史学研究会Ⅱ (2)	
	03-03-10	美学美術史学演習 (2)	
	03-03-11	卒業試験 (卒業論文)	
選択科目	03-03-51	大学設置 (学部学則第 33 条2 項参照) の専門教育科目	34 単 位 以 上

【専攻設置科目表】

美学概論	芸術運営論 (アート・マネジメント)	芸術運営論 (アート・プロデュース)
原典講読Ⅰ (英)	原典講読Ⅱ (仏独伊日)	芸術研究基礎
西洋美術史概説	西洋音楽史概説	美術学
美学美術史学演習	美学美術史学研究会Ⅰ・Ⅱ	東洋美術史概説
		音楽史特殊
		卒業試験 (卒業論文)
		博物館学実習ⅡA・ⅡB

日本史学専攻

平成 12 年度 2 年生（平成 11 年度休学者・留年者を含まない）より適用。

1 卒業試験（卒業論文）について

卒業試験は卒業論文によって行う。4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること。（日本史研究会 II とは別の登録番号があります。）

2 必修科目の履修について

- a. 必修科目として、授業科目系列表に示された 10 科目 36 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。
- b. 2 年生進級条件科目
原典講読
- c. 3 年生進級条件科目
日本史研究会 I（担当者の許可を得たもの）
- d. 3 年生指定必修科目
日本史演習（担当者の許可を得たもの）
- e. 4 年生指定必修科目
日本史研究会 II（担当者の許可を得たもの）
- f. 日本史概説 I・II・III，の中から，異なった 2 科目を卒業までに履修し，単位を取得しなければならない。
- g. 東洋史概説 I・II・III，西洋史概説 I・II・III の中から 1 科目を卒業までに履修し，単位を取得しなければならない。
- h. 日本史特殊は，卒業までに 8 単位を履修し，単位を取得しなければならない。

3 選択科目の履修について

- a. 授業科目系列表に選択科目として示された科目の中から，卒業までに 36 単位を履修し，単位を取得しなければならない。
- b. そのうちの 12 単位については，指定された科目群（分野番号 03-04-51）の中から，異なった科目を卒業までに履修し，単位を取得しなければならない。ただし，洋書講読については，日本史専攻設置のものとする。
- c. 指定単位数を超えて履修した必修科目は，選択科目（03-04-51 ないし 03-04-52）とみなし，卒業単位として取り扱う。したがって履修申告では，必修単位として挙げられている科目はすべて A 欄に記入すること。

4 同一科目の履修について

日本史学専攻の設置科目に限り，必修科目，選択科目ともに，担当者の異同を問わず，同一科目の重複履修を認める（回数等は特に制限しない）。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位
必 修 科 目	03-04-01	史学概論(4) 古文書学(4)	36 単 位
	03-04-02	日本史特殊(4)を8単位	
	03-04-03	日本史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4)のうち2科目	
	03-04-04	東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) 西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) }のうち1科目	
	03-04-05	原典講読(2)	
	03-04-06	日本史演習(2)	
	03-04-07	日本史研究会Ⅰ(2) 日本史研究会Ⅱ(2)	
	03-04-11	卒業試験	
選 択 科 目	03-04-51	洋書講読(2) 日本史演習(2) 日本史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) 日本史特殊(4) 東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) 西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) 東洋史特殊(4) 西洋史特殊(4) 哲学倫理学特殊*(4) 考古学(4) 民族学(4)	36 単 位 以 上
	03-04-52	大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目	

* 専攻担任が指定する科目に限る

【専攻設置科目表】

日本史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	日本史特殊	日本史演習	原典講読	日本史研究会Ⅰ・Ⅱ
古文書学	洋書講読	卒業試験(卒業論文)		

東洋史学専攻

(平成6年度2年生(平成5年度休学者・留年者を含む)より適用)

1 卒業試験(卒業論文)について

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。(東洋史研究会Ⅰ・Ⅱとは別の登録番号がある。)

2 必修科目の履修について

- (1) 必修科目として、別掲の授業科目系列表に示された12科目42単位を卒業までに履修し、かつ単位取得しなければならない。
- (2) 2年生進級条件科目
原典講読
- (3) 東洋史概説はⅠ・Ⅱ・Ⅲそれぞれを履修し、かつ単位取得しなければならない。
- (4) 必修の東洋史特殊3コマのうち、1コマは専任教員担当の授業を取るのが望ましい。
- (5) 東洋史特殊は同一担当者の講義を続けて履修しても内容は毎年度異なるので、必修科目の単位として加算される。
- (6) 東洋史研究会Ⅰ・Ⅱは同一担当者の科目を3・4年生においてそれぞれ必修科目として1科目ずつ2年間連続して履修することを原則とする。ただし、同一学年において2科目を超えて履修することをさまたげない。その場合、一つは必修科目として申告し、残りは選択科目としなければならない。4年生においては3年生に必修科目として単位取得した担当者の科目を続けて必修科目として履修することが望ましいが、事情により選択科目として単位取得した担当者の科目を必修科目として履修し、その担当者の「卒業試験(卒業論文)」を履修することもできる。
- (7) 卒業試験(卒業論文)の履修者のなかで、すでに東洋史研究会Ⅰ・Ⅱ(2×2=4単位)を必修科目として履修済みの者(たとえば4年生で卒業論文を提出しなかった者など)は卒業試験(卒業論文)担当者の東洋史研究会Ⅰ・Ⅱを選択科目または自由科目として履修することが望ましい。
- (8) 平成5年度以降入学の新カリキュラム体系に属する学生は、2年生において選択必修語学科目のうち1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つの語種に振り替えることができるが、同じ語種のもを2コマ、4単位を履修しなければならない。1コマは文学部が設置するアラビア語、ペルシア語、トルコ語のなかから選び、他の1コマは、言語文化研究所が設置するアラビア語Ⅰ・アラビア語Ⅱ・ペルシア語Ⅰ・トルコ語Ⅰの特殊講座のなかから選ばなければならない(B欄59で履修申告すること)。

3 選択科目の履修について

- (1) 選択科目は、別に掲げた授業科目系列表に示された科目の中から卒業までに30単位以上を履修し、かつ単位取得しなければならない。
- (2) 東洋史特殊、東洋史研究会Ⅰ・Ⅱは、必修科目の指定単位数を超えて単位取得した場合は、合計12単位まで選択科目(分野03-05-51)の取得単位とみなす。東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは担当者が異なれば選択科目(分野03-05-51)として履修申告することができる。
- (3) 演習、洋書講読、文学部設置のアラビア語・ペルシア語・トルコ語・中国語・朝鮮語、および言語文化研究所特殊講座のサンスクリット語・アラビア語・ヴェトナム語・ペルシア語・タイ語・トルコ語・カンボジア語など各2単位を選択科目として履修することが望ましい。

とりわけ 3 年生以上の者で、演習または洋書講読を履修する場合は、自分が履修した東洋史研究会 I・II の担当者の指導に従って、できるだけ履修することが望ましい。

- (4) 東洋史演習・洋書講読は同一担当者の講義を何度でもくりかえし履修し、かつ単位取得しても選択科目の単位として加算される。
- (5) 必修科目のなかで、一定数の科目を履修するように指定のある科目（分野 03-05-01・03-05-03・03-05-05）を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位
必修科目	03-05-01	東洋史特殊 (各 4) ... 3 科目 (12)	42 単 位
	03-05-02	史学概論 (4)	
	03-05-03	日本史概説 I (4)・II (4)・III (4) ... 1 科目 (4)	
	03-05-04	東洋史概説 I (4)・II (4)・III (4)	
	03-05-05	西洋史概説 I (4)・II (4)・III (4) ... 1 科目 (4)	
	03-05-06	原典講読 (2)	
	03-05-07	東洋史研究会 I・II (各 2) ... 2 科目	
	03-05-11	卒業試験 (卒業論文)	
選択科目	03-05-51	東洋史概説 I・II・III (各 4) 東洋史特殊 (4) 東洋史研究会 I・II (各 2) } ... 合計 12 単位まで	30 単 位 以 上
	03-05-52	大学設置 (学部学則第 33 条 2 項参照) の専門教育科目	

【専攻設置科目表】

東洋史特殊	東洋史概説 I・II・III	原典講読	東洋史研究会 I・II
東洋史演習	洋書講読	卒業試験 (卒業論文)	

西洋史学専攻

(平成7年度2年生であった者(平成6年度休学者・留年者を含む)より適用)

1 必修科目

必修科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された12科目40単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【2年生】

(1) 進級条件科目

原典講読(西洋史学専攻設置科目)

*2年生の在籍者で次のいずれかの条件に該当する者は、2年生の初めに専攻担任の別個のガイダンスを受けなければならない。

必修語学として英語を履修していない者。

必修語学として独語・仏語・伊語・西語・露語のうちいずれの言語も履修していない者。

【3年生】

(1) 進級条件科目

西洋史研究会Ⅰ

3・4年生において同一担当者の西洋史研究会ⅠおよびⅡを継続履修することを原則とする。

西洋史演習(独・仏・伊・西・露のいずれか)

【4年生】

(1) 指定必修科目

西洋史研究会Ⅱ

(2) 卒業試験は卒業論文によって行う。

4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。

(西洋史研究会Ⅱとは別の登録番号)

【各学年共通】

(1) 西洋史概説はⅠ・Ⅱ・Ⅲの各々を履修しなければならない。

(2) 西洋史特殊2科目は、各々別の担当者の科目を必修科目として履修しなければならない。

2 選択科目

選択科目は、大学設置(学部学則33条2項)の専門教育科目の中から卒業までに32単位以上を履修し、単位を取得しなければならない。必修科目の中で原典講読(西洋史学専攻設置)、西洋史演習は、同一担当者であっても何度重複履修しても差し支えない。重複した場合は、2単位は必修科目、それ以上は何単位でも選択科目として認める。

西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、史学概論、西洋史研究会Ⅰ・Ⅱの重複履修は選択科目として認めない。また日本史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、それぞれ指定単位である4単位(1科目)を超えて履修した場合は選択科目とみなす。ただし、同一のローマ数字のついた日本史概説の選択科目としての重複履修は認めない。東洋史概説についても同じとする。

西洋史特殊については、必修として取得済みのものと同一担当者のものは選択科目として履修できない。これらを履修した場合には、自由科目となる。(担当者が違う場合は選択科目として履修してもよい)

西洋史特殊を2科目を超えて必修科目として履修し単位を取得した場合、2科目までは必修科目、3科目目からは選択科目の単位とみなす。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位
必修科目	03-06-01	西洋史特殊 (各 4) 2 科目 (8)	40 単 位
	03-06-02	史学概論 (4)	
	03-06-03	日本史概説 I (4) ・ II (4) ・ III (4) のうち 1 科目 (4)	
	03-06-04	東洋史概説 I (4) ・ II (4) ・ III (4) のうち 1 科目 (4)	
	03-06-05	西洋史概説 I (4) ・ II (4) ・ III (4)	
	03-06-06	原典講読 (2)	
	03-06-07	西洋史演習 (2)	
	03-06-08	西洋史研究会 I (2) 西洋史研究会 II (2)	
	03-06-11	卒業試験 (卒業論文)	
選択科目	03-06-51	大学設置 (学部学則第 33 条 2 項参照) の専門教育科目	32 単 位

【専攻設置科目表】

西洋史特殊	史学概論	西洋史概説 I ~ III	原典講読	西洋史演習
西洋史研究会 I ・ II	卒業試験 (卒業論文)			

民族学考古学専攻

(平成4年度2年生であった者(平成3年度休学者・留年者を含む)より適用)

履修上の注意

- (1) 卒業試験は卒業論文によって行う。
4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。
(研究会とは別の登録番号があります。)
- (2) 2年生進級条件科目
原典講読
- (3) 民族学考古学実習は2年生で履修するのが望ましい。
- (4) 民族学考古学研究会のうち、Iは2・3年生において履修し、IIは4年生(卒論指導)において履修する。
- (5) 専門教育科目の単位数および授業科目系列表は次の通りとする。
- (6) 民族学考古学特殊(03-07-01)は2科目8単位を必修とする。(同一担当者でも選択科目としての再履修を認める)
- (7) 必修科目のなかで、1グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目(分野 03-07-01・03-07-02・03-07-04・03-07-05・03-07-06)を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位
必修科目	03-07-01	民族学考古学特殊(各4) ... 2科目(8)	40 単 位
	03-07-02	考古学(4) 民族学(4) 人類学(4) 民族学考古学研究法(4)	
	03-07-03	史学概論(4)	
	03-07-04	日本史概説I(4)・II(4)・III(4)	
	03-07-05	東洋史概説I(4)・II(4)・III(4)	
	03-07-06	西洋史概説I(4)・II(4)・III(4)	
	03-07-07	原典講読(2)	
	03-07-08	民族学考古学研究会I(2)・II(2)	
	03-07-09	民族学考古学実習(2)	
	03-07-11	卒業試験(卒業論文)	
	選択科目	03-07-51	

【専攻設置科目表】

民族学考古学特殊	考古学	民族学	人類学	民族学考古学研究法	原典講読
民族学考古学研究会I・II	卒業試験(卒業論文)	民族学考古学実習	博物館学		
博物館学実習A~D	博物館学実習IA~ID	博物館学特殊I・II・III・IV			

国文学専攻

(平成元年度に2年生であった者(昭和63年度休学者・留年者を含む)より適用)

履修上の注意

- (1) 卒業試験は卒業論文によって行う。
4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。
(研究会とは別の登録番号があります。)
- (2) 2年生進級条件科目
原典講読Ⅰ(A)~(D)(2単位)
2年生において、Ⅰ(A)~(D)のうち、1科目を履修しなければならない。そのクラス分けは、新学期に発表する。
- (3) 3・4年生指定科目
イ. 必修科目としての国文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・国語学演習(各2単位)は3年生,4年生において異なる4科目を履修すること。
ロ. 国文学研究会はⅠ藤原・Ⅱ川村・Ⅲ佐藤・Ⅳ岩松・Ⅴ石川・Ⅵ関場・Ⅶ松村担当のいずれか一つを4学年で履修する。これは卒業論文指導であるから,論文のテーマ等を考え,指導を受けようとする教員の研究会を選ぶこと。
- (4) 国文学Ⅰ~ⅩⅤ,国文学史A~F,日本語文法・漢文講読(国文),国文学演習Ⅰ~Ⅵ・国語学演習の4つの科目群に関して,それぞれ必修科目としての単位数を超えて履修した単位は,選択科目の単位となる。履修申告する際には,以下の場合を除いて,たとえ必修科目としての単位数を超えていても,すべてをA欄に必修科目として申告すること。
この4つの科目群に関し,既に修得している同一科目で同一担当者の授業を,再度履修する場合には選択科目に,再履修する場合には自由科目となる。履修申告する際には,B欄に選択科目あるいは自由科目として申告すること。ただし,既に修得している科目でも,担当者が異なる場合には必修科目とすることもできる。その際はA欄に申告すること。
なお,同一科目の再履修において選択科目として履修できる単位数は,国文学Ⅰ~ⅩⅤ,国文学史A~F,国文学演習Ⅰ~Ⅵ・国語学演習の3つの科目群はそれぞれ8単位以内,日本語文法・漢文講読(国文)は2単位以内である。
- (5) 国語学A(2)(春学期)・国語学B(2)(秋学期)[いずれも必修科目]の単位は,同一学年内に両方履修してもよいし,異なる学年で一方ずつ履修してもよい。また,既に修得している国語学A・国語学Bを,再度履修する場合には担当者が異なっても選択科目に,再履修する場合には自由科目となる。履修申告する際にはB欄に選択科目あるいは自由科目として申告すること。
- (6) 必修科目として履修すべき国文学史としての合計8単位のうち,同一担当者の授業の履修は4単位を限度とする。

(7) 専門教育科目の単位数は次の通り。

必修科目		選択科目	
国語学 A (2) ・ 国語学 B (2) 以上 2 科目 (4) 国文学 I (4) ・ 国文学 II (4) ・ 国文学 III (4) ・ 国文学 IV (4) ・ 国文学 V (4) ・ 国文学 VI (4) ・ 国文学 VII (4) ・ 国文学 VIII (4) ・ 国文学 IX (4) ・ 国文学 X (4) ・ 国文学 XI (4) ・ 国文学 XII (4) ・ 国文学 XIII (4) ・ 国文学 XIV (4) ・ 国文学 XV (4) 以上のうち 2 科目 (8) 国文学史 A (2) ・ 国文学史 B (2) ・ 国文学史 C (2) ・ 国文学史 D (2) ・ 国文学史 E (2) ・ 国文学史 F (2) 以上のうち 4 科目 (8) 日本語文法 (2) 漢文講読 (国文) (2) 以上のうち 1 科目 (2) 国文学演習 I (2) ・ 国文学演習 II (2) ・ 国文学演習 III (2) ・ 国文学演習 IV (2) ・ 国文学演習 V (2) ・ 国文学演習 VI (2) ・ 国語学演習 (2) 以上のうち 4 科目 (8) 国文学研究会 I ・ II ・ III ・ IV ・ V ・ VI ・ VII (2) 原典講読 I (2)	34	本大学設置の専門教育科目 (学部学則 第 33 条 2 項参照) 42 単位以上 ただし 国語学 A (2) ・ 国語学 B (2) 国文学 I (4) ・ 国文学 II (4) ・ 国文学 III (4) ・ 国文学 IV (4) ・ 国文学 V (4) ・ 国文学 VI (4) ・ 国文学 VII (4) ・ 国文学 VIII (4) ・ 国文学 IX (4) ・ 国文学 X (4) ・ 国文学 XI (4) ・ 国文学 XII (4) ・ 国文学 XIII (4) ・ 国文学 XIV (4) ・ 国文学 XV (4) 国文学史 A (2) ・ 国文学史 B (2) ・ 国文学史 C (2) ・ 国文学史 D (2) ・ 国文学史 E (2) ・ 国文学史 F (2) 日本語文法 (2) 漢文講読 (国文) (2) 国文学演習 I (2) ・ 国文学演習 II (2) ・ 国文学演習 III (2) ・ 国文学演習 IV (2) ・ 国文学演習 V (2) ・ 国文学演習 VI (2) ・ 国語学演習 (2) 以上のうち必修科目として履修しない 12 単位をふくめなければならない。	42 単 位 以 上

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
必修科目	03-08-01	国語学 A (2) ・ 国語学 B (2)	34 単 位	
	03-08-02	国文学 I ~ XV (各 4)		
	03-08-03	国文学史 A ~ F (各 2)		
	03-08-04	原典講読 I (2)		
	03-08-05	国語学演習 (2)		
	03-08-06	日本語文法 (2) ・ 漢文講読 (国文) (2)		
	03-08-07	国文学演習 I ~ VI (各 2)		
	03-08-08	国文学研究会 I ~ VII (各 2)		
	03-08-11	卒業試験 (卒業論文)		
選択科目	03-08-51	国語学 A (2) ・ 国語学 B (2) } 国文学 I ~ XV (各 4) } 国文学史 A ~ F (各 2) } 日本語文法 (2) } 漢文講読 (国文) (2) } 国語学演習 (2) } 国文学演習 I ~ VI (各 2) }	のうち必修科目として履修しない 12 単位をふくめなければ ならない。	42 単 位
	03-08-53	上記以外の本大学設置の専門教育科目 (学部学則第 33 条 2 項参照)		

【旧学則との科目対応に関する規定】

- (1) 以下の科目は選択科目に含めることとする。
 - ・平成 8 年度までの国文学史Ⅰ(4)・国文学史Ⅱ(4)・国文学演習ⅠB(2)・国文学演習ⅡB(2)・国文学演習ⅢB(2)・国文学演習ⅣB(2)
 - ・平成 7 年度までの国語学(4)
 - ・平成 8 年度の国語学Ⅰ(2)・国語学Ⅱ(2)
- (2) 国語学 A(2)(春学期)・国語学 B(2)(秋学期)[いずれも必修科目]の単位は、平成 8 年度の国語学Ⅰ(2)・国語学Ⅱ(2)[いずれも必修科目]の単位、または平成 7 年度までの国語学(4)[必修科目として履修]の単位をもって替えることとする。
- (3) 平成 8 年以前に履修した国語学演習は、3・4 年生指定科目の国文学演習・国語学演習 4 科目のうちを含めることとする。
- (4) 必修科目としての国文学史 A~F(半期)(各 2 単位)の 8 単位は、平成 8 年度までの国文学史Ⅰ・Ⅱ(通年)(各 4 単位)の単位をもって替えることとする。
- (5) 日本語文法・漢文講読(2 科目のうち 1 科目を必修として履修)の単位は、平成 7 年度までの原典講読ⅡA・ⅡB(2 科目とも必修科目として履修)の単位をもって替えることとする。

【専攻設置科目表】

国語学 A・B	国文学Ⅰ~ⅩⅤ	国文学史 A~F	日本語文法	漢文講読(国文)
国文学演習Ⅰ~Ⅵ	国語学演習	原典講読Ⅰ(A)~(D)	国文学研究会Ⅰ~ⅦⅡ	
仏教学概論	日本語学Ⅰ・Ⅱ	日本語教授法Ⅰ・Ⅱ	卒業試験(卒業論文)	

中国文学専攻

平成 12 年度の 2 年生（平成 11 年度休学者・留年者を含む）より適用。

1 卒業試験（卒業論文）について

卒業試験は卒業論文によって行う。4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること。

2 2 年生指定科目

中国文学史 I, 中国文学史 II (A), 中国語学概論（以上 3 科目は進級条件科目）

中国文学演習 I, 中国文学演習 II

中国語表現演習 I, 中国語表現演習 II

3 3・4 年生指定科目

中国文学特殊, 中国語学特殊

中国文学演習 III, 中国文学演習 IV, 中国文学演習 V, 中国文学演習 VI

中国語表現演習 III, 中国語表現演習 IV

中国古典文学研究会 I・II, 中国現代文学研究会 I・II, 中国語学研究会 I・II

4 履修上の注意

- (1) 中国文学史 I・中国文学史 II(A)・中国語学概論は、進級条件科目として、第 2 学年で必ず履修し、単位を取得すること。
- (2) 中国文学演習 I・中国文学演習 II・中国語表現演習 I・中国語表現演習 II は、第 2 学年で履修することが望ましい。
- (3) 3・4 年生指定科目は、研究会 I・II 以外は、3 年生または 4 年生のいずれで履修してもよい。
- (4) 中国文学演習 I・中国文学演習 II・中国文学演習 III・中国文学演習 IV・中国文学演習 V・中国文学演習 VI は、計 6 科目のうち 4 科目を必修科目として履修する。それ以上さらに履修する場合は、選択科目とみなす。
- (5) 各研究会 I・II は、3・4 年生と続けて同一の研究会を履修することが望ましい。3 年生では研究会 I を選択科目として、4 年生では研究会 II を必修科目として履修する。
- (6) 3 年生ですでに単位を取得した必修科目・選択科目を 4 年生で再履修する場合は、講義内容が異なり、かつ専攻担任が承認した時に限り、8 単位まで選択科目として認める。この際、履修申告用紙備考欄に専攻担任の承認印が必要である。
- (7) 上の学年に指定された科目は、下の学年において履修することはできない。
- (8) 選択科目の中には、下記 ~ の科目のうちから 16 単位以上を含めること。
 - 必修科目として履修しない中国文学演習（各 2）
 - 中国古典文学研究会 I 中国現代文学研究会 I 中国語学研究会 I（各 2）
 - 中国語会話 I・II・III・IV（各 2）
 - 漢文講読 I・II（各 2）
 - 中国哲学（4）
 - 東洋史概説 I・II・III（各 4）

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位	
必修科目	03-09-01	中国文学史Ⅰ(4)	38 単 位	
	03-09-02	中国文学史Ⅱ(A)(4)		
	03-09-03	中国語学概論(4)		
	03-09-04	中国文学特殊(4) 中国語学特殊(4)		
	03-09-05	中国文学演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2)・Ⅲ(2)・Ⅳ(2)・Ⅴ(2)・Ⅵ(2)... 4科目(8単位)		
	03-09-06	中国語表現演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2)・Ⅲ(2)・Ⅳ(2)		
	03-09-07	中国古典文学研究会Ⅱ(2)		いずれかの研究会Ⅱを第4学年で履修
		中国現代文学研究会Ⅱ(2)		
中国語学研究会Ⅱ(2)				
03-09-11	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	03-09-51	必修科目として履修しない中国文学演習	38 単 位 以 上	
		中国古典文学研究会Ⅰ(2)		
		中国現代文学研究会Ⅰ(2)		
		中国語学研究会Ⅰ(2)		
		中国語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各2)		
		漢文講読Ⅰ・Ⅱ(各2)		
中国哲学(4)				
03-09-52	東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4)	のうち16単位を含めなければならない。		
03-09-53	大学設置(学部学則第33条2頁参照)の専門教育科目			

【専攻設置科目表】

中国文学史Ⅰ	中国文学史Ⅱ(B)	近代中国文学(中国文学史Ⅱ(A))
中国文学特殊	中国語学概論	中国語学特殊 原典講読Ⅰ(中国文学演習Ⅰ)
原典講読Ⅱ(中国文学演習Ⅱ)		
中国古典演習Ⅰ(A)(中国語表現演習Ⅰ)	中国古典演習Ⅰ(B)(中国語表現演習Ⅱ)	
中国古典演習Ⅱ(A)(中国文学演習Ⅲ)	中国古典演習Ⅱ(B)(中国文学演習Ⅳ)	
中国古典演習Ⅲ(A)(中国文学演習Ⅴ)	中国古典演習Ⅲ(B)(中国文学演習Ⅵ)	
中国語学演習Ⅰ(中国語表現演習Ⅲ)	中国語学演習Ⅱ(中国語表現演習Ⅳ)	
中国古典文学研究会Ⅰ(3年)・Ⅱ(4年)	中国現代文学研究会Ⅰ(3年)・Ⅱ(4年)	
中国語学研究会Ⅰ(3年)・Ⅱ(4年)	卒業試験(卒業論文)	

英米文学専攻

(平成4年度以降に入学した者に適用)

1 専門教育科目

専門教育科目の授業科目表(単位数および科目の分野番号)は次の通り。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位
必修科目	03-10-01	英語史(4) 英文学史Ⅰ(4) 米文学史Ⅰ(4) 現代英語学(4) 原典講読(2)……2年指定必修	36 単 位
	03-10-02	古代中世英語学(4)…3年指定必修 英語音声学(4)	
	03-10-03	英語学演習(各2) 英文学演習(各2) 米文学演習(各2) } のうち3科目(6)	
	03-10-04	英語学研究会Ⅰ(2)・Ⅱ(2) 英文学研究会Ⅰ(2)・Ⅱ(2) 米文学研究会Ⅰ(2)・Ⅱ(2) } のうち同分野の2科目(4)	
	03-10-05	英語学特別演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2) 英文学特別演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2) 米文学特別演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2) }	
	03-10-11	卒業試験 特別演習 試験による 研究会 卒業論文による	
選択科目	03-10-51	選択として履修する講義科目 大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目	36 単 位

(1) 1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある必修科目(分野 03-10-03)を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。なお、同一担当者による同一科目履修は、一度目は必修科目として、二度目は選択科目として認める。以降は自由科目となる。

(2) 英語学、英文学、米文学、アカデミック・ライティングは、担当者が異なれば別科目と認める。なお、同一担当者による同一科目履修は自由科目となる。

【専攻設置科目表】

英語史	英文学史Ⅰ・Ⅱ	米文学史Ⅰ・Ⅱ	現代英語学	原典講読 A ~ F
古代中世英語学	英語音声学	英語学演習 A ~ O	英文学演習 A ~ K	米文学演習 A ~ H
英語学研究会Ⅰ・Ⅱ	英文学研究会Ⅰ・Ⅱ	米文学研究会Ⅰ・Ⅱ	英語学特別演習Ⅰ・Ⅱ	
英文学特別演習Ⅰ・Ⅱ	米文学特別演習Ⅰ・Ⅱ	卒業試験(卒業論文)	英語学 A ~ G	
英文学 A ~ I	米文学 A ~ F	洋書講読(英米文学)	アカデミック・ライティング A ~ E	

2 2年生での履修上の注意

(1) 進級条件科目

英語史，英文学史Ⅰ，米文学史Ⅰ，現代英語学，原典講読のうち3科目以上。（原典講読は2年で取得することが望ましいが，2年生において不合格となっても，進級条件の5科目中3科目に合格していれば進級条件を満たすことになる。）

(2) 3年生においてどの研究会あるいは特別演習を選ぶかは，2年生中に行われるガイダンスを参考にして，各自の希望で決めること。ただし，指導教授の選抜・承認が必要である。定められた期日までに志望票の提出がない場合は，3年次に研究会あるいは特別演習を履修することはできない。

3 3・4年生での履修上の注意

(1) 3年生進級条件科目

研究会Ⅰまたは特別演習Ⅰ

(2) 3・4年生の2年間にわたって，同一担当者の研究会あるいは特別演習を履修する。（研究会から特別演習へのコース変更は担当教員及び専攻担任の面接・許可を受け，学事センターに文章にて申し出た場合のみ可能）

(3) 国際センターと教授会が認める留学生として，3年生で1年間留学する学生については，留学期間中に履修した科目の単位を認定できる。ただし，専門に関係が薄い科目の単位認定は出来ない場合がある。専攻担任の面接・認定及び教授会での認定が必要。

(4) 4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず登録すること。（研究会や特別演習とは別の登録番号があります。）4年次に留年した場合，前年度すでに「卒業試験（卒業論文）」に合格していても，再度登録する必要がある。

4 各学年共通の履修上の注意

(1) 英語学演習・英文学演習・米文学演習は，原則として英米文学専攻の学生を対象とする。ただし，教職課程（英語科）履修者の場合は，定員の範囲内で他専攻学生を受け入れる場合がある。演習は原則として定員を20名とする。

(2) 留年者，復学者，学士入学者，2年生編入者は，必ず英米文学専攻担任のガイダンスを受けること。事故者（前学年で履修すべき指定授業科目に合格しなかった者等）は，必ず新年度のはじめに専攻担任に面談を申し入れ，ガイダンスを受けなければならない。

(3) 「オフィス・アワー」 専攻担任は毎水曜日，各自の研究室に在室し，学生諸君の相談に応じる。履修案内を熟読しても，なお不明の点がある場合は遠慮なく尋ねて疑問を解消し，後に困難な事態に立ち至らぬよう留意されたい。

独文学専攻

(1995 年度 2 年生であった者 (1994 年度休学者・留年者を含む) より適用)

1 卒業試験 (卒業論文) について

卒業試験は卒業論文によって行う。

4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号があります)。

2 専門教育科目

独文学専攻における専門教育科目の必修科目、および選択科目とその単位数は、次の通りである。

必修科目		選択科目	
ドイツ文学史Ⅰ(4)	40 単 位	大学設置の専門教育科目 36 単位以上履修し、単位を取得すること。	36 単 位
ドイツ文学史Ⅱ(4)			
ドイツ語学(4)			
ドイツ文化論(4)			
ドイツの文学理論(4)			
ドイツの文学と中世(4)			
ドイツの文学と近代Ⅰ(4)			
ドイツの文学と近代Ⅱ(4)			
ドイツの文学と現代(4)			
スイス・オーストリアの文学と社会(4)			
のうち2科目(8)			
ドイツの歴史と社会(4)			
ドイツ語学演習(2)			
ドイツ語表現演習Ⅰ～Ⅳ(2)			
のうち3科目(6)			
作品研究Ⅰ(2)			
作品研究Ⅱ(2)			
作品研究Ⅲ(2)			
のうち1科目(2)			
ドイツ語学文学研究会Ⅰ～Ⅶ(2)			
のうち3科目(6)			

3 重複履修について

独文学専攻の学生が必修科目として履修する科目の総計が 40 単位を超える場合、超過した単位数は選択科目の単位数とみなされる。重複して履修する科目にもこの原則が適用される。同一科目を 2 度目に履修する場合もこの原則が適用される。ただし「ドイツ語学文学研究会」については特例がさだめられていて、例外的に必修科目として重複履修が認められる (この点については (5) を参照すること)。

〔例〕 卒業時まで「必修科目」を 48 単位履修した場合には、40 単位を超える 8 単位が選択科目として計算される。

数科目のうち 2 科目 (あるいは 3 科目) を必修科目とすることが指示されている場合に 3 科目 (あるいは 4 科目以上) を必修科目として申告履修した際には、超過した科目は選択科目とみなされる。

例えば、「ドイツ文化論」～「スイス・オーストリアの文学と社会 (03-11-04)」の内、「2 科目」が必修科目とされる。このセクションで 3 科目以上を履修する場合、8 単位を超える分は選択科目として計算されることになる。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位
必 修 科 目	03-11-01	ドイツ文学史Ⅰ(4)	40 単 位
	03-11-02	作品研究Ⅰ(2) 作品研究Ⅱ(2) 作品研究Ⅲ(2)	
	03-11-03	ドイツ語表現演習Ⅰ・Ⅲ(各2) ドイツ語学演習(2) ドイツ語表現演習Ⅱ・Ⅳ(各2)	
	03-11-04	ドイツ文化論(4) ドイツの文学理論(4) ドイツの文学と中世(4) ドイツの文学と近代Ⅰ(4) ドイツの文学と近代Ⅱ(4) ドイツの文学と現代(4) スイス・オーストリアの文学と社会(4)	
	03-11-06	ドイツ語学(4) ドイツの歴史と社会(4) ドイツ文学史Ⅱ(4)	
	03-11-07	ドイツ語学文学研究会Ⅰ～Ⅶ(2)	
	03-11-11	卒業試験(卒業論文)	
選 択 科 目	03-11-51	大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目	36 単 位

4 指定科目

学年別に履修すべき科目が指定されている。それを「指定科目」と呼ぶ。指定の学年で単位を取得できなかった場合は、次の学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

(1) 2年生指定科目

- a) ドイツ文学史Ⅰ
- b) 作品研究Ⅰ(初級)
- c) ドイツ語表現演習Ⅰ(初級作文), ドイツ語表現演習Ⅲ(中級作文)のうちの1科目
- d) ドイツ語表現演習ⅡA・ⅡB(この2科目を同一学年で並行して履修することが望ましい)

(2) 3年生指定科目

- a) 作品研究Ⅱ(中級), 作品研究Ⅲ(上級)のうち1科目
- b) ドイツ語表現演習ⅣA・ⅣB(この2科目は同一学年で並行して履修することが望ましい)

5 ドイツ語学文学研究会について

- (1) 「研究会」のいずれかの担当者を指導教授として卒業論文(卒業試験)作成にあたっての承認と指示を受けること。
- (2) 4年生においては、指導教授の研究会に出席すること。
- (3) 指導を受けたいと望む教員の担当する研究会には3年生と4年生の2年間に継続して履修することが望ましい。
- (4) 研究会をいくつ履修してもよいが、3科目6単位までを必修単位とし、それを超えて履修する場合には選択科目とみなす(A欄申告)。
- (5) 研究会は3年生および4年生で履修することを原則とし、2年生で履修を希望する者は選択科目として申告すること(B欄25)。

【専攻設置科目表】

ドイツ文学史Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語学	作品研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	ドイツ語表現演習Ⅰ～Ⅳ
ドイツ語学演習	ドイツ文化論	ドイツの文学理論	ドイツの文学と中世
ドイツの文学と近代Ⅰ・Ⅱ	ドイツの文学と現代	スイス・オーストリアの文学と社会	
ドイツの歴史と社会	ドイツ語学文学研究会Ⅰ～Ⅶ	卒業試験(卒業論文)	

仏文学専攻

(平成5年度の2年生(平成4年度休学者・留年者を含む)より適用)

1 履修上の注意

(1) 卒業試験は卒業論文によって行う。

4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。(研究会とは別の登録番号があります。)

(2) 仏文学専攻における専門教育科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

以下の表を用いて履修申告に記入する授業科目の分野番号を確認すること。

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
必修科目	基礎コース	03-12-01 フランスの文化と歴史(4) フランス文学と近代Ⅰ(4)	40 単 位	
		03-12-02 フランス語学演習Ⅰ(2) フランス語表現演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2)		
	専門コース	03-12-03 フランス文学史Ⅰ(4)・Ⅱ(4) フランス文学と近代Ⅱ(4) フランス文学と現代(4) フランス語学(4)		のうち3科目 12単位
		03-12-04 フランス語学演習Ⅱ(2)・Ⅲ(2)・Ⅳ(2) フランス語表現演習Ⅲ(2)・Ⅳ(2) フランス文学演習Ⅰ(2)・Ⅱ(2)・Ⅲ(2) フランス語学文学研究会(2):3年次履修		のうち6科目 12単位
		03-12-05 フランス語学文学研究会(2):4年次履修		
		03-12-11 卒業試験(卒業論文)		
選択科目	03-12-51	大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目	36 単 位	

(3) 必修科目のなかで、1グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目(分野03-12-03・03-12-04)を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

(4) 同一名称の科目の重複履修は認めない。科目名の後ろの()内のアルファベットが異なるだけでは同一科目とみなされる。ただし下記の授業科目はそれぞれ1度に限り、選択科目として重複して履修することができる。(分野03-12-51:履修申告の際はB欄にB欄分野番号25を記入)

フランス文学と近代Ⅰ	フランス語学演習Ⅱ	フランス文学演習Ⅰ
フランス文学と近代Ⅱ	フランス語学演習Ⅲ	フランス文学演習Ⅱ
フランス文学と現代	フランス語学演習Ⅳ	フランス文学演習Ⅲ
フランス語表現演習Ⅲ	フランス語表現演習Ⅳ	

(5) フランス語学文学研究会に関しても重複履修を認める。詳しくは下記の3年生 3), 4年生 1)の内容を参照のこと。

2 各学年の注意事項

【2 年生】

(1) 進級条件科目

フランス語学演習Ⅰ，フランス語表現演習Ⅰ，フランス語表現演習Ⅱ

(2) 基礎コースの科目は2年生で履修することが望ましい。

【3 年生】

(1) 専門コースの科目は3・4年生で履修することが望ましい。

(2) フランス語学文学研究会の履修は担当教員の承認が必要である。

(3) フランス語学文学研究会は4年生で必修であるが，3年生でも履修することが望ましい。その場合，3年生で取得した単位も必修科目として算入される(3年生で研究会を履修する場合は時間割の上段のフランス語学文学研究会(選択必修)の登録番号で登録すること)。

【4 年生】

(1) フランス語学文学研究会を4年生において履修する場合は，時間割の下段のフランス語学文学研究会(4年)の登録番号で登録すること。なお4年生で留年した場合，取得した研究会の単位は有効であるが，卒業論文は再度提出しなければならない。

【専攻設置科目表】

フランスの文化と歴史	フランス語学演習Ⅰ(X)～(Z)	
フランス語表現演習Ⅰ(X)～(Z)	フランス語表現演習Ⅱ(X)～(Z)	
フランス文学と近代Ⅰ・Ⅱ	フランス文学と現代	フランス文学史Ⅰ・Ⅱ
フランス語学	フランス文学演習Ⅰ～Ⅲ	フランス語学演習Ⅱ(A)・(B)
フランス語学演習Ⅲ(A)・(B)	フランス語学演習Ⅳ(A)・(B)	
フランス語表現演習Ⅲ(A)・(B)	フランス語表現演習Ⅳ(A)・(B)	
フランス語学文学研究会	卒業試験(卒業論文)	

図書館・情報学専攻

1 注意事項

- (1) 履修の際の注意点は、学年初めのガイダンスで指示するので、必ず出席すること。
- (2) 学士入学者、留年者は、専攻担任のガイダンスを必ず受けること。

2 専門教育科目およびその単位数

図書館・情報学専攻における専門教育科目の必修科目ならびに選択科目とその単位数は次の通りである。

必修科目		選択科目	
図書館・情報学基礎(2) 情報サービス基礎Ⅰ(2) 情報サービス基礎Ⅱ(2) 情報メディア基礎Ⅰ(2) 情報メディア基礎Ⅱ(2) 情報検索基礎Ⅰ(2) 情報検索基礎Ⅱ(2) 原典講読(2) 図書館・情報学研究法(2) 図書館・情報学研究会(2)	20 単 位	図書館概論(2) 図書館の計画と経営(2) 図書館資料論(2) 図書館活動論Ⅰ～Ⅳ(各2) コミュニケーション史(2) 資料組織論(2) レファレンス・サービス論(2) 図書館実習(2)	52 単 位
		情報メディア概説Ⅰ～Ⅱ(各2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と分析Ⅰ～Ⅱ(各2) 情報メディア特殊Ⅰ～Ⅳ(各2)	
		情報検索概説Ⅰ～Ⅱ(各2) 情報検索研究(2) 情報探索行動(2) データベース検索(2) 情報検索システム(2) 情報処理技術(2) 自然言語処理の基礎(2) 画像・映像処理の基礎(2)	
		書誌学Ⅰ～Ⅱ(各2) 児童資料論(2) 図書館・情報学特殊(2)	
卒業試験(卒業論文)		本大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目	

3 履修上の注意

【各学年共通】

- (1) 図書館・情報学を専攻する者は、図書館・情報学専攻設置専門教育科目の必修科目20単位、指定選択科目28単位以上およびその他の専門教育科目24単位以上、計72単位以上を修得しなければならない。ただし、その他の専門教育科目に図書館・情報学専攻設置専門教育科目を含めることはできない。
- (2) 必修科目20単位は、特別の場合を除き、2年生において16単位、3年生において2単位、4年生において2単位を履修するように配分されている。
- (3) 図書館・情報学研究法は3年次に、また図書館・情報学研究会は4年次に、それぞれ指定された必修科目であって、他の学年次および他の専攻の者は自由科目としても履修できない。
- (4) 司書教諭資格の取得を希望する者は、教諭免許取得に必要な科目の他、原則として教職課程センターに設置されている「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディア論」、「学習指導と学校図書館」、「読書教育論」、「情報メディア利用論」の5科目を履修しなければならない。希望者は必ず専攻担任に相談すること。
- (5) 「情報」科をはじめとする各教科の教諭免許の取得を希望する者は、教職課程センターが実施するガイダ

ンスに必ず出席すること。

【2年生】

- (6) 原則として、2年生は図書館・情報学専攻が設置する指定選択科目を履修することはできない。ただし、2年生で留年した者については、専攻担任と面談のうえ、履修を認める場合がある。
- (7) 3年生に進級するためには、2年生に配分されている必修科目8科目(16単位)のうち、5科目(10単位)以上を修得しなければならない。

【3年生】

- (8) 3年生は履修申告に際して所属コースを明記すること。
- (9) 図書館コース、情報メディアコース、情報検索コースのいずれか一つのコースを選択する。各コースごとに、コース必修科目とコース選択科目が授業科目系列表のように定められているので、その指示通りに履修しなければならない。
- (10) 司書資格の取得を希望するものは、図書館・情報学専攻を卒業し、図書館コースで指定されている必修7科目、および「図書館活動論Ⅰ～Ⅳ」、「児童資料論」のうちから3科目以上を修得しなければならない。なお、これらの科目は、情報メディアコース及び情報検索コースで指定されているコース選択科目の中に入れられることができる。
- (11) 4年生に進級するためには、図書館・情報学研究法を修得しなければならない。

【4年生】

- (12) 4年生は履修申告に際して所属コースを明記すること。
- (13) 文学部時間割に記載されている「卒業論文」を必ず履修すること(研究会とは別の登録番号である)。卒業試験は卒業論文をもって受ける。卒業論文提出にあたっては、9月に開催される中間発表会および提出後に行われる最終面接に出席しなければならない。
- (14) 司書資格の取得を希望するものは、上の(10)の指示に従うこと。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)				卒業必 要単位		
必修 科目	必修 2 年 03-13-01	図書館・情報学基礎(2)				20 単 位		
	必修 2 年 03-13-02	原典講読(2) 情報サービス基礎Ⅰ(2) 情報サービス基礎Ⅱ(2) 情報検索基礎Ⅰ(2) 情報検索基礎Ⅱ(2) 情報メディア基礎Ⅰ(2) 情報メディア基礎Ⅱ(2)						
	研究会 03-13-03	3 年次 4 年次	図書館・情報学研究法(2) 図書館・情報学研究会(2)					
	卒業試験 03-13-11	4 年次	卒業試験(卒業論文)					
指定 選択 科目 3・4 年次	図書館コース		情報メディアコース		情報検索コース		14 単 位	
	分野	授業科目名(単位)	分野	授業科目名(単位)	分野	授業科目名(単位)		
	図必修 03-13- 21	図書館概論(2) 図書館の計画と経営(2) コミュニケーション史(2) 図書館資料論(2) 資料組織論(2) レファレンス・サービ ス論(2) 図書館実習(2)	メ必修 03-13- 31	情報メディア概説Ⅰ(2) 情報メディア概説Ⅱ(2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と 分析Ⅰ～Ⅱ(各2)	検必修 03-13- 41	情報検索概説Ⅰ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) 情報探索行動(2) 情報検索システム(2) 情報検索研究(2) データベース検索(2) 情報処理技術(2)		
	図指定 選択 03-13- 22	図書館活動論Ⅰ(2) 図書館活動論Ⅱ(2) 図書館活動論Ⅲ(2) 図書館活動論Ⅳ(2) 児童資料論(2) のうち, 3 科目 6 単位 以上	メ指定 選択 03-13- 32	情報メディア特殊Ⅰ(2) 情報メディア特殊Ⅱ(2) 情報メディア特殊Ⅲ(2) 情報メディア特殊Ⅳ(2) 図書館資料論(2) 資料組織論(2) 情報探索行動(2) のうち, 4 科目 8 単位 以上	検指定 選択 03-13- 42	自然言語処理の基礎(2) 画像・映像処理の基礎(2) レファレンス・サービス論(2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と分析Ⅰ～Ⅱ (各2) のうち, 2 科目 4 単位以上		
コース 選択 03-13- 23	図書館コースのコース 必修科目(図必修)以 外の指定選択科目(注1) また, それ以外に次 の科目もコース選択科 目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) 図指定選択とコース選 択の両方あわせて 14 単 位以上を履修すること	14 単 位	コース 選択 03-13- 23	情報メディアコースの コース必修科目(メ必 修)以外の指定選択科 目(注2) また, それ以外に次 の科目もコース選択科 目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) メ指定選択とコース選 択の両方あわせて 18 単 位以上を履修すること	18 単 位	コース 選択 03-13- 23	情報検索コースのコース必修科目 (検必修)以外の指定選択科目 (注3) また, それ以外に次の科目もコ ース選択科目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) 検指定選択とコース選択の両方あ わせて 14 単位以上を履修すること	14 単 位
選択 科目	03-13- 51	本大学設置(学部学則第 35 条 3 項参照)の専門教育科目				24 単 位		

注 1: メ必修, 検必修, 図指定選択, メ指定選択, 検指定選択の分野科目がそれにあたる

注 2: 図必修, 検必修, 図指定選択, メ指定選択, 検指定選択の分野科目がそれにあたる

注 3: 図必修, メ必修, 図指定選択, メ指定選択, 検指定選択の分野科目がそれにあたる

社会学専攻

1 専攻科目およびその単位数

社会学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

(1) 必修科目は以下の通りである。

必修科目				
次の3科目を2年生で修得すること。			40 単 位	
社会学概論(4)	社会心理学概論(4)	文化人類学概論(4)		12
次の3科目を卒業までに修得すること。				
社会学史(4)	社会調査Ⅰ(2)	社会調査Ⅱ(2)	8	
次の科目のうちから卒業までに20単位を履修すること。			20	
家族・親族論(4)	教育社会学(4)	現代社会論(4)		
コミュニケーション学(4)	社会学特講Ⅰ～Ⅶ(各2)	社会学特殊Ⅰ～Ⅺ(各4)		
宗教社会学(4)	対人影響論(4)	知識社会学(4)		
都市社会学(4)	日本社会論(4)	比較文化論(4)		
普及学(4)	文化社会学(4)			

(2) 選択科目は以下の通りである。

選択科目
大学設置(学部学則第33条 参照)の専門教育科目32単位以上。ただし、卒業論文を卒業要件とする者は、社会学研究会Ⅰ・Ⅱ(各2)合計4単位を含めなければならない。

(注) 社会学研究会Ⅰ・Ⅱはそれぞれ3年生、4年生における社会学研究会をあらわすものである。

2 必修科目

【2年生】

(1) 進級条件科目

社会学概論

社会心理学概論

文化人類学概論

これらの授業科目は必ず2年生で修得すること。1科目でも不合格であれば進級できないから、十分注意しなければならない。

(2) 2年生においては「卒業論文コース」を将来目指すものであっても、「研究会」を選択履修することはできない。

【3・4年生】

(1) 「卒業論文コース」

卒業論文コースをとる者は、3・4の両学年において、社会学研究会Ⅰ・Ⅱを履修・合格しなければ、最終年度において卒業論文を提出する資格を得ることができない。4年次に別の担当者の研究会に変更し、その担当者に卒論を提出することを希望する場合は、変更前・変更後の担当者との相談を、履修申告前に行わなければならない。なお「卒業論文コース」の者が、研究会担当者の承認を受けて中途および4年次で「非卒業論文コース」に移行することもありうる。ただし、4年生で、履修届の提出後においては、移行できない。

(2) 「非卒業論文コース」

非卒業論文コースの者は、4年次において次の卒業試験指定科目のうち、1科目を履修・合格し、さらに同一分野の卒業試験に合格しなければならない。

コミュニケーション学、宗教社会学、家族・親族論

【4年生】

(1) 卒業に必要な単位数を充足しても、卒業論文もしくは卒業試験（非卒業論文コースの者）に合格しなければ卒業できない。

4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験」を必ず履修すること。

(2) 非卒業論文コースの者に課せられる卒業試験については、卒業試験指定科目が決められている。非卒業論文コースの者は、4年次（卒業年次）において次の卒業試験指定科目のうち、1科目を履修・合格し、さらに同一分野の卒業試験に合格しなければならない。指定科目が前年度までに修得済みであっても4年次（卒業年次）において自由科目として履修・合格しなければならない。卒業試験指定科目は以下の通りである。

コミュニケーション学、宗教社会学、家族・親族論

(3) 4年次留年者は改めて卒業試験（卒業論文）を履修し合格しなければならない（4年次に卒業試験（卒業論文）に合格していても、改めて、卒業試験指定科目及び卒業試験を、あるいは4年次研究会及び卒業論文を自由科目として履修しなければならない）。

3 各学年共通

- (1) 過年度に履修済みの必修科目を選択科目として再履修することは認めない。再履修の場合は自由科目となる。
- (2) 社会学特殊Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ...,社会学特講Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ...については各々を独立した科目として認める。但し同一番号科目の二度以上の履修については自由科目とする。
- (3) 洋書講読(英),(独),(仏)については各々選択科目として認める。但し同一語学科目の二度以上の履修については自由科目とする。

以上の事を整理すると次の通りである。

科 目		コ ー ス	卒業論文 コース	非卒業論文 コース
必修 科目	社会学概論		4 単位	4 単位
	社会心理学概論		4 単位	4 単位
	文化人類学概論		4 単位	4 単位
	社会学史		4 単位	4 単位
	社会調査Ⅰ		2 単位	2 単位
	社会調査Ⅱ		2 単位	2 単位
	次の科目のうちから 20 単位を履修すること。*		20 単位	20 単位
	家族・親族論(4)	教育社会学(4)		
	現代社会論(4)	コミュニケーション学(4)		
	社会学特講Ⅰ～Ⅶ(各2)	社会学特殊Ⅰ～Ⅻ(各4)		
	宗教社会学(4)	対人影響論(4)		
	知識社会学(4)	都市社会学(4)		
	日本社会論(4)	比較文化論(4)		
	普及学(4)	文化社会学(4)		
	卒業論文もしくは卒業試験		卒業論文	卒業試験
選 択 科 目			社会学研究会 Ⅰ・Ⅱを含めて 32 単位以上	32 単位以上
計			72 単位	72 単位

* 必修科目のなかで, 1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目(分野 03-14-01)を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし, 卒業単位として取り扱う。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位
必 修 科 目	03-14-01	家族・親族論(4) 現代社会論(4) 社会学特講Ⅰ～Ⅶ(各2) 宗教社会学(4) 知識社会学(4) 日本社会論(4) 普及学(4)	40 単 位 以 上
	03-14-02	教育社会学(4) コミュニケーション学(4) 社会学特殊Ⅰ～ⅩⅡ(各4) 対人影響論(4) 都市社会学(4) 比較文化論(4) 文化社会学(4)	
	03-14-03	社会学史(4) 社会学概論(4) 文化人類学概論(4)	
	03-14-11	卒業試験(卒業論文)	
選 択 科 目	03-14-51	社会学研究会Ⅰ(2)	32単位 以上
	03-14-52	社会学研究会Ⅱ(2) 大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目	

研究会は、選択科目又は自由科目として申告することになるので、次の分野番号で申告すること。

	研究会Ⅰ(3年)	研究会Ⅱ(4年)
3年生が履修する場合	A欄申告	自由科目(B欄分野番号99)
4年生が履修する場合	自由科目(B欄分野番号99)	A欄申告

【専攻設置科目表】

家族・親族論	教育社会学	現代社会論	コミュニケーション学	社会学概論
社会学研究会Ⅰ(3年)	社会学研究会Ⅱ(4年)	社会学史	社会学特講Ⅰ～Ⅶ	
社会心理学概論	社会調査Ⅰ・Ⅱ	社会学特殊Ⅰ～ⅩⅡ	宗教社会学	
卒業試験(卒業論文)	対人影響論	知識社会学	都市社会学	日本社会論
比較文化論	普及学	文化人類学概論	文化社会学	原典講読(英)・(独)
洋書講読(英)・(仏)				

心理学専攻

平成 13 年度 2・3・4 年生に進級したもののより適用(平成 12 年度 4 年生休学者,留年者を含まない)

1 専門教育科目およびその単位数

心理学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

必修科目	知覚心理学Ⅰ(4) 心理測定論(2) 原典講読(2) 発達心理学Ⅰ(4) 心理学史(2) 心理学実験(4) 行動分析学Ⅰ(4) 心理統計(4) 心理学研究会Ⅰ(2) 認知心理学Ⅰ(4) 心理学研究会Ⅱ(2) 生物心理学Ⅰ(4)	38 単 位
選択科目	大学設置(学部学則第 33 条 2 項参照)の専門教育科目 34 単位以上。 ただし、心理学専攻設置の選択科目・人間関係学系設置の必修科目のうち 20 単位を含めなければならぬ。	34 単 位 以 上

2 進級条件科目および各学年指定専門科目

	指定専門科目	進級条件科目
2 年生	原典講読(2) 知覚心理学Ⅰ(4) 発達心理学Ⅰ(4) 行動分析学Ⅰ(4) 認知心理学Ⅰ(4) 生物心理学Ⅰ(4)	原典講読(2)を含めて 4 科目 (計 14 単位)を修得しなければ ならない。
	} うち 3 科目以上を 履修のこと	
3 年生	心理統計(4) 心理学史(2) 心理学実験(4) 心理測定論(2) 心理学研究会Ⅰ(2)	心理学実験(4) 心理学研究会Ⅰ(2)
4 年生	心理学研究会Ⅱ(2)	

3 心理学実験Ⅰ・Ⅱの履修

心理学実験ⅠとⅡは、3 年生において、必ず双方を同時に履修することとする。

4 心理学研究会Ⅰ・Ⅱの履修

同一担当者の研究会を 3・4 年生にわたり履修することを原則とする。また、3 年生では心理学研究会Ⅱを、4 年生では心理学研究会Ⅰを自由科目(B 欄 99)として履修することを原則とする。

5 卒業試験（卒業論文）について

卒業試験は卒業論文とする。卒業論文は履修する心理学研究会 II の担当者に提出し、その審査に合格しなければならぬ。

6 注意

各学年の指定専門科目をその年次で履修しない場合、時間割の関係上翌年度に履修することが不可能になり、卒業が遅れることがあるので留意されたい。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位	
必修科目	03-15-01	心理学史 (2)	38 単 位	
	03-15-02	心理統計 (4)		
	03-15-03	知覚心理学 I (4)		行動分析学 I (4)
		認知心理学 I (4)		生物心理学 I (4)
		発達心理学 I (4)		
	03-15-04	原典講読 (2)		
	03-15-05	心理学実験 (4)		
03-15-06	心理学研究会 I (2)・II (2)			
	03-15-11	卒業試験 (卒業論文)		
選択科目	03-15-51	心理学専攻設置の選択科目・人間関係学系設置の必修科目	34 単位 以上	
	03-15-52	上記以外の大学設置 (学部学則第 33 条 2 項参照) の専門教育科目		

心理学専攻設置の専門選択科目 (各心理学の II と、心理学特殊 I, II) で担当者の異なる科目については重複履修を認め、専門選択科目の必要単位として取り扱う。

【専攻設置科目表】

必修科目	知覚心理学 I (4)	心理測定論 (2)	心理学研究会 I (2)
	発達心理学 I (4)	心理学史 (2)	心理学研究会 II (2)
	行動分析学 I (4)	心理統計 (4)	卒業試験 (卒業論文)
	認知心理学 I (4)	原典講読 (2)	
	生物心理学 I (4)	心理学実験 (4)	
選択科目	知覚心理学 II (2)	心理学特殊 I (2)	パーソナリティ理論概説 (4)
	発達心理学 II (2)	心理学特殊 II (2)	認知臨床心理学 (4)
	行動分析学 II (2)	心理学特殊 (4)	発達臨床心理学 (4)
	認知心理学 II (2)	数理心理学 (2)	言語障害臨床 (4)
	生物心理学 II (2)	クリニカルワーク概説 (4)	

教育学専攻

平成 14 年度 2 年生（平成 13 年度留年・休学者を含まない）より適用。

1 専門教育科目およびその単位数

- (1) 教育学専攻設置の学科目は [必修科目] および [選択必修科目] および [専攻選択科目] から構成される。
- (2) 教育学専攻における専門教育科目の必修科目（選択必修科目を含む）、専攻選択科目、選択科目、およびその単位数は以下の通りである。
- (3) 卒業までに必修 10 科目（30 単位）および選択必修 8 科目から 3 科目（12 単位）、選択科目（専攻選択科目を含む）30 単位以上を履修しなければならない（履修方法に関しては後記の規定に従うこと）。
- (4) 卒業試験は卒業論文によって行なう（卒業論文の指導担当者および提出先は研究会担当者と同一）。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単 位)	卒業必 要単位	
必 修 科 目	03-16-01 03-16-02 03-16-14 03-16-03 03-16-04 03-16-05	教育史 (4)	42 単 位	
		教育学史 (4)		
		比較教育学 (4)		
		教育学概論 (4)		
		教育心理学概論 (4)		
		原典講読 (2)		
		教育学演習 I (2)・II (2)		
	教育学研究会 I (2)・II (2)			
	03-16-11	卒業試験 (卒業論文)		
	選 択 必 修 科 目	03-16-21		教育学特殊 I (4)
				教育学特殊 II (4)
教育学特殊 III (4)				
教育学特殊 IV (4)				
教育学特殊 V (4)				
教育学特殊 VI (4)				
教育学特殊 VII (4)				
教育学特殊 VIII (4)				
		このうち 3 科目 12 単位以上		
選 択 科 目	03-16-52	文献講読 I (4)	30 単 位	
		文献講読 II (4)		
		文献講読 III (4)		
		教育測定実験 (4)		
		教育研究法 I (2)・II (2)		
選 択 科 目	03-16-51	大学設置 (学部学則第 33 条 2 項参照) の専門教育科目		

2 履修上の規定

- (1) 必修科目のなかで、1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目（選択必修科目）を指定単位数を超えて履修した場合はそれを選択科目とみなし、卒業単位として取り扱う。ただし、同一名称のものを重複して履修した場合は、そのうち一方だけが選択必修科目単位とみなされ、他方は自由科目単位となる。
- (2) 2 年生における履修規定
- イ．進級条件科目
教育学概論 原典講読
- ロ．原典講読履修について
2 年生履修者を A・B 2 つのグループに分け(履修者配分については担当者間で協議の上決定するのでそれに従うこと)、春学期に A グループに所属した学生は、秋学期には B グループに所属することになる。また逆に春学期に B グループだった学生は、秋学期は A グループとなる。なお、履修申告に際しては、春学期の担当者の名前で登録すること。
- (3) 3・4 年生における履修規定
- イ．進級条件科目
教育学演習Ⅰ・Ⅱ、教育学研究会Ⅰ・Ⅱ
3・4 年生にわたって、いずれかの担当者の教育学演習および教育学研究会に必ず出席すること。研究会は、卒論指導のために設けられたものであり、演習と密接な関連をもっている。なお、3 年生で履修した演習および研究会をⅠ、4 年生で履修した演習および研究会をⅡとし、両学年を通じて同一担当者の演習・研究会を履修するのが原則である。
- ロ．4 年生で留年した場合、必須の「研究会」等の科目をすでに修得できているときは、再度その科目を自由科目として履修する必要はない。
- (4) 全学年共通の履修規定
専攻選択科目は、専門的に教育学を研究する際必要と考えられる方法に重点をおいた科目群である。したがって、必修科目ではないものの、教育心理学系の教育学演習の履修を希望する者は、あわせて教育測定実験および教育研究法の履修が望まれる。また、大津担当の教育学演習・教育学研究会の履修希望者は、2 年生において言語学関連（大津担当）の科目を履修しておくこと。さらに、大学院進学を希望する学生は併せて文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの積極的な履修を期待する。

【専攻設置科目表】

教育学概論	教育心理学概論	原典講読	教育史	教育学史	比較教育学
教育学演習Ⅰ・Ⅱ	教育学研究会Ⅰ・Ⅱ	教育学特殊Ⅰ～Ⅷ	文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
教育測定実験	教育研究法Ⅰ・Ⅱ				

人間科学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

人間科学専攻における専門教育科目の「必修科目」(I~III 類)および「選択科目」とその単位数は次の通りである。「人間科学諸領域A・B・C・D」を履修する場合は、それぞれ「人間科学諸領域 I・II・III・IV」で代替履修すること。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	備考	卒業必要単位
必修科目	I類 (8単位)	03-17-01 人間科学基礎(4) 人間科学研究法基礎(4)	第2学年次進級条件科目 これらに1科目でも不合格(D)があれば第3学年に進級することができない。	50 単 位 以 上
	II類	03-17-02 人間科学諸領域 A(4)または人間科学諸領域 I(2) 人間科学諸領域 B(4)または人間科学諸領域 II(2) 人間科学諸領域 C(4)または人間科学諸領域 III(2) 人間科学諸領域 D(4)または人間科学諸領域 IV(2)	これら4科目をすべて履修・単位取得する。	
	III類 (II類とあわせて42単位以上)	03-17-03 人間科学研究法(2) パーソナリティ研究(4) 人間科学研究法(4) 臨床心理学(4) 人間関係学(4) 精神分析学(2) 対人行動学(4) 精神病理学(2) 現代家族論(4) 文化と精神病理(4) ライフコース研究(4) 人間科学特論(2) 組織行動研究(4) 人間科学特論(4) コミュニティ心理学(4) 人間科学演習(2) 人間-環境系論(4) 社会システム論(2) 比較文化関係論(4) 哲学系(哲学・倫理学・美学美術史学の3専攻)および人間関係学系の他専攻(社会学・心理学・教育学の3専攻)設置の専門科目(2または4)	II類・III類あわせて42単位以上を履修・単位取得する。	
		03-17-04 人間科学研究会 I(2) 人間科学研究会 II(2) 03-17-11 卒業試験(0)(コースA) 卒業論文(0)(コースB)		
選択科目	03-17-51	大学設置(学部学則第33条2項参照)の専門教育科目(2)または(4)	22単位以上を履修する III類として履修しなかった授業科目を選択科目として履修することができる。	22単位以上

- (1) 「人間科学研究法」、「人間科学特論」、「人間科学演習」については、科目名の後の()内に異なる名称が付されている場合、それぞれを別科目として取り扱う。ただし、この取り扱いは人間科学専攻の学生に限る。
- (2) III 類科目を指定単位を超えて履修した場合、その超えた単位は選択科目(分野番号 03-17-51)の単位とみなして、卒業単位として取り扱う。
- (3) 新学則移行に伴い、Ⅰ類科目は卒業時までⅡ類科目とあわせて42単位以上を履修することに変更された。2年次に単位未取得であったⅠ類科目を履修する場合、Ⅰ類科目が2単位化されているので、この合計単位が不足することのないよう十分注意されたい。

例えば、3年次までにⅠ類科目を26単位履修済みであってⅡ類を1科目未履修であった場合、4年次には2単位化された当該科目を履修するだけではⅠ類・Ⅱ類合計単位が不足する。別にⅠ類科目を2単位以上取得する必要がある。

2 3年次におけるコースの選択とその決定

- (1) 3年次において、「卒業試験」(ゼロ単位)を卒業の要件とするコース(以下、コース A とよぶ)、または、「卒業論文」(ゼロ単位)をもって「卒業試験」に代替するコース(以下、コース B とよぶ)のいずれかを選ばなければならない。
- (2) コース A を志望する学生は、4年次秋学期開講の「人間科学特論(卒業研究)」(2)を含めて、卒業までにⅢ類26単位以上を履修して単位を満たし、「卒業試験」に合格しなければならない。「卒業試験」は、「人間科学特論(卒業研究)」の単位充足をもって代替する。
- (3) コース B を志望する学生は、2年次の秋学期に行われるガイダンスに基づいて、「卒業論文」の指導を仰ぐ教員を選定し、当該教員にそのむねを申し出、当該教員の審査を受け、これに合格した上で、当該教員の担当する「人間科学研究会Ⅰ」(2)を3年生で、次に、「人間科学研究会Ⅱ」(2)を4年次で、履修し単位を満たし、4年次の定められた期日までに「卒業論文」を提出し、論文の審査(「卒業試験」に充当する)に合格しなければならない。
- (4) 3年次にコース B を選択した学生が4年次履修申告時に「人間科学研究会Ⅱ」を履修しない場合には、コース A への変更となる。この変更をした場合、「人間科学研究会Ⅰ」の単位が修得済みであればⅢ類の単位として認める。
- (5) コース A を選択し4年次で卒業できなかった場合、「人間科学特論(卒業研究)」の単位は取り消される。次年度に再度「人間科学特論(卒業研究)」を履修しなければならない。
- (6) コース B を選択し4年次で「人間科学研究会Ⅱ」の単位を充たしながら卒業できなかった場合、次年度にコース A に変更して「人間科学特論(卒業研究)」を履修しなければならない。
- (7) コース A・コース B それぞれにおける卒業要件を要約して示せば下表のごとくである。

卒業要件		コース A	コース B
専門必修科目 (50単位以上)	I 類	8 単位	8 単位
	II 類 および III 類	人間科学特論(卒業研究)Ⅱ を含めて 42 単位以上	人間科学研究会Ⅰ・Ⅱ(各2) を含めて 42 単位以上
専門選択科目 (22 単位以上)		22 単位以上	22 単位以上
卒業試験		人間科学特論(卒業研究)Ⅱ の単位充足をもって代替	卒業論文(0 単位) で行う
卒業に必要な専門科目の 総単位数		72 単位以上	72 単位以上

3 その他

- (1) 春学期の授業開始直前の「専攻ガイダンス」において、科目履修上の細かい説明をおこなうので、全学年次とも必ず出席されたい。
- (2) 2年生諸君は、「専攻別学生カード」を「人間科学研究法基礎」の第1回目授業時に必ず持参し提出されたい。
- (3) 「履修申告表」の学生用ひかえは成績が送られてくるまでは保存しておくこと。(ひかえがないために履修上の問題の“責”がいずれにあったのか判断のつきかねる場合があるので、このことをくれぐれも注意されたい。)

【専攻設置科目表】

人間科学基礎(4) 人間科学研究法基礎(4) 人間科学諸領域Ⅰ～Ⅳ(各2)
人間科学研究法(観察・実験)(4) 人間科学研究法(計量と解析)(4)
人間科学研究法(データ解析)(4) 現代家族論(4) コミュニティ心理学(4)
社会システム論(2) 比較文化関係論(4) パーソナリティ研究(4) 臨床心理学(4)
精神分析学(2) 精神病理学(2) 人間科学特論(卒業研究)(2) 人間科学特論(芸術と人間)(2)
人間科学特論(現代日本人のライフスタイルⅠ)(2) 人間科学特論(現代日本人のライフスタイルⅡ)(2)
人間科学特論(都市生活と景観Ⅰ)(2) 人間科学特論(都市生活と景観Ⅱ)(2)
人間科学特論(キャリア発達論Ⅰ・Ⅱ)(各4) 人間科学特論(組織行動論Ⅰ・Ⅱ)(各4)
人間科学特論(米国の多民族社会と文化)(4) 人間科学特論(スポーツ社会心理学)(2)
人間科学特論(スポーツメディア論)(2) 人間科学演習(文献講読)(2)
人間科学研究会Ⅰ(2) 人間科学研究会Ⅱ(2) 卒業試験(卒業論文)

B 欄による申告方法（4 年生）【93 学則】

履修申告欄は A 欄・B 欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは下記のとおりです。

（1）通常は A 欄で履修申告してください。

（2）B 欄での履修申告は、変則的な履修をする場合に行います。B 欄分野番号（2 桁の数字）を使って、どの分野の単位として履修申告するかを、学則に決められた範囲内で自由に申告することができます。

ひとつの科目に対して複数の分野が選択できる科目の場合に使用します。

B 欄分野番号は、通常とは異なる変則的な履修を可能とします（自由科目の履修など）。

B 欄分野番号は学部により異なります。

【注意】

（1）学則および各専攻内規において許可されている分野以外での履修は一切認められません。

（2）ほとんどの場合、履修申告は A 欄で行います。例年、A 欄申告できる科目にもかかわらず、B 欄申告をしたことにより、誤った分野で履修してしまう例が散見されますので、くれぐれも注意してください。

（3）他専攻の科目を選択科目として履修申告する場合も A 欄申告になります。

B 欄による申告方法（4 年生【93 学則】）

全専攻共通事項

専攻	B欄 分野番号	分野コード	使用例
共通	04	02 - 02 - 03 総合教育科目 (系列外)	・必修語学科目を総合教育科目（系列外）として履修する場合
			・4 年生が全専攻共通科目を総合教育科目（系列外）として履修する場合
			・他学部設置の全学部共通外国語科目（三田）を総合教育科目（系列外）として履修する場合
			・国際センター、情報処理教育室、知的資産センターの科目を総合教育科目（系列外）として履修する場合
共通	05	02 - 02 - 05 総合教育科目 (系列外)	外国語教育研究センター設置独自科目を、総合教育科目（系列外）として履修する場合
共通	25	03 - ** - 51 03 - ** - 52 03 - ** - 53 選択科目	他学部設置の専門教育科目を文学部の専門教育科目（選択科目）として履修する場合 文学部他専攻設置の専門科目は A 欄申告してください。
共通	99	04 - 01 - 01 自由科目	・同一科目名を重複して履修する場合、片方を自由科目として申告（ただし、専攻内規により重複履修が認められている科目は除く）
			・自由科目として申告する場合

各専攻別内規により特に指示がある場合

専攻	B欄 分野番号	分野コード	使用例
哲学	25	03 - 01 - 51 選択科目	研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修
日本史	24	03 - 04 - 51 選択科目	専攻担任が指定する哲学倫理学特殊を履修する場合
東洋史	24	03 - 05 - 51 選択科目	研究会を二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修
国文学	24	03 - 08 - 51 選択科目	国文学・国文学史・国文学演習・国語学演習・日本語文法・漢文講読 同一科目名・同一担当者の科目を再履修する場合 国語学 A・B 担当者の異同に関わらず、再履修する場合 いずれも再々履修は自由科目
仏文学	25	03 - 12 - 51 選択科目	フランス文学と近代 ・ 、フランス文学と現代、フランス語学演習 ~ 、 フランス文学演習 ~ 、フランス語表現演習 ・ 一度に限り、選択科目として認める。

【2・3・4年生】

共通

(04・93学則)

学事 Web システム履修申告(マニュアル) 【2・3・4年生共通(04学則・93学則)】

1 学事 Web システムについて

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。パスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまで使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

ID (個人の学籍番号) と『学事 Web システムパスワード』が必要となります。

学内の PC を利用するための三田 ITC 発行パスワードとは異なります。

【利用機能・説明】 学事 Web システム URL http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/		利用期間	携帯利用
履修申告	4/14 8:30~終夜 4/15 終夜~15:00まで 4/17 8:30~15:00まで	限定	×
登録済科目確認	登録した履修中の登録科目が確認できます。履修申告後は、数日停止しますが 4/20 9:00より科目の確認を再開します 最終確認は、5月上旬に送付する履修申告科目確認表で、必ず行ってください。	常時	×
休講・補講情報	学外からも休講・補講の確認が可能です	常時	
パスワード変更 (学事 Web システム)	学事 Web システムのパスワードを忘れた場合、学事センターにて再交付します(注)	常時	
受付確認メールの送付先	学生証と一緒に配布されたメールアドレスがすでに登録されています アドレス変更	常時	×
学生呼出情報		常時	

【注意】

- ・学事 Web システムは、4月3日(月)から休講・補講情報の確認ができます。必ず4月7日(金)までにログインできることを確認してください。
- ・もし**学事 Web システムのパスワード**を忘れてしまった場合には、4月7日(金)までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください(2005年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2006年3月に送付した学業成績表に印字されています)。
- ・学内のパソコンを利用するための **Windows パスワード**を忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター(三田 ITC: 大学院棟地階)で変更申請の手続きを行ってください。
- ・学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、三田 ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名: 学籍番号

Windows アカウントのユーザー名: f*****

2 学事 Web システム操作上の注意

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの[戻る]及び[進む]ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新]ボタンを押してリロードしてください。

学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。

ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。

学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定の方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

3 学事 Web システムによる履修申告方法

学則および履修案内を熟読し、秋学期科目を含む本年度履修するすべての科目を正しく申告してください。期日までに履修申告をしない場合は、就学の意志がないものとして退学処分になることがありますので、十分気をつけてください。(学部学則第 188 条)

履修申告に誤りがあれば登録されず、履修調整の対象になりません。履修申告は原則 Web で、やむをえない場合のみ申告用紙で行ってください。履修申告は学事 Web システムによる申告あるいは履修申告用紙による申告の、どちらか一方で行ってください。

(1) 2006 年度の学事 Web システムによる履修申告日程および URL

日程 : 4 月 14 日 (金) 8 : 30 から終夜 15 日 (土) 終夜 ~ 15 : 00 まで 17 日 (月) 8 : 30 ~ 15 : 00 まで
学事 WEB システムの URL : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>
学事 WEB システムは、保守のため午前 4 : 00 から 1 時間ほど利用できません。

履修申告はブラウザのみです (携帯端末用メニューからは操作できません)

受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締切までに申告の修正を行ってください。

(2) 学事 Web システムによる履修申告のすすめ

学事 Web システムによる履修申告の大きなメリット

申告期間中であれば、いつでも、何回でも履修の修正が可能

申告期間中であればエントリーされている科目を画面で確認することが可能

(3) その他

操作方法については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> の画面内にマニュアルを用意してあります。また、「 4 . 学事 Web システムの操作説明 」を参照してください。

4 学事 Web システムの操作説明

1. 履修申告の方法

(1) **URL の入力** : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>
[ブラウザー用] を選択してください。

(学事 Web システムの操作方法 (特にログインできない場合などの解説) や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。)

(2) **[ログイン] ボタン**

[ログイン] ボタンを押してください。

この画面以降は、ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

(3) ログイン(ログイン画面)

「ID(学籍番号)」と、配布された「学事 WEB システム初期パスワード」を入力し、[ログイン]ボタンを押してください。画面がうまく表示されない場合は、前述の「ログインできない場合はこちら」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

(4) メールアドレスの変更(トップメニュー画面)

履修登録終了時に送信される「履修登録結果」の受信先メールアドレスの登録・変更ができます。

「履修登録結果」が確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください(携帯電話のメールアドレスは指定しないでください)。

新入生には、学生証と一緒に配布された「電子メールアドレス」が既に登録されていますので、登録は不要です。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所(再入力欄にも同じものを入力する)入力し、[登録]ボタンを押してください。

(5) 履修申告メイン画面(トップメニュー画面)

[履修申告]ボタンを押して、「WEBによる履修申告上の注意」を選択し、必ず注意文を熟読してから、[履修申告メイン画面へ進む]ボタンを押してください。

(6) 科目の選択(履修申告メイン画面)

以下の2通りの方法により科目の選択ができます。

時間割から科目を選択したいとき

[時間割から選択]ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、ボタンを押してください(初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が指定されています)。

科目選択画面(時間割選択)が表示されますので、曜日時限ごとに科目および分野をドロップダウンリストから選択し、最後に[選択を終了]を押してください。

登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択]ボタンを押してください。科目選択画面(登録番号)が表示されますので、履修書類配布時に配布された時間割表記載の5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認]ボタンを押し、科目情報欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認した上で、最後に[選択を終了]を押してください。

いずれの方法も、分野(A・B欄)の選択はマークシート用紙による記入と同様ですので、履修案内等を参照してください。

B欄申告は変則的な履修をする場合のみ使用し、ほとんどの場合はA欄申告できます。「B欄による申告方法」(04学則:P.76、93学則:P.129)をよく読み、正しく申告してください。

(7) 科目の確認

選択した科目が、一覧表示されますので確認してください(選択直後は状態欄に「未登録」として表示されます)。

(8) 科目の取消(履修申告メイン画面)

取り消したい科目の登録No.の左側にチェックをつけ、[選択の取消]ボタンを押してください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください(登録ボタンを押さないと削除は実行されません)。

(9) 登録科目の確認(履修申告メイン画面)

選択されている科目を確認したら、画面一番下の[登録]ボタンを押してください。(6)・(8)で行った内容はこの[登録]ボタンを押すまで有効になりません。

選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、結果が表示されます。

エラーメッセージの詳細は、「履修申告メイン画面」のSTEP2の横にある[エラーの詳細説明]を参照してください。

エラーがある場合には、状態欄に「保留中」と表示される場合があります。

「保留中」で残っている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。

この画面を控えとしてプリントアウトしてください。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンを押し、(6)からの手順を再び行ってください。登録内容に間違いがなければ、[履修申告を終了する] ボタンを押ししてください。

ここで web ブラウザーを終了しないでください(ブラウザーの右上の×印をクリックしないでください)。

(10) ログアウト(トップメニュー画面)

(4)で登録されているメールアドレス宛に、履修申告の受付番号と「履修登録結果」が送信されます。受付番号は必ず各自で控えてください。

[ログアウト] ボタンを押し、ログアウトしてください。

2 登録済科目確認

履修申告で登録された科目は、以後ある一定期間において Web システムから再度確認することができます。

(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。http://www.gakuji.keio.ac.jp/)

前述4の(4)(トップメニュー画面)の画面から、[登録済科目確認] ボタンを押し、履修申告科目を確認してください。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

3 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は通常講義と異なり、学事 Web システムの休講情報は対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの掲示板で確認してください。

【ブラウザー編】

(1) 休講・補講情報検索条件設定画面

前述4の(4)(トップメニュー画面)の画面から [休講・補講情報] ボタンを押ししてください。

(2) 検索条件設定

自分の履修中科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索対象を選択してください、また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンを押ししてください。

(3) 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講・補講が取り消された(したがって通常通り実施する)科目となりますので注意してください。確認後は[ログアウト] ボタンを押し、ログアウトしてください。

【携帯端末編】

(1) URL の入力

学事 Web システム URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力(詳しくは携帯電話の説明書をお読みください)し、前述4の(1)の画面上で [携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記、学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくとお便利です(詳しくは携帯電話の説明書をお読みください)。

(2) サーバーの選択 ([i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください)

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] を選択してください。選択は任意です。

(3) ログイン(学事情報ページ)

学籍番号と学事 Web システムパスワードを入力し、[ログイン] ボタンを押ししてください。

(4) 休講・補講情報の選択

この画面から、[休講情報] ボタンを押ししてください。補講情報の確認やパスワードの変更もこの画面から

できます。(後述 4 を参照)

(5) 検索条件設定と休講情報の確認

自分の履修中科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

4 パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを再設定することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

(1) トップメニュー画面

前述 4 の(4)(トップメニュー画面)の画面から、[パスワード変更] ボタンを押してください。

(2) パスワードの変更

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所(再入力欄にも同じものを入力する)入力後、[パスワード変更] ボタンを押してください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください(大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

5 履修申告用紙による方法

用紙配布期間 4 月 10 日(月)・11 日(火) 8:45~16:45 学事センター

用紙提出日 4 月 14 日(金) 8:45~16:45 学事センター前受付ボックス

(1) 申告用紙の取扱い

今年度履修する科目をすべて記入します。

登録番号は、時間割に記載されている 5 桁の数字です。科目名・教員名・番号が正しく記入されても、マークを間違えると登録されません。

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、無効マーク欄を塗りつぶして無効にした上で、改めて正しい科目を記入してください。

履修申告用紙の記入欄が足りない場合は、学事センター窓口に申し出てください。

提出期限外の受付は一切できません。

履修申告用紙提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また履修申告用紙の閲覧、履修科目の照会にも応じません。

履修申告用紙の控え(コピー)を必ず手元に残すようにしてください。

(学事 Web システムによる申告であれば、履修の修正と確認が可能です。詳細は「学事 Web システムによる方法」を参照してください。)

(2) 履修申告内容の確認とエラー修正申告

履修申告用紙提出後、科目登録の確認を 5 月上旬に行います。学事センターから履修申告科目確認表を郵送します。

手元に残した履修申告用紙の控えと科目名、担当者名、曜日、時限、分野等を必ず確認してください。

履修の確認はエラー修正期間(5 月上旬を予定)までに行い、修正すべき点または疑問点があれば、エラー修正期間に必ず申し出なければなりません。エラー修正期間以外の修正は受け付けません。履修エラーが残っている場合は、進級条件や卒業要件に関わらず全て削除される場合があります。

エラー修正申告時は、氏名・学籍番号と修正申告する科目の情報のみを記入してください。

確認を怠ったために生じた申告漏れ、科目の間違いなどは各自の責任となりますので充分注意してください。

